

HP Operations Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure

HP Operations Manager for Windows®、HP-UX、Linux、Solaris向け
ソフトウェアバージョン: 11.10

ユーザーガイド

ドキュメントリリース日: 2012 年 8 月

ソフトウェアリリース日: 2012 年 8 月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

HP Confidential© Copyright 2008-2012 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。

Microsoft® および Windows® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの取得登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>(英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [**New users - please register**] リンクをクリックします。

適切な製品 サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com>

HPソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HPソフトウェアサポートWebサイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポートケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDの登録は、次の場所で行います。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>(英語サイト)

アクセスレベルに関する詳細は、以下のWebサイトにアクセスしてください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

目次

ユーザーガイド.....	1
目次.....	5
このドキュメントで使用する名称.....	11
はじめに.....	12
仮想化テクノロジー用のVI SPI 監視ソリューション.....	12
HPVM の監視.....	12
IBM AIX LPAR および WPAR の監視.....	13
Microsoft Hyper-V サーバーの監視.....	15
Oracle Solaris ゾーンの監視.....	16
VMware ESX/ESXi サーバーの監視.....	17
KVM または Xen の監視.....	18
Virtualization Infrastructure SPI のコンポーネント.....	20
HPOM for Windows のマップビュー.....	20
HPOM for UNIX のマップビュー.....	21
ツール.....	22
ポリシー.....	22
グラフ.....	23
レポート.....	23
作業の開始.....	26
HPOM for Windows の場合.....	26
VI SPI の起動.....	26
仮想化インフラストラクチャの計画.....	26
VI SPI ポリシーをインストールするための前提条件.....	27
検出ポリシーの実行.....	29
Quick Start ポリシーのHPOM for Windows からの配布.....	29
HPOM for UNIX の場合.....	30
仮想化されたインフラストラクチャでの検出ポリシーの実行.....	30
Quick Start ポリシーのHPOM for UNIX からの配布.....	31

レポートとグラフの表示.....	31
HP Performance Manager と HPOM for UNIX との統合.....	31
SPI のアップグレード後のレポートの更新.....	32
レポート用のデータ収集.....	32
Virtualization Infrastructure SPI のポリシーとツール.....	33
Virtualization Infrastructure SPI のポリシー.....	33
自動検出ポリシー.....	34
可用性ポリシー.....	34
Performance Agent プロセス監視ポリシー.....	35
HPVM ゲスト用の State Monitor ポリシー.....	35
IBM フレームと LPAR 用の State Monitor ポリシー.....	36
IBM WPAR 用の State Monitor ポリシー.....	38
Microsoft Hyper-V ゲスト用の State Monitor ポリシー.....	39
Oracle Solaris ゾーン用の State Monitor ポリシー.....	41
VMware ESX または ESXi サーバー用の State Monitor ポリシー.....	42
KVM または Xen ゲスト用の State Monitor ポリシー.....	43
Microsoft Hyper-V 用の Host Service Monitor ポリシー.....	44
HPVM 用の Process Monitoring ポリシー.....	45
Oracle Solaris ゾーン用の Process Monitoring ポリシー.....	45
IBM HMC 用の Data Collector ポリシー.....	46
容量ポリシー.....	47
VMware ESX または ESXi サーバー用の VMFS Utilization Monitor ポリシー.....	47
VMware ESX または ESXi サーバー用の Memory Usage Monitor ポリシー.....	48
VMware ESX または ESXi サーバー用の Host Disk Usage Monitor ポリシー.....	51
イベント監視ポリシー.....	53
VMware ESX または ESXi サーバー用のイベント タイプポリシー.....	53
VMware ESX または ESXi サーバー用のイベント監視ポリシー.....	54
ハードウェア監視ポリシー.....	55
VMware データセンター用の Hardware Data Collector ポリシー.....	55
VMware ESX または ESXi サーバー用の Host Ethernet Port Health Monitor	56

VMware ESX または ESXi サーバー用の Host Sensor Health Monitor ポリシー.....	57
VMware ESX または ESXi サーバー用の Host Chassis Health Monitor ポリシー.....	58
VMware ESX または ESXi サーバー用の Host Processor Health Monitor ポリシー.....	58
VMware ESX または ESXi サーバー用の Host Fan Health Monitor ポリシー.....	59
VMware ESX または ESXi サーバー用の Host Physical Memory Health Monitor ポリシー.....	60
ログ監視ポリシー.....	61
イメージ管理 サービス管理 ログファイル監視ポリシー.....	61
Microsoft Hyper-V 用のイメージ管理 サービス動作 ログファイル監視ポリシー.....	62
Microsoft Hyper-V 用のハイパーバイザー管理 ログファイル監視ポリシー.....	62
Microsoft Hyper-V 用のハイパーバイザー動作 ログファイル監視ポリシー.....	62
Microsoft Hyper-V 用の VMMS 管理 ログファイル監視ポリシー.....	63
Microsoft Hyper-V 用の VMMS 動作 ログファイル監視ポリシー.....	64
Microsoft Hyper-V 用のハイパーバイザー ワーカー管理 ログファイル監視ポリシー.....	66
Microsoft Hyper-V 用のハイパーバイザー ワーカー動作 ログファイル監視ポリシー.....	67
パフォーマンスポリシー.....	68
HPVM 用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー.....	68
IBM LPAR 用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー.....	69
Microsoft Hyper-V 用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー.....	70
Oracle Solaris ゾーン用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー.....	71
VMware ESX または ESXi サーバー用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー.....	73
VMware ESX または ESXi サーバー用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー.....	74
VMware ESX または ESXi サーバー用の仮想マシンによる Host CPU Utilization Monitor ポリシー.....	75
IBM LPAR 用の Total Frame CPU Utilization Monitor ポリシー.....	77
HPVM 用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー.....	79
IBM LPAR 用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー.....	81
IBM WPAR 用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー.....	84

Microsoft Hyper-V 用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー.....	86
Oracle Solaris ゾーン用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー.....	88
VMware ESX または ESXi サーバー用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー.....	90
IBM LPAR 用の Memory Entitlement Utilization Monitor ポリシー.....	92
IBM WPAR 用の Memory Entitlement Utilization Monitor ポリシー.....	94
Oracle Solaris ゾーン用の Memory Entitlement Utilization Monitor ポリシー.....	96
VMware ESX または ESXi サーバー用の Network Interface In-Byte Rate Monitor ポリシー.....	98
VMware ESX または ESXi サーバー用の Network Interface Out-Byte Rate Monitor ポリシー.....	100
VMware ESX または ESXi サーバー用の Network Interface Card Monitor ポリシー.....	102
VMware ESX または ESXi サーバー用の Memory Performance Monitor ポリシー.....	104
VMware ESX または ESXi サーバー用の Host Memory Health Monitor ポリシー.....	105
VMware ESX または ESXi サーバー用の仮想マシンによる Host Memory Utilization Monitor ポリシー.....	106
VMware ESX または ESXi サーバー用の仮想マシンによる Memory Utilization Monitor ポリシー.....	109
VMware ESX または ESXi サーバー用の仮想マシンによる Total Memory Utilization Monitor ポリシー.....	110
IBM LPAR 用の Frame Memory Utilization Monitor ポリシー.....	111
Oracle Solaris ゾーン用の Physical Memory Utilization Monitor ポリシー.....	112
Oracle Solaris ゾーン用の Swap Utilization Monitor ポリシー.....	113
VMware データセンター用の Data Collector ポリシー.....	116
VMware データセンター用の CPU Utilization Monitor ポリシー.....	116
VMware データセンター用の Memory Utilization Monitor ポリシー.....	117
VMware データセンター用の Datastore Utilization Monitor ポリシー.....	118
VMware ESX または ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー.....	119
VMware ESX または ESXi サーバー用の VMFS Read Latency Monitor ポリシー.....	121
VMware ESX または ESXi サーバー用の VMFS Write Latency Monitor ポリシー.....	122

VMware ESX または ESXi サーバー用の Disk Error Monitor ポリシー.....	123
VMware ESX または ESXi サーバー用の Disk Throughput Monitor ポリシー.....	124
VMware ESX または ESXi サーバー用の Vifp Target Check ポリシー.....	126
KVM または Xen 用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー.....	126
KVM または Xen 用の Guest CPU Utilization Monitor ポリシー.....	127
KVM または Xen 用の Physical Disk Byte Rate Baseline ポリシー.....	128
KVM または Xen 用の Net Byte Rate Baseline ポリシー.....	131
KVM または Xen 用の Guest Total CPU Utilization Monitor ポリシー.....	133
KVM または Xen 用の Memory Utilization Monitor ポリシー.....	135
KVM または Xen 用の Memory Performance Monitor ポリシー.....	137
KVM または Xen 用の Memory Usage ポリシー.....	138
HPOM for Windows 管理サーバーからの VI SPI ポリシーの配布.....	140
HPOM for UNIX 管理サーバーからの VI SPI ポリシーの配布.....	141
Virtualization Infrastructure SPI のツール.....	142
ホスト情報ツール.....	143
ゲスト情報ツール.....	143
中断されている仮想マシン一覧ツール.....	143
仮想マシン一覧ツール.....	143
リソースプール情報ツール.....	143
VMware vMA の全体的ステータスツール.....	144
Virtualization Infrastructure SPI のレポートとグラフ.....	146
Virtualization Infrastructure SPI のレポート.....	146
Virtualization Infrastructure SPI のグラフ.....	150
トラブルシューティング.....	154
検出.....	154
ポリシー.....	156
VI SPI スクリプト.....	161
HP Operations Agent.....	162
A) Virtualization Infrastructure SPI のメトリック.....	164
VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック.....	164
VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック.....	165

VI-VMwareHardwareHealthCollector_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック.....	166
VI-IBMHMCDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック.....	169
ESX、ESXi、または vCenter で動作するポリシー.....	170
ESX/ESXi または vCenter 用にサポートされているその他の監視機能.....	173

このドキュメントで使用する名称

このドキュメントでは、以下の名称を使用します。

名称	説明
HPOM for UNIX	HPOM for UNIX は、HPOM on HP-UX、HPOM on Linux、および HPOM on Solaris の総称としてドキュメントで使用されます。 オペレーティングシステムを区別する必要がある場合は、次の名称を使用します。 <ul style="list-style-type: none">• HPOM on HP-UX• HPOM on Linux• HPOM on Solaris
Infrastructure SPIs	HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure を示します。このソフトウェアスイートには、以下の3つの Smart Plug-in が含まれています。 <ul style="list-style-type: none">• HP Operations Smart Plug-in for Systems Infrastructure• HP Operations Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure• HP Operations Smart Plug-in for Cluster Infrastructure
SI SPI	HP Operations Smart Plug-in for Systems Infrastructure
VI SPI	HP Operations Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure
CI SPI	HP Operations Smart Plug-in for Cluster Infrastructure

はじめに

HP Operations Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure (VI SPI) を使用すると、HP Operations Manager (HPOM) コンソールから、さまざまなテクノロジーを使った仮想インフラストラクチャを管理および監視できます。VI SPI は、独自の監視機能を HPOM に追加しています。HPOM の詳細は、『HP Operations Manager for UNIX コンセプト ガイド』を参照してください。

VI SPI は、ホスト マシン、仮想マシン、リソースプールのパフォーマンス、容量、使用率、可用性、リソース消費量を監視します。

VI SPI でサポートされているベンダーのバージョンの詳細は、『HP Operations Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure リリースノート』を参照してください。

VI SPI は、HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure スイート (Infrastructure SPIs) に含まれています。このスイートには他にも、Systems Infrastructure SPI (SI SPI)、Cluster Infrastructure Smart Plug-ins (CI SPI)、レポート パック、グラフ パックなどが含まれています。Infrastructure SPIs メディアに収録されている他のコンポーネントをインストールする場合は、SI SPI をインストールする必要があります。

注: HP Reporter 4.0 は 64 ビット版でサポートされます。

VI SPI は、HP Performance Manager、HP Performance Agent、HP Reporter など、他の HPOM 製品とも統合されています。

仮想化テクノロジー用の VI SPI 監視ソリューション

Virtualization Infrastructure Smart Plug-ins 11.10 は、次のベンダーの5つの仮想化テクノロジーをサポートしています。

- HP Integrity Virtual Machine (HPVM)
- IBM LPAR および WPAR
- Microsoft Hyper-V
- Oracle Solaris ゾーン
- VMware ESX/ESXi サーバー
- カーネルベースの仮想マシン (KVM) または Xen

これらのテクノロジーを監視するには、次のソフトウェアがノード (ホスト/監視システム) にインストールされていることを確認してください。

- HP Operations Agent 11.xx
- (オプション) グラフを表示する場合、HP Performance Manager 8.20 (以上)
- (オプション) レポートを表示する場合、HP Reporter 3.80 (以上)

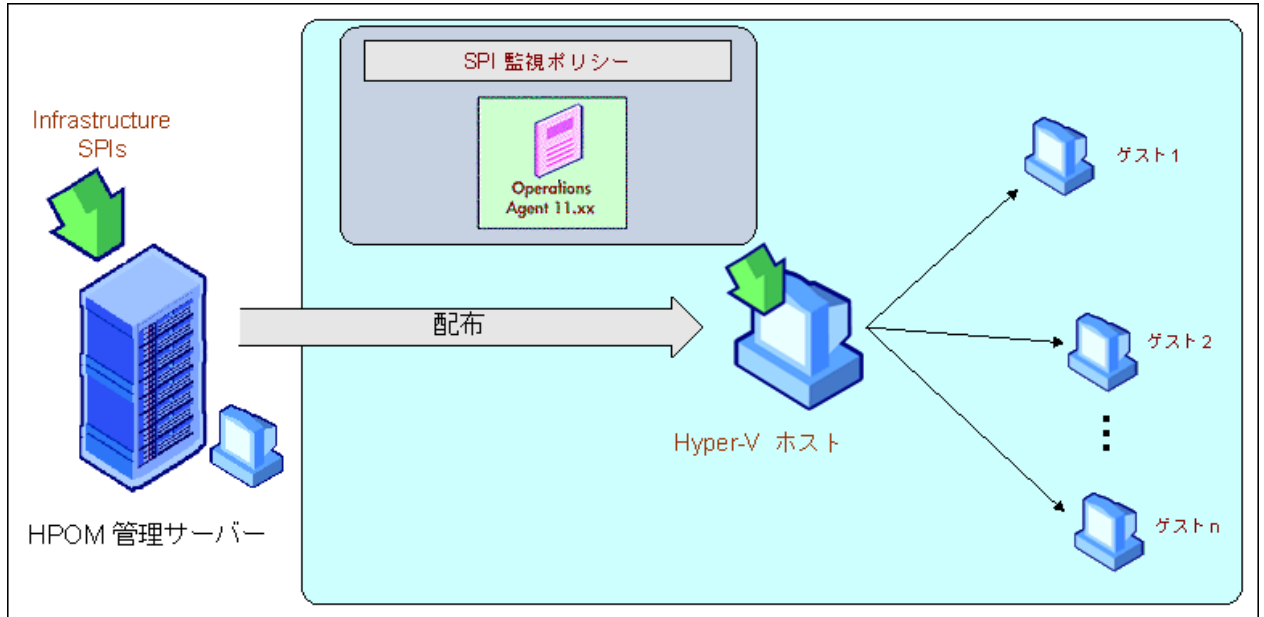
HPVM の監視

HPVM 環境用の VI SPI は、HPVM ホストに配布する必要があります。VI SPI を使用すると、HPVM ホストとそのホストで実行されているゲストマシンの可用性とパフォーマンスを監視できます。

VI SPI は、HPVM 固有のポリシーに設定されているしきい値に基づいて、HPOM コンソールにアラートメッセージを送信します。

HP Operations Agent 11.xx および VI SPI は、HPVM ホストに配布されます。

次の図に、HPVM ホストに VI SPI が配布されている一般的な HPVM 環境を示します。



IBM AIX LPAR および WPAR の監視

IBM AIX LPAR 用の VI SPI は、フレーム内の LPAR に配布されます。この LPAR は、フレーム内の他の LPAR を監視するため、監視 LPAR と呼ぶことができます。各フレームには、少なくとも 1 つの監視 LPAR が含まれている必要があります。ハードウェア監視コンソール (HMC) 環境のすべての LPAR とフレームの可用性を監視する場合は、設定 LPAR として監視 LPAR を 1 つ作成します。

VI SPI は、IBM フレーム、LPAR、および WPAR 固有のポリシーに設定されているしきい値に基づいて、HPOM コンソールにアラートを送信します。

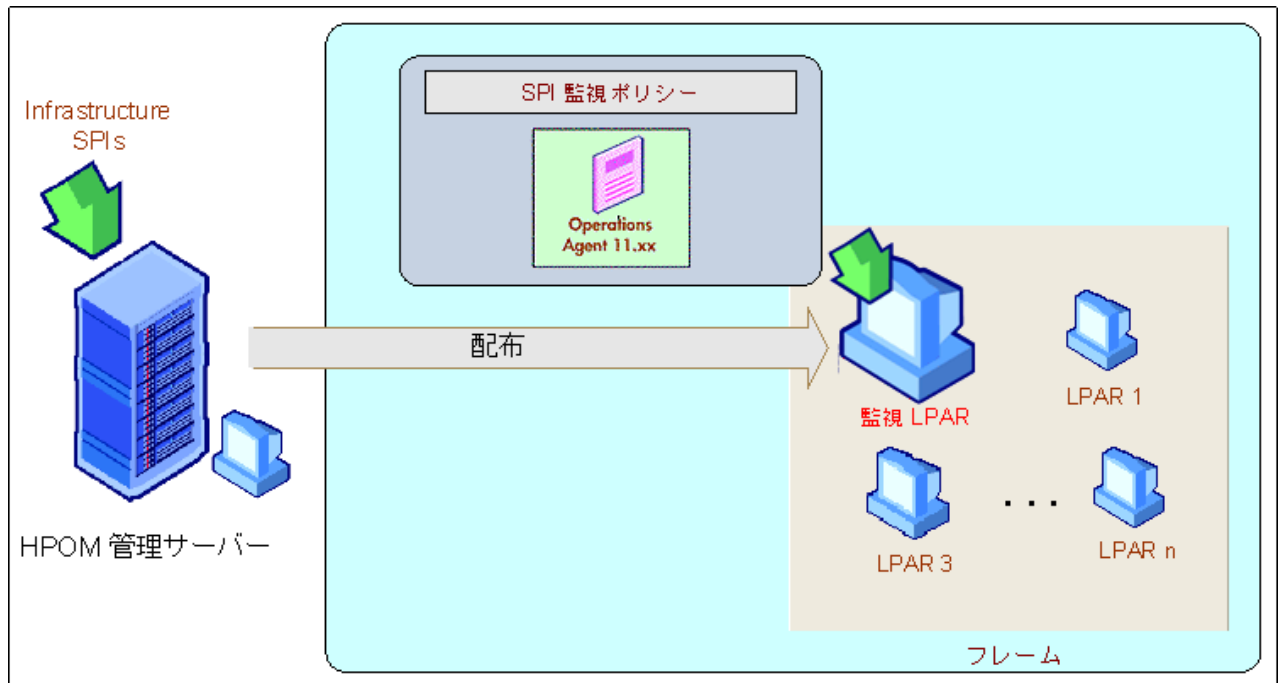
フレームと接続されている HMC を監視するように、VI SPI を設定することもできます。

シナリオ 1: LPAR、フレーム、および WPAR の監視

監視 LPAR に配布された VI SPI は、監視 LPAR の可用性とパフォーマンスを監視します。この VI SPI を使用して、フレーム、フレーム内の他の LPAR、および監視 LPAR で実行されている WPAR の可用性とパフォーマンスも監視できます (VI SPI は監視 LPAR で作成された WPAR のみを監視します)。

HP Operations Agent 11.xx および VI SPI は、監視 LPAR に配布されます。

次の図に、フレーム内の LPAR に監視ソリューションが配布されている一般的な AIX LPAR 環境を示します。



シナリオ2: LPAR、フレーム、WPAR、およびHMCの監視

VI SPIを設定して、フレームに接続されているHMCから(LPARとフレーム)の関連状態および設定メトリックを収集することができます。HMCから収集された情報は、レポートとグラフに使用されます。また状態の監視にも使用されます。

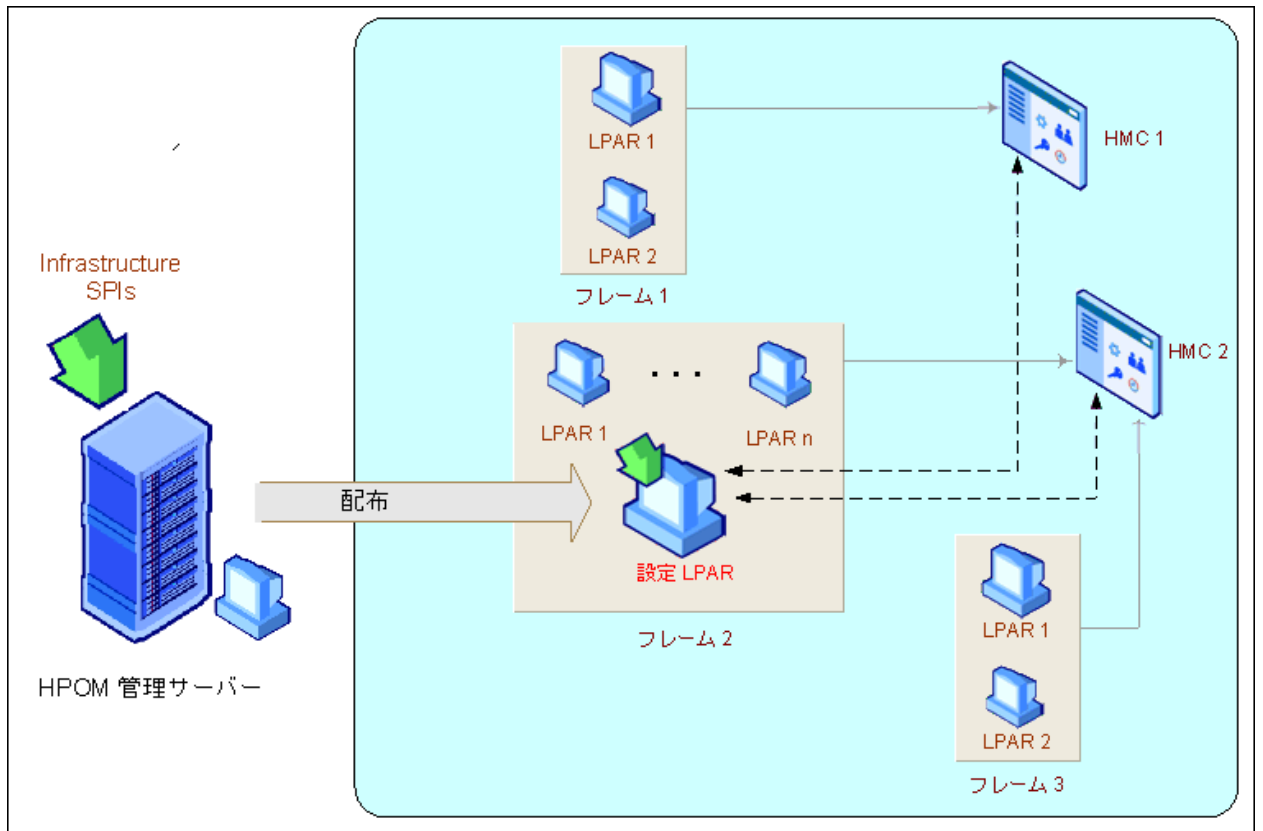
VI SPIは、HMCが接続されているLPARに配布されます。このLPARは設定LPARと呼ぶことができます。設定LPARが監視する対象は次のとおりです。

- 設定LPAR内で動作するWPAR。
- HMCに接続されているすべてのフレームとLPARの状態。
- HMCに接続されているすべてのフレームとLPARの構成情報。

VI SPIの配布後、HMCに接続されている監視/設定LPAR上でgetSSHAuthentication.plスクリプトを実行します。このスクリプトは、LPARの/var/opt/OV/bin/instrumentationディレクトリにあります。

getSSHAuthentication.plスクリプトを使用すると、パスワードを使用しない認証によってHMCの設定情報にアクセスできます。

次の図に、さまざまなフレームがHMCによって管理される一般的な設定を示します。これらのHMCもまた、設定LPARに接続されます。



Microsoft Hyper-V サーバーの監視

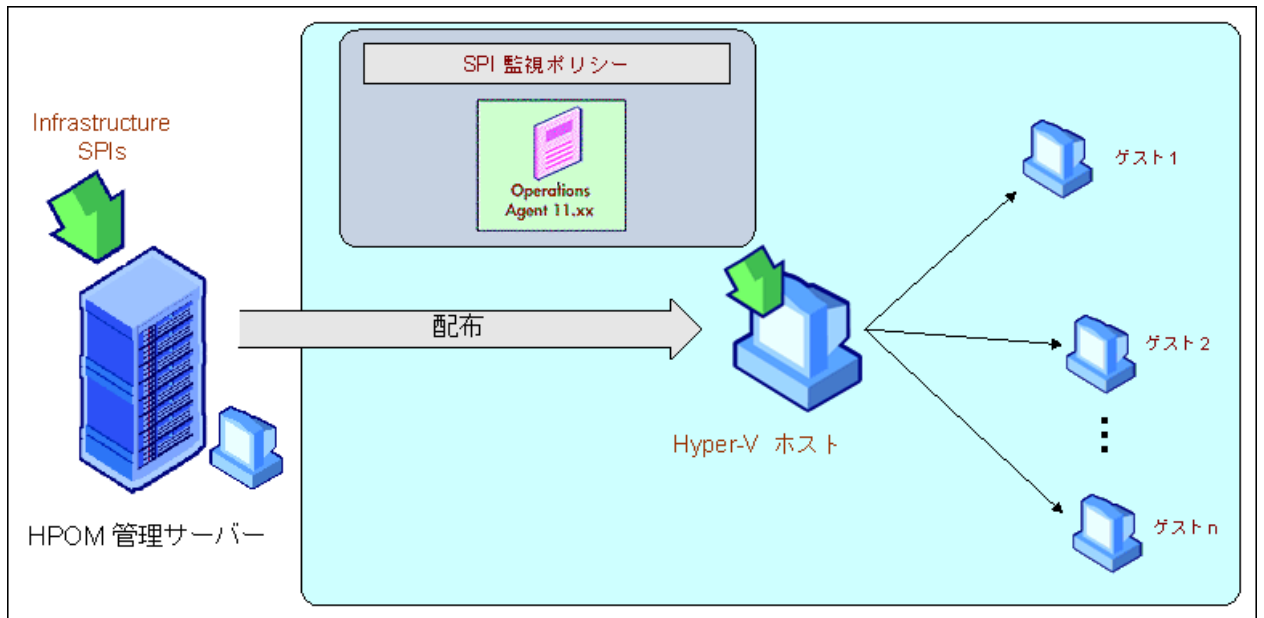
Hyper-V 環境用の VI SPI は、Hyper-V ホストに配布する必要があります。この VI SPI を使用すると、次の操作を実行できます。

- Hyper-V ホスト、およびこのホストで実行されているゲストシステムの可用性とパフォーマンスの監視。
- イベントの監視。

VI SPI は、Hyper-V 固有のポリシーに設定されているしきい値に基づいて、HPOM コンソールにアラートメッセージを送信します。

HP Operations Agent 11.xx および VI SPI は、Hyper-V ホストに配布されます。

次の図に、Hyper-V ホストに VI SPI が配布されている一般的な Hyper-V 環境を示します。



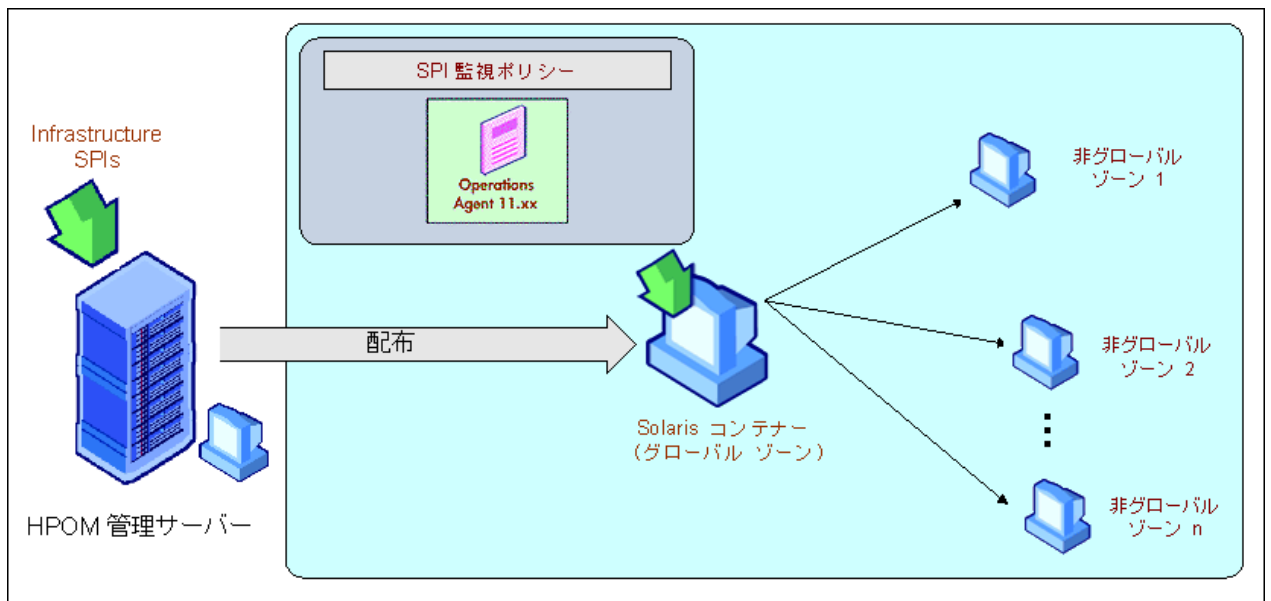
Oracle Solaris ゾーンの監視

Solaris ゾーン環境用の VI SPI は、Solaris グローバルゾーンに配布する必要があります。VI SPI を使用すると、グローバルゾーンとそのゾーンで実行されているローカルゾーンの可用性とパフォーマンスを監視できます。

VI SPI は、Oracle Solaris ゾーン固有のポリシーに設定されているしきい値に基づいて、HPOM コンソールにアラートメッセージを送信します。

HP Operations Agent 11.xx および VI SPI は、Solaris コンテナにも配布されます。

次の図に、グローバルゾーンに VI SPI が配布されている一般的な Solaris ゾーン環境を示します。



VMware ESX/ESXi サーバーの監視

VMware 環境用の VI SPI は、vMA マシンに配布する必要があります。この VI SPI を使用すると、次の操作を実行できます。

- 複数の VMware ESX/ESXi ホスト、ゲスト、およびこのホストに関連付けられているリソースプールの可用性と容量情報の収集。
- VMware ESX/ESXi ホストとゲストのパフォーマンスの監視。
- イベントの監視。

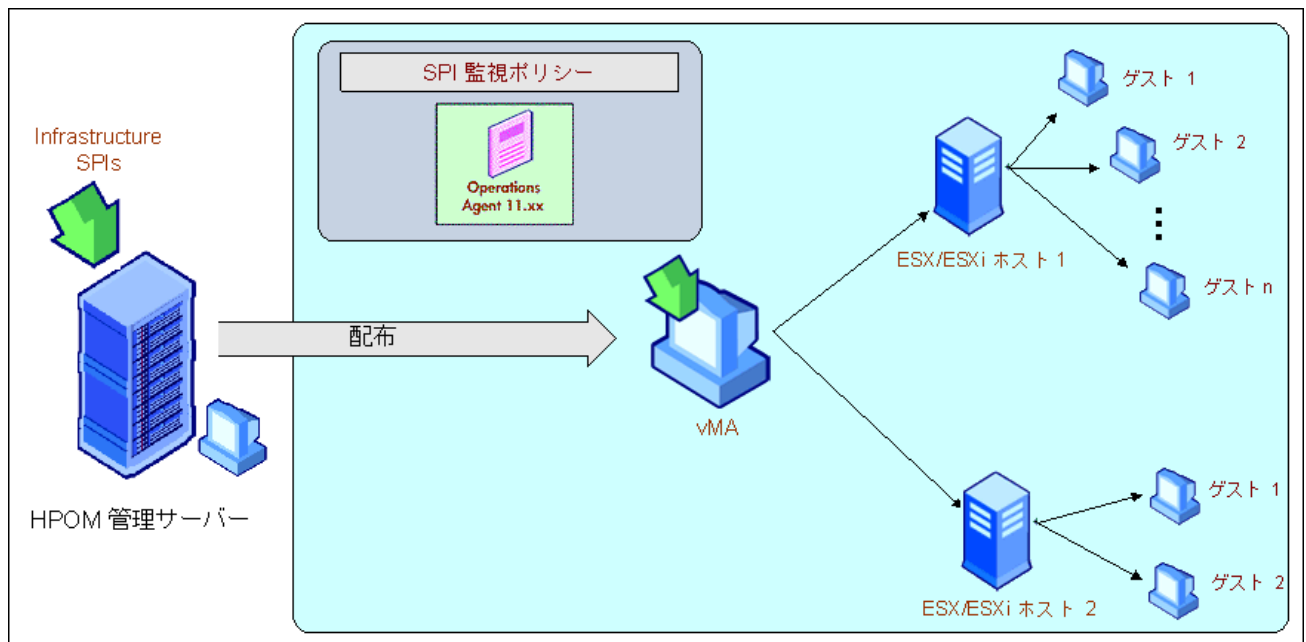
HP Operations Agent 11.xx および VI SPI は、VMware ESX/ESXi ホストでホストされている仮想マシンである vMA に配布されます。これは、ESX/ESXi サービスコンソールで実行されるほとんどのタスクの実行に使用されます。

vMA は、VMware ESX/ESXi ホストおよびゲストを管理するスクリプトまたはエージェントの実行に使用される標準 VM です。vMA を 1 つインストールすることにより、複数の VMware ESX/ESXi ホスト、関連付けられたゲスト、リソースプールのイベントとパフォーマンスデータを管理できます。

VI SPI は、VMware 固有のポリシーに設定されているしきい値に基づいて、HPOM コンソールにアラートメッセージを送信します。

注: VI SPI では、VMware ESX/ESXi ホストおよびゲストを監視するために、VMware SDK は必要ありません。VMware SDK パッケージは、vMA を作成すると vMA 上で使用可能になります。したがって、vMA のインストールでエラーが発生した場合を除き、個別にインストールする必要はありません。

次の図に、vMA に VI SPI が配布されている一般的な VMware 環境を示します。



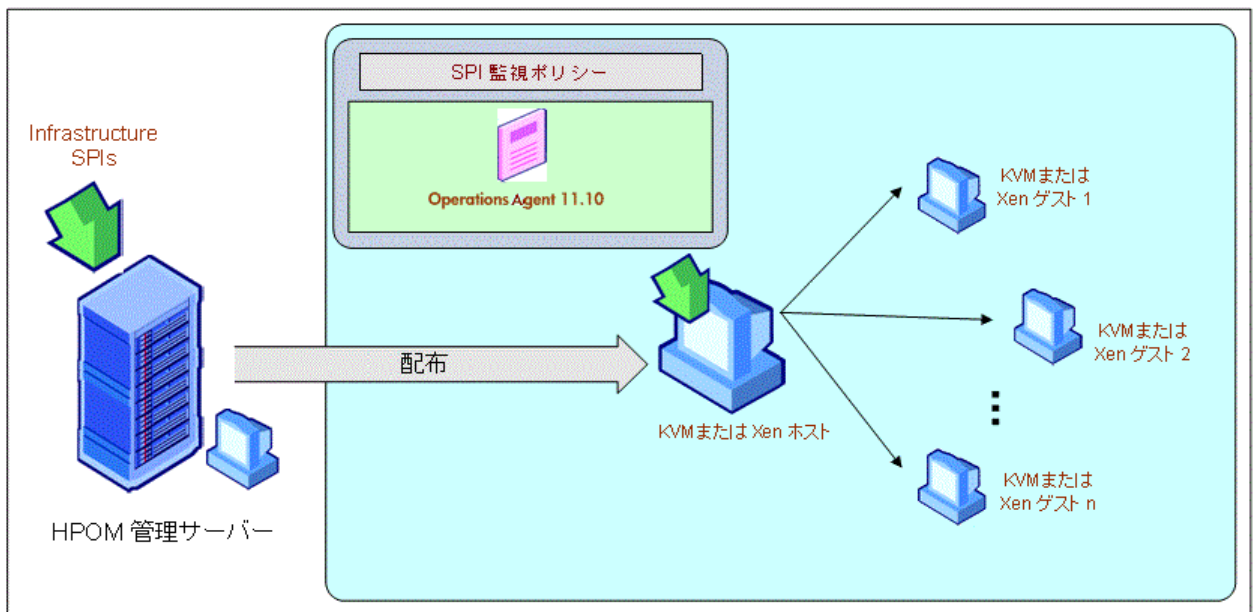
KVM または Xen の監視

KVM または Xen 環境用の VI SPI は、KVM または Xen ホストに配布する必要があります。VI SPI を使用すると、KVM または Xen ホストとそのホストで実行されているゲスト マシンの可用性とパフォーマンスを監視できます。

VI SPI は、KVM または Xen 固有のポリシーに設定されているしきい値に基づいて、HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

HP Operations Agent 11.10 および VI SPI は、KVM または Xen ホストに配布されます。

次の図に、KVM または Xen ホストに VI SPI が配布されている一般的な KVM または Xen 環境を示します。



Virtualization Infrastructure SPI のコンポーネント

Virtualization Infrastructure SPI は、ホスト サーバー、仮想マシン、リソースプールの動作、可用性、パフォーマンスを監視するための設定済みポリシーとツールを提供します。これらのポリシーとツールを使用するほか、検出を行うことで、仮想 IT インフラストラクチャの重要な要素をすばやくコントロールできます。

HPOM for Windows のマップ ビュー

VI SPI のインストール後、「AutoDeployConfig」をオンにして HPOM サーバーにノードを追加すると、そのノードに Systems Infrastructure SPI (SI SPI) service discovery ポリシーが自動的に配布されます。

注: VI SPI をインストールする前にノードを追加した場合、SI SPI Service Discovery を手動でノードに配布する必要があります。

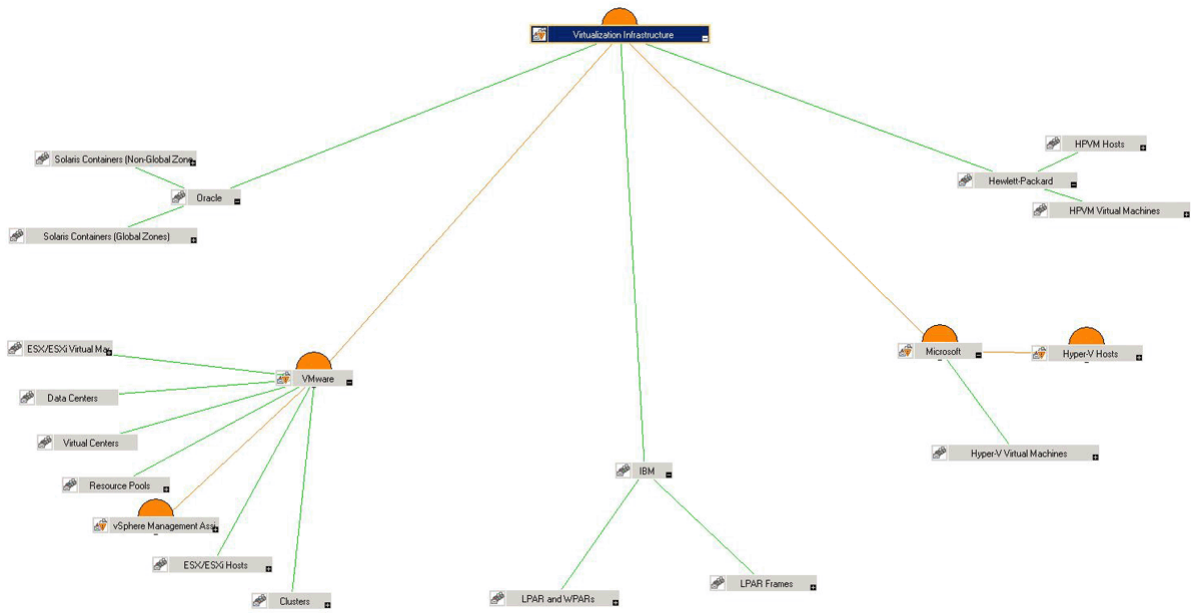
検出ポリシーによってノードが特定される前に、『HP Operations Infrastructure Smart Plug-ins インストールガイド』の「VI SPI の起動」を読んでください。この項では、VI SPI ポリシーを配布するための前提条件について説明しています。

Discovery ポリシーによってノードが HPVM ホスト、Solaris コンテナ、AIX フレーム、VMware vMA、または Hyper-V ホストとして特定されると、VI SPI Discovery ポリシーの自動配布がトリガされます。VI SPI Discovery により、検出された情報が HPOM サービス領域に追加されます。この方法を使用して、管理ノードの VI SPI マップビューが入力されます。

マップビューには、インフラストラクチャ環境のリアルタイムな状態が表示されます。マップビューを表示するには、コンソールツリーで **[サービス]** を選択し、**[Virtualization Infrastructure]** をクリックします。マップビューには、インフラストラクチャ環境の仮想化インフラストラクチャまたはノード階層の構造的なビューがグラフィカルに表示されます。

サービスビューに、検出された要素がグラフィカルに表示されることで、仮想化されたシステムの問題を迅速に診断できます。

- メッセージブラウザに表示された問題の根本原因を表示するには、**[表示]** → **[障害原因]** をクリックします。
- 問題の影響を受けているサービスとシステムコンポーネントを表示するには、**[表示]** → **[影響範囲]** をクリックします。



マップのアイコンや線は色分けされており、マップの項目の重要度レベルやステータス伝達が表示されます。マップビューでは、ノードまたはサービス階層の問題が発生しているレベルにドリルダウンできます。

HPOM for UNIX のマップ ビュー

検出ポリシーによってノードが特定される前に、『HP Operations Infrastructure Smart Plug-ins インストールガイド』の「VI SPI の起動」を読んでください。この項では、VI SPI ポリシーを配布するための前提条件について説明しています。

マップビューでは、仮想インフラストラクチャ環境のリアルタイムな状態が表示されます。管理サーバーで以下のコマンドを実行すると、HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、Solaris) の操作インターフェイスでオペレータがサービスビューを表示できるようになります。

```
opcservice -assign <オペレータ名> AutoDiscovery
```

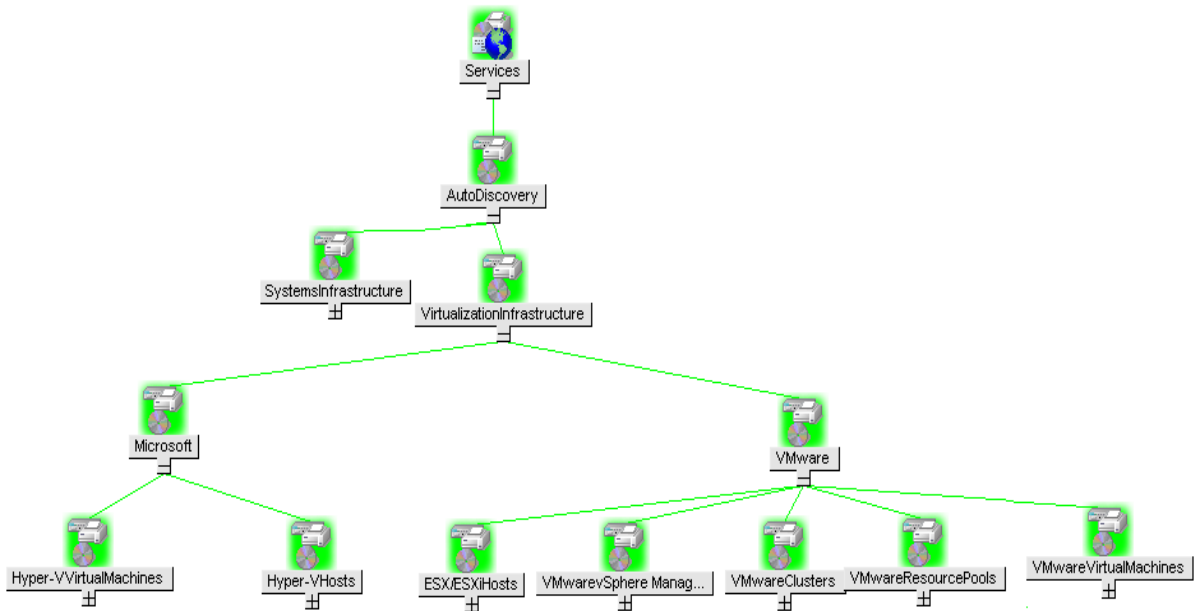
このインスタンスで、<オペレータ名>には、サービスを割り当てるオペレータを指定します (例: opc_adm、opc_op)。

Service Discovery ポリシーによってポリシーがノードに自動的に配布されることはありません。手動でポリシーを配布できます。

マップビューでは、仮想インフラストラクチャ環境のリアルタイムな状態が表示されます。

マップを表示するには、次のステップに従います。

1. HPOM の操作インターフェイスを起動します。
2. ユーザー名とパスワードを使用してログオンします。
3. [サービス] → [Virtualization Infrastructure] → [グラフの表示] を選択し、マップビューを表示します。



マップビューには、インフラストラクチャ環境の Virtualization Infrastructure 階層の構造的なビューがグラフィカルに表示されます。

ツール

Virtualization Infrastructure SPI のツールにアクセスするには、**[ツール]** → **[Virtualization Infrastructure]** を選択します。これらのツールでは、特定の管理ノードに関して収集したデータが表示されます。Virtualization Infrastructure SPI のツールの詳細は、「[Virtualization Infrastructure SPI のツール](#)」(142ページ)を参照してください。

ポリシー

HPOM for Windows では、インストール時に複数のデフォルト ポリシーがサポートされている管理ノードに自動的に配布されます。これらをそのまま使用して、仮想化されたインフラストラクチャに関するデータや環境からのメッセージの受信を開始できます。サービス検出時にポリシーを自動配布する設定をオフにすることができます。また、設定済みのポリシーを変更して新しい名前で作成し、目的に応じたカスタム ポリシーを作成することもできます。管理サーバーからのポリシーの配布の詳細は、「[HPOM for Windows 管理サーバーからの VI SPI ポリシーの配布](#)」(140ページ)を参照してください。

HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、または Solaris) では、Discovery ポリシーによってポリシーがノードに自動的に配布されることはありません。手動でポリシーを配布できます。管理サーバーからのポリシーの配布の詳細は、「[HPOM for UNIX 管理サーバーからの VI SPI ポリシーの配布](#)」(141ページ)を参照してください。

ポリシータイプは以下のとおりです。

- **Service/Process Monitoring** ポリシーは、システム サービスおよびプロセスを監視する手段を提供します。

- **Logfile Entry ポリシー**は、システム ノード およびリソース グループ アプリケーションにより生成されたステータス メッセージおよびエラー メッセージをキャプチャします。
- **Measurement Threshold ポリシー**は、収集されたメトリック値を解釈し、警告メッセージをメッセージ ブラウザに表示できるように、各メトリックの条件を定義します。各 Measurement Threshold ポリシーは、実際のメトリック値と指定したしきい値/自動しきい値を比較して、実際の値がしきい値と一致するかそれを超える場合、問題を解決するためのメッセージや指示文が表示されます。
- **Scheduled Task ポリシー**は、メトリック値を収集する時間と収集対象を決定し、収集間隔を定義します。収集間隔は、5分、15分、1時間、1日に設定できます。収集間隔は、特定のグループに対するデータの収集頻度を示します。Scheduled Task ポリシーには2つの機能があります。ノードの収集間隔ごとにコレクタ/アナライザを実行する機能と、ポリシーの[コマンド]テキストボックス内に表示されているすべてのメトリックのデータを収集する機能です。
- **Service Discovery ポリシー**は、個々のシステム ノード およびリソース グループ インスタンスを検出し、Virtualization Infrastructure SPI で検出されたすべてのインスタンスのマップ ビューを構築します。
- **Config ポリシー**は、ユーザー定義のメトリックを入力する手段を提供します。

Virtualization Infrastructure SPI により、システム管理者が仮想インフラストラクチャを効率的に監視するため設定済みポリシーが提供されます。VI SPI のポリシーの名前は、わかりやすく、簡単に変更できるように、VI で始まっています。

これらのポリシーは、特定のニーズに合わせてカスタマイズできます。Virtualization Infrastructure SPI のポリシーの詳細は、「[Virtualization Infrastructure SPI のポリシー](#)」(33ページ)を参照してください。

グラフ

VI SPI では、監視対象の要素の正常域の動作に矛盾が生じた場合に原因を表示して追跡できます。HPOM は、仮想システム間のパフォーマンスの表示、評価、比較のための Web ベースのツールである HP Performance Manager と統合されています。HP Performance Manager では、以下の表示が可能です。

- グラフ (折れ線グラフ、棒グラフ、面グラフなど)
- データ表 (プロセス詳細など)
- ベースライン グラフ
- Java 形式の動的グラフによって、個々のメトリックの表示をオフにしたり、グラフ上の点の値を表示したりすることができます。

データをグラフィカルに表示することで、レポートされた重大または危険域のエラーメッセージをすばやく簡単に分析できます。Virtualization Infrastructure SPI のグラフの詳細は、「[Virtualization Infrastructure SPI のグラフ](#)」(150ページ)を参照してください。

レポート

HP Reporter をインストールして VI SPI と統合することにより、メトリックデータに基づいて Web ベースのレポートを生成できます。

HP Reporter を Windows 向けの HPOM 管理サーバーにインストールした場合、コンソールからレポートを表示できます。レポートを表示するには、コンソール ツリーで **[Reports]** を展開し、個別のレポートをダブルクリックします。

HP Reporter を HPOM 管理サーバー (Windows、UNIX、Linux、または Solaris オペレーティングシステム向け) に接続されている別のシステムにインストールした場合、HP Reporter システムでレポートを表示できます。HP Reporter と HPOM を統合する方法の詳細は、『HP Reporter Installation and Special Configuration Guide』を参照してください。

Virtualization Infrastructure SPI のレポートの詳細は、「[Virtualization Infrastructure SPI のレポート](#)」(146ページ)を参照してください。

作業の開始

HPOM for Windows 管理サーバーまたは HPOM for UNIX 管理サーバーに Infrastructure SPIs をインストールした後で、インフラストラクチャの管理に必要な作業を実行する必要があります。

ポリシーの配布を開始する前に必要な作業の一覧は、配布チェックリストに記載されています。

配布チェックリスト

完了 (はい/いいえ)	作業
	管理サーバーに HPOM 9.10 がインストールされていることを確認します。これに加えて、HP Operations Agent バージョン 11.00 以上がインストールされていることを確認します。HPOM および HP Operations Agent に対する入手可能なすべてのパッチとホットフィックスがインストールされていることを確認します。
	グラフとレポートを作成するために、Performance Manager と HP Reporter がインストールされていることを確認します。
	VI SPI を使用して VMware 環境を監視する場合、vMA アプライアンスが作成され、推奨されるリソース構成が使用されていることを確認します。
	VI SPI を使用して VMware 環境を監視する場合、ESX/ESXi ホストおよび vCenter サーバーが vMA に追加されていることを確認します。
	監視ポリシーの配布を開始する前に、HP Operations Agent がメトリックを収集できるように十分な時間を取ります。

HPOM for Windows の場合

HPOM for Windows を初めて使用するには、次の手順を実行します。

VI SPI の起動

仮想化されたインフラストラクチャの検出を開始する最初の手順は、SI SPI 検出の実行です。

仮想化インフラストラクチャの計画

VMware 環境を監視するには、以下の手順を実行します。

- ESX/ESXi ホストをターゲットとして vMA に追加します。
コマンド `vifp addserver <ESX host>` を実行します。
- vCenter からのイベントを監視するには、vCenter をターゲットとして vMA に追加します。
コマンド `vifp addserver <vCenter>` を実行します。

注: 1 つの vMA に対して、HP Operations Agent は最大 20 の ESX ホストと 400 のインスタンス

(ESX/ESXi、VM、リソースプール、VCenter)を監視できます。

VI SPI ポリシーをインストールするための前提条件

VI SPI ポリシーを配布する前に、次のことを確認してください。

- 最新の HPOM パッチがインストールされていること。OMW_000120 以降のパッチをインストールしたことを確認してください。
- HP Operation Agent 11.xx がインストール済みで実行されていること。
- vMA および HyperV ホスト上の `parm` ファイルに「**logicalsystem**」というテキストが追加されていること。以下の手順を実行します。

- a. UNIX ホストの場合、

`/var/opt/perf` ディレクトリに移動し、`parm` ファイルを開きます。

Windows ホストの場合、

`%ovdatadir%` ディレクトリに移動し、`parm` ファイルを開きます。

- b. Windows、UNIX、Linux、または Solaris の場合、

次の行の末尾に **logicalsystem** というテキストを追加します。

```
application process device=disk,cpu,filesystem  
transactionlogicalsystem
```

注: 論理システムが Solaris 10 以上でサポートされていること。

AIX の場合、

次の行の末尾に **logicalsystems** というテキストを追加します。

```
application process device=disk,cpu,filesystem  
transactionlogicalsystems
```

LPAR 記録を有効にするには、`logicalsystems=lpar` に設定します。

WPAR 記録を有効にするには、`logicalsystems=wpar` に設定します。

LPAR と WPAR の両方の記録を有効にするには、次のように設定します。

```
logicalsystems=lpar,wpar または logicalsystems=wpar,lpar または  
logicalsystems=all
```

注: 論理システムは、AIX 5L V5.3 ML3 以上の LPAR と、AIX 6.1 TL2 グローバル環境の WPAR でのみサポートされます。

- c. For VMware の場合、vMA 上の `viserver.properties` ファイルの設定を変更します。

```
jvmArgs=-Xms512m -Xmx1024m -classpath .....
```

```
kill -9 <viserver の pid>
```

/var/opt/perf ディレクトリに移動します。

```
rm -rf .viserver.lock
```

- d. HP Operations Agent 11.xx を再起動します。以下のコマンドを実行します。

Windows の場合

```
%ovinstalldir%bin\ovpacmd REFRESH COL
```

HP-UX、Linux または Solaris の場合、

```
/opt/perf/bin/ovpa -restart scope
```

AIX の場合、

```
/usr/lpp/perf/bin/ovpa -restart scope
```

収集が開始するまで 10 ~ 15 分間待機します。

次のコマンドを実行して、BYLS データが収集されているかどうかを確認します。

Windows の場合

```
ovcodauttil -dumpds scope | grep BYLS
```

UNIX の場合

```
ovcodauttil -dumpds scope | grep BYLS
```

- e. ノード上で次のコマンドを実行して、インスタンス削除しきい値を更新します。

```
ovconfchg -ns agtrep -set
```

```
INSTANCE_DELETION_THRESHOLD 3
```

```
ovconfchg -ns agtrep -set
```

```
RESEND_RELATIONSHIP_INSTANCES TRUE
```

デフォルトでは、このしきい値は 5 に設定されています。

- f. サーバー上で、アクション エージェントのタイムアウト値を更新および増やすには、次のコマンドを実行します。

```
ovconfchg -ns eaagt -set OPC_KILL_AUTO_ACTION_TIMEOUT 4000
```

デフォルトでは、この値は 600 に設定されています。

コマンドの詳細は、『HPOM オンラインヘルプ』を参照してください。

- **[Infrastructure Management] → [Settings and Thresholds]** 下で使用できるエージェント設定が、仮想化ノード (ハイパーバイザーと管理対象プロキシ) に配布されていること。
- メッセージポリシーグループの Infrastructure SPI メッセージが仮想化ノード (ハイパーバイザーと管理対象プロキシ) に配布されていること。
- HPOM サーバーに HP Performance Manager がインストールされていること (グラフを表示するため)。

ヒント: 仮想マシンのゲストオペレーティングシステムのパフォーマンスを向上させるため、すべての

ゲスト マシンに VMware Tools をインストールすることをお勧めします。VMware Tools を使用すると、ゲスト オペレーティングシステムのシャットダウン、ゲスト オペレーティングシステムとホスト オペレーティングシステムとの時刻同期といった機能を実現できます。また、VMware Server にハートビートが送信されます。

ゲスト オペレーティングシステムは VMware Tools なしでも実行できますが、仮想マシンを使用するための重要な機能が利用できなくなります。

検出ポリシーの実行

SI SPI 検出によってノードが仮想化ノードとして特定されると、VI SPI 検出が自動配布されます。これらのノードで実行されている仮想マシンがそれぞれの Virtualization Infrastructure ノード グループの下に追加され、ベンダー固有の QuickStart ポリシーがこれらのノードに自動配布されます。

検出された管理ノードは、コンソールツリーの以下のノード フォルダに再度グループ化されます。

- [ノード] → [InfraSPI Managed Nodes] → [Hypervisor Hosts and Proxies]
- [ノード] → [Virtualization] → <ベンダー名>

VI SPI 検出ポリシーによって、検出された要素が HPOM サービス マップに追加されます。VI SPI サービス マップを表示するには、[サービス] → [Virtualization Infrastructure] の順に選択します。

注: 仮想化のための検出マップが表示されない場合は、「問題: VI SPI の検出マップが表示されない」を参照してください。

Quick Start ポリシーの HPOM for Windows からの配布

SI SPI 検出が正常に完了すると、検出されたノードは各 Infrastructure SPI ノード グループに自動的に追加されます。

このノード グループには、デフォルトで QuickStart ポリシーが割り当てられます。ノードがノード グループに追加されると、この QuickStart ポリシーは自動的に管理ノードに配布されます (ポリシーの自動配布が有効になっている場合)。

インフラストラクチャが検出され、サービス マップが HPOM for Windows 管理サーバーに設定されると、QuickStart ポリシーが自動的に管理ノードに配布されます (ポリシーの自動配布が有効な場合)。QuickStart ポリシーは、3 つの Infrastructure SPIs すべてで使用可能で、設定のカスタマイズに時間をかけずにすぐに使用できます。ポリシーの自動配布は、デフォルトで有効になっています。サービス検出時にポリシーを自動配布する設定をオフにすることができます。また、設定済みのポリシーを変更して新しい名前で作成し、目的に応じたカスタム ポリシーを作成することもできます。

高度なポリシーは、特定のシナリオで使用されます。これらのポリシーは、必要に応じて手動で配布できます。

ポリシーの自動配布をオフにした場合、Infrastructure SPIs によって提供される 2 つのポリシー グループのいずれかにアクセスすることで、QuickStart ポリシーを手動で配布できます。グループ化は、監視対象要素、およびベンダーとオペレーティングシステムに基づいています。監視を目的としたグループで

は、複数のオペレーティングシステムを対象に、パフォーマンス、可用性、キャパシティ、ログ、セキュリティを監視するポリシーにアクセスおよび配布できます。

ベンダー別にグループ化されたポリシーでは、1つの場所からご使用のオペレーティングシステムに関連するポリシーにすぐにアクセスできます。たとえば、管理ノードに配布する VI-VMwareEventMonitor_ja_JP ポリシーにアクセスするには、以下の順に展開します。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - QuickStart] → [VI-VMwareEventMonitor]

HPOM for UNIX の場合

HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、および Solaris) で Infrastructure SPIs を初めて使用するには、以下の手順を実行します。

開始する前に、最新のパッチとホットフィックスがインストールされていることを確認します。

パッチのリスト

HPOM for HP-UX	HPOM for Linux	HPOM for Solaris
OMU_00042.rpm	OML_00042.rpm	OMS_00042.rpm
OMU_00043.rpm	OML_00043.rpm	OMS_00043.rpm
OMU_00044.rpm	OML_00044.rpm	OMS_00044.rpm
OMU_00045.rpm	OML_00045.rpm	OMS_00045.rpm

仮想化されたインフラストラクチャでの検出ポリシーの実行

仮想化されたインフラストラクチャの検出を開始する最初の手順は、ノードへの SI-SystemDiscovery_ja_JP ポリシーの配布です。VI SPI 検出ポリシーは自動配布されないため、HPOM に 1 つ以上の自動メッセージが送信されます。これらのメッセージには、InfraSPI ノードグループにノードを追加するための自動アクションが含まれます。たとえば、VMware の場合、Auto-Add メッセージによって仮想化ノード (ESX/ESXi ホスト、vCenter、vMA など) が Virtualization ノードグループに追加されます。ノードは、VI-VMwareESX ホスト、VI-VMware vCenter などとして追加されます。

ベンダ固有の QuickStart ポリシーも、これらのノードに自動的に割り当てられます。これらのノードグループにノードが追加された後、自動的に割り当てられたポリシーをノードに配布する必要があります。また、VI 検出ポリシーをノードに配布します。これらのノードで実行されている仮想マシンは、対応する Virtualization Infrastructure ノードグループの下に追加されます。

検出された管理ノードは、コンソールツリーでは [ノード] → [仮想化] → <ベンダ名> として再グループ化されます。

VI SPI 検出ポリシーによって、検出された要素が HPOM サービス マップに追加されます。サービス マップは、検出された仮想インフラストラクチャをグラフィカルに表示します。

注: 仮想化のための検出マップが表示されない場合は、「問題: VI SPI の検出マップが表示されない」を参照してください。

Quick Start ポリシーの HPOM for UNIX からの配布

SI SPI 検出が正常に完了すると、検出されたノードは各 Infrastructure SPI ノード グループに自動的に追加されます。

このノード グループには、デフォルトで QuickStart ポリシーが割り当てられます。ノードがノード グループに追加されると、この QuickStart ポリシーは自動的にノードに配布されます。次に、管理 GUI の [アクション] メニューから [設定の配布] を選択して、ポリシーをノードに手動で配布します。

QuickStart ポリシーは、3 つの Infrastructure SPIs すべてで使用可能で、設定のカスタマイズに時間をかけずにすぐに使用できます。ポリシーの自動割り当ては、デフォルトで有効になっています。

グループ化は、監視対象要素、およびオペレーティングシステム/ベンダーに基づいています。監視を目的としたグループでは、複数のオペレーティングシステムを対象に、パフォーマンス、可用性、キャパシティ、ログ、セキュリティを監視するポリシーにアクセスおよび配布できます。

オペレーティングシステムとベンダー別にグループ化されたポリシーでは、1 つの場所からご使用のオペレーティングシステムに関連するポリシーにすぐにアクセスできます。たとえば、管理ノードに配布する VI-VMwareEventMonitor_ja_JP ポリシーにアクセスするには、以下の順に選択します。

[登録ポリシー] → [Infrastructure Management] → [ja] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies grouped by Vendor] → [VMware ESX - QuickStart]

オペレーティングシステム別にグループ化されたポリシーには、QuickStart ポリシーと高度なポリシーの 2 つのサブグループがあります。QuickStart グループには、最もよく使用されるポリシーが含まれています。ディスク使用率ポリシーやディスク容量監視ポリシーなどの高度なポリシーは、特定のシナリオで使用されます。以下の図に、ベンダー別にグループ化されたポリシーおよび QuickStart ポリシーと高度なポリシーのサブグループを示します。

レポートとグラフの表示

Infrastructure SPIs によって収集されたデータからレポートとグラフを作成して表示するには、HP Reporter と HP Performance Manager をそれぞれ HPOM と連動して使用する必要があります。Infrastructure SPIs は、レポート用とグラフ用のデータを収集してデータストア内に格納します。データストアとしては、CODA (HP Operations Agent のデータストアで、組み込みパフォーマンスコンポーネントとも呼ばれる) または HP Performance Agent を指定できます。

VI SPI のレポートとグラフでは、HP Performance Agent が管理ノードにインストールされている必要があります。

HPOM for HP-UX、HPOM for Linux、または HPOM for Solaris でグラフを表示するには、最初に HP Performance Manager を HPOM 管理サーバーに統合する必要があります。

HP Performance Manager と HPOM for UNIX との統合

HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、または Solaris) サーバーを HP Performance Manager と統合するには、以下の手順を実行します。

- HP Performance Manager が HPOM サーバーにインストールされている場合、以下のコマンドを実行します。

```
# /opt/OV/contrib/OpC/OVPM/install_OVPM.sh
```

```
install_OVPM.sh <ノード名>:<ポート>
```

```
例:install_OVPM.sh test.ovtest.com:8081
```

- HP Performance Manager が HPOM サーバーに接続しているリモート システムにインストールされている場合は、以下の手順を実行します。

1. グラフテンプレートを HP Performance Manager がインストールされているリモート システムから HPOM サーバーにコピーします。グラフのタイプとシステム上の場所を確認するには、『HP Performance Manager 管理者ガイド』を参照してください。

2. HPOM サーバーで次のコマンドを実行してください。

```
# /opt/OV/contrib/OpC/OVPM/install_OVPM.sh
```

```
install_OVPM.sh <ノード名>:<ポート>
```

```
例:install_OVPM.sh test.ovtest.com:8081
```

これらの手順によって、HPOM オペレータ GUI 内のイベントからグラフを起動する際に使用される HP Performance Manager のホスト システム設定が設定されます。

SPI のアップグレード後のレポートの更新

アップグレードの後、既存のレポート ファイルは新しいレポート ファイルと置き換えられます。レポートを更新するには、以下のコマンドを実行します。

1. **[スタート]** メニューに移動します。
2. **[ファイル名を指定して実行]** を選択します。
3. プロンプトで、コマンドとして「**repcrys**」と入力し、**[OK]** をクリックします。

管理サーバー上のすべてのレポートが HP Reporter GUI 上のレポートと同期していることを確認します。Reporter GUI の **[Reporter Status]** タブをクリックして、レポートがコンソールに送信した番号、およびエラー メッセージがあればそれもチェックします。

レポート用のデータ収集

VI SPI の場合、レポート用のデータ収集はポリシーの配布に依存しません。データは、管理ノードに配布された HP Operations Agent によって収集されます。

以下の表に、レポート、および対応するレポートのデータを収集するために管理ノードに配布する必要があるポリシーを示します。

レポート	ポリシー	管理ノードのプラットフォーム	SPI
Hyper-V 構成	HP Performance Agent メトリック	Microsoft Hyper-V	VI SPI
Hyper-V CPU 使用率	HP Performance Agent メトリック	Microsoft Hyper-V	VI SPI
vMA ホスト-ゲスト構成	HP Performance Agent メトリック	VMware vMA	VI SPI

レポート	ポリシー	管理ノードのプラットフォーム	SPI
vMA CPU 使用率	HP Performance Agent メトリック	VMware vMA	VI SPI
vMA メモリ使用率	HP Performance Agent メトリック	VMware vMA	VI SPI
vMA レディ使用率	HP Performance Agent メトリック	VMware vMA	VI SPI
vMA 最大ビジー CPU	HP Performance Agent メトリック	VMware vMA	VI SPI
vMA 最大ビジー ディスク	HP Performance Agent メトリック	VMware vMA	VI SPI
vMA 最大ビジー メモリ	HP Performance Agent メトリック	VMware vMA	VI SPI
vMA 可用性	HP Performance Agent メトリック	VMware vMA	VI SPI

HPOM for Windows から Infrastructure SPI のレポートを表示するには、コンソールツリーで **[レポート]** → **[Infrastructure Management]** → **[Virtualization Infrastructure]** を選択して展開します。レポートを表示するには、HPOM コンソールで必要なレポートを選択して右クリックし、続いて **[レポートの表示]** を選択します。

Virtualization Infrastructure SPI のポリシーとツール

Virtualization Infrastructure SPI (VI SPI) には、インフラストラクチャの管理に役立つさまざまなポリシーとツールがあります。ポリシーを使用して仮想化された環境のシステムを監視し、それらのシステムについて収集されたデータをツールで表示できます。

Virtualization Infrastructure SPI のポリシー

ポリシーは、監視を自動化するための1つまたは複数のルールです。VI SPI のポリシーを使用して、Windows および UNIX の各環境を監視できます。ほとんどのポリシーはすべての環境に共通ですが、特定の環境でのみ使用できたり、該当するプラットフォームでのみ配布する必要があるポリシーもあります。サポートされていないプラットフォームにポリシーを配布すると、予期しない動作が発生したり、ポリシーにエラーが発生したりすることがあります。

[Infrastructure Management group] フォルダには、言語で分類されたサブグループがあります。たとえば、英語のポリシーのサブグループは **[en]**、日本語のポリシーのサブグループは **[ja]**、簡体中国語のポリシーのグループは **[zh]** です。

コンソールツリーでは、VI SPI ポリシーは以下の場所にあります。

[ポリシー管理] → **[ポリシーグループ]** → **[Infrastructure Management]** → **[<言語>]** → **[Virtualization Infrastructure]**

管理サーバーからのポリシーの配布の詳細は、「HPOM for Windows 管理サーバーからの VI SPI ポリシーの配布」(140ページ)を参照してください。

HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、または Solaris) では、ポリシーグループはコンソール/管理者用インタフェースの以下の場所にあります。

[登録ポリシー] → [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure]

管理サーバーからのポリシーの配布の詳細は、「HPOM for UNIX 管理サーバーからの VI SPI ポリシーの配布」(141ページ)を参照してください。

自動検出ポリシー

Virtualization Infrastructure SPI では、ホストサーバーノードで使用可能な仮想マシンとリソースプールが検出され、サービス階層が自動的に設定されます。自動配布を有効にした状態で HPOM サーバーにノードを追加すると、そのノードに Systems Infrastructure SPI Service Discovery ポリシーが自動的に配布されます。Systems Infrastructure SPI Discovery ポリシーによってシステムが仮想マシンまたは vMA をホストするノードとして特定されると、VI-Discovery ポリシーの自動配布が自動的にトリガされます。Virtualization Infrastructure SPI の検出により、検出された情報が HPOM サービス領域に追加されます。

注: Service Discovery ポリシーが自動配布されるのは、HPOM for Windows の場合のみです。HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、および Solaris) の場合、このポリシーを手動で割り当て、ノードに配布する必要があります。

サービスの手動検出

コンソールツリーでは、自動検出ポリシーは以下の場所にあります。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Auto Discovery]

Discovery ポリシーを手動で配布するには、以下の手順を実行します。

1. VI-Discovery_ja_JP ポリシーを選択します。
2. 右クリックして、[すべてのタスク] → [配布先ノード...] の順に選択します。
3. ポリシーを配布するノードを選択します。
4. [OK] をクリックします。

注: VI-Discovery_ja_JP ポリシーによって設定済みのポリシーが自動的に配布されることはありません。ポリシーは手動で配布する必要があります。

可用性ポリシー

可用性の監視を行い、リソースの可用性を確保します。可用性ポリシーは、仮想化されたインフラストラクチャの現在の負荷を計算してしきい値レベルと比較し、リソースの可用性が十分でない場合は HPOM コンソールに警告メッセージを送信します。

コンソールツリーでは、可用性ポリシーは以下の場所にあります。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability]

Performance Agent プロセス監視ポリシー

VI-PerfAgentProcessMonitor_ja_JP

VI-PerfAgentProcessMonitor_ja_JP ポリシーは、Measurement Threshold ポリシーであり、ノードで実行されている Performance Agent のプロセスを監視します。このポリシーは、最初に CODA (HP Operations Agent の場合) または SCOPE (HP Performance Agent の場合) がノード上で有効になっているかをチェックし、次にそのステータスをチェックします。

Scope と CODA のステータスの監視に加えて、VI-PerfAgentProcessMonitor_ja_JP ポリシーは、VISERVER プロセスのステータス (VMware の場合) および LSDAEMON プロセスのステータス (AIX の場合) も監視します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [<プラットフォーム>- QuickStart]

いずれかの Performance Agent プロセスが実行を停止した場合、このポリシーは重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージを HPOM コンソールに送信します。このポリシーには、プロセスを内部的に開始する自動アクションが関連付けられています。プロセスが開始し、サービスに対する start コマンド実行が成功すると、アラートメッセージがメッセージの確認ウィンドウに移動します。

すべてのサービスが開始すると、アラートメッセージは、次のポリシー実行で正常域のアラートメッセージとして確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できます。

注: ポーリング間隔は 30 秒未満に設定しないでください。ポーリングが機能しなくなります。

HPVM ゲスト用の State Monitor ポリシー

VI-HPVMStateMonitor_ja_JP

VI-HPVMStateMonitor_ja_JP ポリシーは、HPVM ゲストを監視して、その状態を報告します。このポリシーは、監視している仮想マシンの状態に基づいて、重要度が「重要警戒域」または「注意域」のアラートメッセージを HPOM コンソールに送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability] → [HPVM]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor HPVM - QuickStart]

VI-HPVMStateMonitor_ja_JP ポリシーは、次の状態に関するアラートを発行します。

重要警戒域のアラート	注意域のアラート	正常域のアラート
------------	----------	----------

危険域状態	注意域状態	ダウン状態	正常域状態
<ul style="list-style-type: none"> • Hung • Crash 	<ul style="list-style-type: none"> • Unknown • Invalid • Other 	<ul style="list-style-type: none"> • Down • Boot • Shutdown 	<ul style="list-style-type: none"> • Up

VI-HPVMStateMonitor_ja_JP ポリシーは、仮想マシンが30分より長く遷移状態にとどまった場合のみ、遷移状態に関するアラートを発行します。このポリシーは、ホストマシンの状態を報告しません。

使用するメトリック	BYLS_LS_STATE BYLS_LS_NAME BYLS_DISPLAY_NAME GBL_LS_TYPE
サポートされているプラットフォーム	HPVM
スクリプトパラメータ	説明
AlertOnPlannedOutage	AlertOnPlannedOutage の値は、デフォルトで「FALSE」に設定されています。「TRUE」に変更するか、時間を定めてアラートを受信するには、「hh:mm:ss-hh:mm:ss」形式に変更できます。Down カテゴリの下にリストされているすべての状態のアラートを受信するには、この値を TRUE または指定された時間形式に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は5分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できます。

IBM フレームと LPAR 用の State Monitor ポリシー

VI-IBMFrameAndLPARStateMonitor_ja_JP

VI-IBMFrameAndLPARStateMonitor_ja_JP ポリシーは、IBM フレームとこれらのフレーム上の LPAR を監視します。このポリシーは、監視しているフレームと LPAR の状態に基づいて、重要度が「重要警戒域」または「注意域」のアラートメッセージを HPOM コンソールに送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Availability]** → **[IBM LPAR]**

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [IBM LPAR - Advanced]

このポリシーは、フレームとLPARに関する次の情報を収集し、CODA内の2つのクラス(FRAMEとLPAR)の下に記録します。

- FRAME クラス:
 - HMC 名
 - フレーム名
 - フレームの状態
- LPAR クラス:
 - HMC 名
 - フレーム名
 - LPAR ID
 - LPAR 名
 - LPAR の状態

このポリシーは、次のフレーム状態に関するアラートを発行します。

重要警戒域のアラート	注意域のアラート			正常域のアラート
危険域状態	注意域状態	ダウン状態	遷移状態	正常域状態
<ul style="list-style-type: none"> • Error • Error - Dump in Progress • Error - Terminated 	<ul style="list-style-type: none"> • Incomplete • Failed Authentication • Pending Authentication - Password Updates Required • Recovery • No Connection • On Demand Recovery 	<ul style="list-style-type: none"> • Power off 	<ul style="list-style-type: none"> • Initializing 	<ul style="list-style-type: none"> • Operating

VI-IBMFrameAndLPARStateMonitor_ja_JP ポリシーは、次のLPAR状態に関するアラートを発行します。

重要警戒域のアラート	注意域のアラート			正常域のアラート
危険域状態	注意域状態	ダウン状態	遷移状態	正常域状態

重要警戒域のアラート	注意域のアラート			正常域のアラート
<ul style="list-style-type: none"> Not Available 	<ul style="list-style-type: none"> Error 	<ul style="list-style-type: none"> Not Activated 	<ul style="list-style-type: none"> Starting Migrating - Running Shutting Down Hardware Discovery Migrating - Not Activated 	<ul style="list-style-type: none"> Running

このポリシーは、仮想マシンが30分より長く遷移状態にとどまった場合にのみ、遷移状態に関するアラートを発行します。このポリシーは、ホストマシンの状態を報告しません。

サポートされているプラットフォーム	IBM フレームと LPAR
スクリプト パラメータ	説明
AlertOnPlannedOutage	AlertOnPlannedOutage の値は、デフォルトで「FALSE」に設定されています。「TRUE」に変更するか、時間を定めてアラートを受信するには、「hh:mm:ss-hh:mm:ss」形式に変更できます。Down カテゴリの下にリストされているすべての状態のアラートを受信するには、この値を TRUE または指定された時間形式に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は5分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できません。

IBM WPAR 用の State Monitor ポリシー

VI-IBMWPARStateMonitor_ja_JP

VI-IBMWPARStateMonitor_ja_JP ポリシーは、IBM WPAR を監視して、その状態を報告します。このポリシーは、監視している WPAR の状態に基づいて、重要度が「重要警戒域」または「注意域」のアラートメッセージを HPOM コンソールに送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Availability]** → **[IBM LPAR]**
- [Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[IBM LPAR - QuickStart]**

VI-IBMWPARStateMonitor_ja_JP ポリシーは、次の状態に関するアラートを発行します。

重要警戒域のアラート	注意域のアラート			正常域のアラート
危険域状態	注意域状態	ダウン状態	遷移状態	正常域状態
<ul style="list-style-type: none"> Broken Error 	<ul style="list-style-type: none"> Frozen 	<ul style="list-style-type: none"> Paused 	<ul style="list-style-type: none"> Transitional Defined Loaded 	<ul style="list-style-type: none"> Active

VI-IBMWPARStateMonitor_ja_JP ポリシーは、仮想マシンが30分より長く遷移状態にとどまった場合にのみ、遷移状態に関するアラートを発行します。このポリシーは、ホストマシンの状態を報告しません。

使用するメトリック	BYLS_LS_STATE BYLS_LS_NAME BYLS_DISPLAY_NAME GBL_LS_TYPE
サポートされているプラットフォーム	IBM WPAR
スクリプト パラメータ	説明
AlertOnPlannedOutage	AlertOnPlannedOutage の値は、デフォルトで「FALSE」に設定されています。「TRUE」に変更するか、時間を定めてアラートを受信するには、「hh:mm:ss-hh:mm:ss」形式に変更できます。Down カテゴリの下にリストされているすべての状態のアラートを受信するには、この値を TRUE または指定された時間形式に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は5分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できます。

Microsoft Hyper-V ゲスト用の State Monitor ポリシー

VI-MSHyperVStateMonitor_ja_JP

VI-MSHyperVStateMonitor_ja_JP ポリシーは、Microsoft Hyper-V ゲストマシンを監視して、その状態を報告します。このポリシーは、監視している仮想マシンの状態に基づいて、重要度が「注意域」のアラートメッセージを HPOM コンソールに送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability] → [MS Hyper-V]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]

VI-MSHyperVStateMonitor_ja_JP ポリシーは、次の状態に関するアラートを発行します。

注意域のアラート			正常域のアラート
注意域状態	ダウン状態	遷移状態	正常域状態
<ul style="list-style-type: none"> • Unknown • Deleted 	<ul style="list-style-type: none"> • Suspended • Paused • Disabled 	<ul style="list-style-type: none"> • Starting • Snapshotting • Migrating • Saving • Stopping • Pausing • Resuming 	<ul style="list-style-type: none"> • Enabled

VI-MSHyperVStateMonitor_ja_JP ポリシーは、仮想マシンが30分より長く遷移状態にとどまった場合にのみ、遷移状態に関するアラートを発行します。このポリシーは、ホストマシンの状態を報告しません。

使用するメトリック	BYLS_LS_STATE BYLS_LS_NAME BYLS_DISPLAY_NAME GBL_LS_TYPE
サポートされているプラットフォーム	Microsoft Hyper-V
スクリプト パラメータ	説明
AlertOnPlannedOutage	AlertOnPlannedOutage の値は、デフォルトで「FALSE」に設定されています。「TRUE」に変更するか、時間を定めてアラートを受信するには、「hh:mm:ss-hh:mm:ss」形式に変更できます。Down カテゴリの下にリストされているすべての状態のアラートを受信するには、この値を TRUE または指定された時間形式に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は5分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できません。

Oracle Solaris ゾーン用の State Monitor ポリシー

VI-OracleSolarisStateMonitor_ja_JP

VI-OracleSolarisStateMonitor_ja_JP ポリシーは、Solaris ゾーンを監視して、その状態を報告します。このポリシーは、監視しているゾーンの状態に基づいて、重要度が「注意域」のアラートメッセージをHPOM コンソールに送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability] → [Oracle Containers]

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [Oracle Containers - QuickStart]

VI-OracleSolarisStateMonitor_ja_JP ポリシーは、次の状態に関するアラートを発行します。

注意域のアラート		正常域のアラート
ダウン状態	遷移状態	正常域状態
<ul style="list-style-type: none"> Down 	<ul style="list-style-type: none"> Configured Incomplete Installed Ready Shutting Mounted 	<ul style="list-style-type: none"> Running

VI-OracleSolarisStateMonitor_ja_JP ポリシーは、仮想マシンが30分より長く遷移状態にとどまった場合にのみ、遷移状態に関するアラートを発行します。このポリシーは、ホストマシンの状態を報告しません。

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> BYLS_LS_STATE BYLS_LS_NAME BYLS_DISPLAY_NAME GBL_LS_TYPE
サポートされているプラットフォーム	Oracle Solaris ゾーン
スクリプト パラメータ	説明
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を0に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには1、管理ノードのト

	レースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。
AlertOnPlannedOutage	AlertOnPlannedOutage の値は、デフォルトで「FALSE」に設定されています。「TRUE」に変更するか、時間を定めてアラートを受信するには、「hh:mm:ss-hh:mm:ss」形式に変更できます。Down カテゴリの下にリストされているすべての状態のアラートを受信するには、この値を TRUE または指定された時間形式に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できません。

VMware ESX または ESXi サーバー用の State Monitor ポリシー

VI-VMWareStateMonitor_ja_JP

VI-VMWareStateMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX または ESXi サーバーのゲスト マシンを監視して、その状態を報告します。このポリシーは、監視している仮想マシンの状態に基づいて、重要度が「注意域」のアラートメッセージを HPOM コンソールに送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - QuickStart]

VI-VMWareStateMonitor_ja_JP ポリシーは、次の状態に関するアラートを発行します。

注意域のアラート	正常域のアラート
ダウン状態	正常域状態
Off	On
Suspended	

VI-VMWareStateMonitor_ja_JP ポリシーは、仮想マシンが 30 分より長く遷移状態にとどまった場合にのみ、遷移状態に関するアラートを発行します。このポリシーは、ホストマシンの状態を報告しません。

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_LS_STATE • BYLS_LS_NAME • BYLS_LS_ROLE • BYLS_LS_TYPE • BYLS_DISPLAY_NAME
-----------	--

サポートされているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
AlertOnPlannedOutage	AlertOnPlannedOutage の値は、デフォルトで「FALSE」に設定されています。「TRUE」に変更するか、時間を定めてアラートを受信するには、「hh:mm:ss-hh:mm:ss」形式に変更できます。Down カテゴリの下にリストされているすべての状態のアラートを受信するには、この値を TRUE または指定された時間形式に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できません。

KVM または Xen ゲスト用の State Monitor ポリシー

VI-LinuxVirtStateMonitor_ja_JP

VI-LinuxVirtStateMonitor_ja_JP ポリシーは、KVM または Xen 論理システムを監視して、その状態を報告します。このポリシーは、監視している仮想マシンの状態に基づいて、重要度が「重要警戒域」または「注意域」のアラートメッセージを HPOM コンソールに送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Availability]** → **[LinuxVirt]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **LinuxVirt - QuickStart**

VI-LinuxVirtStateMonitor_ja_JP ポリシーは、次の状態に関するアラートを発行します。

重要警戒域のアラート	注意域のアラート			正常域のアラート
危険域状態	注意域状態	ダウン状態	遷移状態	正常域状態
Crashed	Paused	<ul style="list-style-type: none"> • Shutdown • Shutoff 	<ul style="list-style-type: none"> • Run/Idle • No state 	Running

VI-LinuxVirtStateMonitor_ja_JP ポリシーは、仮想マシンが 30 分より長く遷移状態にとどまった場合にのみ、遷移状態に関するアラートを発行します。このポリシーは、ホストマシンの状態を報告しません。

サポートされているプラットフォーム	KVM または Xen
スクリプト パラメータ	説明
AlertOnPlannedOutage	AlertOnPlannedOutage の値は、デフォルトで「FALSE」に設定されています。「TRUE」に変更するか、時間を定めてアラートを受信するには、「hh:mm:ss-hh:mm:ss」形式に変更できます。Down カテゴリの下にリストされているすべての状態のアラートを受信するには、この値を TRUE または指定された時間形式に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できます。

Microsoft Hyper-V 用の Host Service Monitor ポリシー

VI-MSHyperVHostServiceMonitor_ja_JP

このポリシーは、Microsoft Hyper-V のホスト オペレーティングシステムのサービスの可用性を監視します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Availability]**
→
[MS Hyper-V]
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[MS Hyper-V - QuickStart]**

このポリシーが監視するサービスは以下のとおりです。

- Hyper-V 仮想マシン管理

サービス名 : vmms

このサービスは、すべてのゲスト仮想マシンの状態を管理します。仮想マシンの作成、削除、変更のために使用されます。

- Hyper-V ネットワーク管理 サービス

サービス名 : nvspwmi

このサービスは、仮想スイッチなど、仮想化環境のネットワークリソースを管理するために使用されます。

- Hyper-V イメージ管理 サービス

サービス名 : vhdsvc

このサービスは、仮想マシンの仮想メディアを管理するために使用されます。また、仮想ハードディスクの動作に関する情報を収集するためにも使用されます。

いずれかのサービスが実行されていない場合、影響を受けたサービスを起動するオペレータ起動アクションと共にアラートメッセージがHPOM管理サーバーに送信されます。デフォルトでは、メッセージの重要度はすべてのサービスで重要警戒域です。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は5分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できません。

HPVM 用の Process Monitoring ポリシー

VI-HPVMDaemonsMonitor_ja_JP

VI-HPVMDaemonsMonitor_ja_JP ポリシーは、HPVM 上で実行されているプロセス/デーモンを監視し、いずれかのプロセス/デーモンが停止したときに警戒域のアラートメッセージを送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability] → [HPVM]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [HPVM - QuickStart]

この VI-HPVMDaemonsMonitor_ja_JP ポリシーは、次の HPVM プロセス/デーモンを監視します。

デーモン名	機能
hpvmonlogd	モニター出力をドライバーメモリから hpvm_mon_log ファイルにコピーし、必要に応じてログファイルを交換します。
hpvmmctrid	分散しているゲストを管理します。
hpvmmamrd	ゲストのメモリを自動的に再割り当てします。
hpvmmapp	個々の VM に関連付けられます。
hpvmmnetd	指定された仮想スイッチを管理します。
vm_fssagt	仮想マシンの適切な配分比率を計算します。

プロセス/デーモンが開始すると、アラートメッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は5分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できません。

Oracle Solaris ゾーン用の Process Monitoring ポリシー

VI-OracleSolarisRcapdProcessMonitor_ja_JP

VI-OracleSolarisRcapdProcessMonitor_ja_JP ポリシーは、Solaris ゾーンで実行されているリソースキャッピングデーモン (rcapd) を監視し、rcapd が停止したときに重要度が「警戒域」のアラートメッセージを送信します。

メモリキャップを使用してゾーンを設定した場合、rcapdを使用すると、ゾーン別に物理メモリ消費量を規制できます。プロセスのコレクションの常駐セット サイズ (RSS) がそのキャップを超えると、rcapd はコレクションのRSSを減らします。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability] → [Oracle Containers]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [Oracle Containers - Advanced]

rcapd が開始すると、アラート メッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は5分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できます。

VI-OracleSolarisFmdProcessMonitor_ja_JP

VI-OracleSolarisFmdProcessMonitor_ja_JP ポリシーは、Solaris ゾーンで実行されている障害マネージャー デモン (fmd) を監視し、fmd が停止したときに重要度が「警戒域」のアラート メッセージを送信します。

fmd は、実行されている Solaris システム上でシステムソフトウェアの問題を診断し、予防的に解決 (障害のあるコンポーネントを無効にするなど) します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability] → [Oracle Containers]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [Oracle Containers - QuickStart]

fmd が開始すると、アラート メッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は5分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できます。

IBM HMC 用の Data Collector ポリシー

VI-IBMHMCDataCollector_ja_JP

VI-IBMHMCDataCollector_ja_JP ポリシーは、HMC から設定情報を収集し、CODA に記録します。要件に応じてデフォルトの記録間隔を変更できます。

このポリシーは、次の設定情報を収集し、CODA の FRAME_CONFIGURATION と LPAR_CONFIGURATION という2つのクラスの下に記録します。

- HMC 名
- フレーム名
- フレームのシリアル番号
- フレームのモデルタイプ
- フレーム内の設定可能なメモリ
- すべての LPAR への割り当て後のフレーム内の使用可能なメモリ

- フレーム内の設定可能なプロセッシングユニット
- すべての LPAR への割り当て後のフレーム内の使用可能なプロセッシングユニット
- フレームの IP アドレス
- LPAR 名
- 特定の LPAR に割り当てられているメモリ
- 特定の LPAR に割り当てられているプロセッシングユニット

このポリシーを配布する前に、getSSHAAuthentication.pl スクリプトを実行して HMC に接続します。このスクリプトは、ノード (フレーム) の /var/opt/OV/bin/instrumentation ディレクトリにあります。

getSSHAAuthentication.pl スクリプトを使用すると、HMC の設定情報にパスワードなしでアクセスできます。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Availability]**
→
[IBM LPAR]
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[IBM LPAR - Advanced]**

このポリシーのデフォルトの記録間隔は 30 分です。要件に応じてポリシーの記録間隔を変更できます。

容量ポリシー

容量監視によって、使用率が低いリソースや高いリソースを特定するのにも役立ちます。容量監視ポリシーは、仮想化環境のリソースの容量使用率を監視します。

コンソールツリーでは、容量ポリシーは以下の場所にあります。

[Infrastructure Management] → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Capacity]**

VMware ESX または ESXi サーバー用の VMFS Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareVMFSUtilizationMonitor_ja_JP

このポリシーは、Virtual Machine File System (VMFS) のディスク領域使用率を監視します。VMFS は、VMware のゲスト ディスクファイルが格納されるデータストレージボリュームを表しています。このポリシーは、vMA システムに配布されます。このポリシーは、**VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP** (「VMware ESX または ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー」(119ページ)を参照)によって収集された情報に関するアラートを発行します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Capacity]** → **[VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - Advanced]**

使用するメトリック	VMFS_UUID VMFS_HOSTNAME VMFS_DEVNAME VMFS_DEVNO VMFS_DIRNAME VMFS_SPACE_UTIL
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
SpaceUtilCriticalThreshold	ディスク領域の使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「危険域」のアラートメッセージが生成されます。
SpaceUtilMajorThreshold	ディスク領域の使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
SpaceUtilMinorThreshold	ディスク領域の使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
SpaceUtilWarningThreshold	ディスク領域の使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
AssignMessageToRemoteHost	アラートメッセージの送信元をリモートホストとして表示するには、この値を1に設定します。デフォルトでは、メッセージは送信元の管理ノードに割り当てられています。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を0に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには2に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は5分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Memory Usage Monitor ポリシー

VI-VMwareVMMemoryUsage-AT_ja_JP

このポリシーは、ゲスト仮想マシンとリソースプールによって使用されているメモリ使用量 (単位: MB) を監視します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Capacity] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

このポリシーは、仮想マシンとリソースプールの使用されているメモリ使用量の監視のため、マルチインスタンスベースラインを使用します。自動しきい値決定により、しきい値は自動的に計算されます。しきい値の計算は、ゲスト仮想マシンとリソースプールの前日のホストメモリ使用量に従って行われます。しきい値に達するかこれを超えると、VI-VMwareVMMemoryUsage-AT_ja_JP によって HPOM コンソールにアラートが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

使用するメトリック	BYLS_DISPLAY_NAME BYLS_LS_HOSTNAME BYLS_MEM_USED BYLS_LS_UUID BYLS_LS_ROLE
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageApplication	このポリシーによって HPOM コンソールに送信されるメッセージを特定するための適切な値を入力します。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_MEM_USED として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します。たとえば、パラメータ値として「3600」と入力すると、過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックが示すメモリ消費量の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックが示すメモリ消費量の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域のアラートを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。

MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
InstanceSource	ポリシー名を変更しないでください。ポリシーは名前を使用してソースを取得します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
MemUsageCutOff	仮想ゲストコンピューターのメモリ使用量の監視を止める基準とする値を設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Host Disk Usage Monitor ポリシー

VI-VMwareHostDiskUtilization-AT_ja_JP

VI-VMwareHostDiskUtilization-AT_ja_JP ポリシーは、物理ディスクが入出力に使用される時間を監視します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Capacity]** → **[VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - Advanced]**

このポリシーは、入出力のためのディスク使用率の監視のため、マルチインスタンスベースラインを使用します。自動しきい値決定により、しきい値は自動的に計算されます。しきい値の計算は、前日の入出力操作のためのディスク使用率の平均割合に基づいて行われます。しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

使用するメトリック	BYLS_DISPLAY_NAME BYLS_DISK_UTIL BYLS_LS_UUID BYLS_LS_ROLE BYLS_LS_HOSTNAME
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageApplication	このポリシーによって HPOM コンソールに送信されるメッセージを特定するための適切な値を入力します。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_DISK_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します。たとえば、パラメータ値として「3600」と入力すると、過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	トリックが示すディスク領域の最小値を表示します。
MaximumValue	トリックが示すディスク領域の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。

MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーはHPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を5に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーはHPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を5に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけを超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけを超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけを超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
InstanceSource	パラメータ名を変更しないでください。ポリシーは名前を使用してソースを取得します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を0に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには2に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループを表示します。
HostDiskUtilCutOff	ホスト コンピューターのディスク使用量の監視を止める基準とする値を設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

イベント 監視ポリシー

イベント 監視ポリシーは、vMA によって管理されている ESX、ESXi ホストまたは vCenter の重要なイベントを監視します。このグループには、監視ポリシーと設定ポリシーが含まれています。設定ポリシーには、VI SPI が監視するすべてのイベントを一覧表示する機能と、イベントを管理対象として追加する機能があります。

注: メッセージの重複を避け、VI SPI イベントを漏れなく取得するために、ESX または ESXi ホスト、vCenter、vMA マシンの時刻が正しく同期していることを確認してください。

監視ポリシーは、設定ポリシーのリストに含まれるイベントを監視し、イベントが発生するとアラート メッセージを HPOM コンソールに送信します。すべてのイベントは /var/opt/OV/log/vispi.txt に記録され、分析に使用できます。

コンソール ツリーでは、イベント ポリシーは以下の場所にあります。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Events]

VMware ESX または ESXi サーバー用のイベント タイプ ポリシー

VI-VMwareEventTypes_ja_JP

VI-VMwareEventTypes_ja_JP ポリシーは、設定ポリシーです。このポリシーは、VI SPI が監視するイベントを定義します。このポリシーには、次のイベント タイプが定義されています。

注: イベントは、ポリシー ウィンドウの [データ] タブに表示されます。重大なイベントとその修正イベントのような相補的なイベントは、コロンで区切られています。

- VmSuspendedEvent:VmResumingEvent
- VmPoweredOffEvent:VmPoweredOnEvent
- DrsEnteredStandbyModeEvent:DrsExitedStandbyModeEvent
- DrsDisabledEvent:DrsEnabledEvent
- VmRenamedEvent
- VmRemovedEvent
- DrsVmPoweredOnEvent
- DrsVmMigratedEvent
- NotEnoughResourcesToStartVmEvent
- VmBeingHotMigratedEvent
- VmFailedMigrateEvent
- VmMigratedEvent

- VmDiskFailedEvent
- VmFailoverFailed
- VmNoNetworkAccessEvent
- VmUuidChangedEvent
- VmUuidConflictEvent
- VmOrphanedEvent
- HostRemovedEvent
- HostShutdownEvent

他のイベント (上記以外) を VI-VMwareEventMonitor_ja_JP ポリシーで監視するには、VI-VMwareEventTypes_ja_JP ポリシーの設定ファイル ([データ] タブ) にイベントを追加してください。

新しく追加したイベントが送信するアラート メッセージの重要度は、デフォルトで「注意域」に設定されます。

コンソール ツリーでは、VI-VMwareEventTypes_ja_JP ポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Events] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - QuickStart]

VMware ESX または ESXi サーバー用のイベント監視ポリシー

VI-VMwareEventMonitor_ja_JP

VI-VMwareEventMonitor_ja_JP ポリシーは、VI-VMwareEventTypes_ja_JP ポリシーで定義されたイベントを監視し、そのタイプのイベントが発生すると HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
EventSource	ESX/vCenter からのイベントを収集します。デフォルトでは、ESX サーバーからのイベントを収集します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 15 分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Events] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - QuickStart]

ハードウェア監視ポリシー

ハードウェア監視ポリシーは、VMware ESX または ESXi ホスト サーバーの正常性とステータスを監視します。これらの Measurement Threshold ポリシーは、VMware ESX または ESXi ホスト サーバーのハードウェアコンポーネントの正常性を監視し、正常性に問題がある場合、HPOM コンソールにアラートメッセージを送信します。

このポリシーは、VMware CIM SMASH/サーバー管理 API からデータを取得します。CIM SMASH API の詳細は、<http://www.vmware.com/support> に掲載されている VMware のドキュメントを参照してください。

注:

1. VI SPI ハードウェア監視ポリシーによる監視およびアラート送信の対象は、各ハードウェアベンダーが公開しているプロパティのみです。
2. VI SPI ハードウェア監視ポリシーでは、ESX 35 U4 以降のサーバーまたは ESXi サーバーが必要です。

コンソールツリーでは、ハードウェアポリシーは以下の場所にあります。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Hardware] → [VMware ESX]

VMware データセンター用の Hardware Data Collector ポリシー

VI-VMwareHardwareHealthCollector_ja_JP

VI-VMwareHardwareHealthCollector_ja_JP ポリシーは、VMware データセンターのホスト マシンのプロセッサ、メモリ、ファン、シャーシ、イーサネット ポート、およびセンサーの正常性に関するデータを収集し、CODA に記録します。デフォルトの記録間隔は 30 分です。要件に応じて記録間隔を変更できます。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Hardware] → [VMware ESX]

<p>Health Collector ポリシー下でグループ化されるポリシー</p>	<p>VMWARE_HOST_PROCESSOR_HEALTH_MONITOR VMWARE_HOST_PHYSICAL_MEMORY_HEALTH_MONITOR VMWARE_HOST_ETHERNETPORT_HEALTH_MONITOR VMWARE_HOST_FAN_HEALTH_MONITOR VMWARE_HOST_CHASSIS_HEALTH_MONITOR VMWARE_HOST_SENSOR_HEALTH_MONITOR</p>
---	---

サポートしているプラットフォーム	vCenter
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信 メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

VI-VMwareHostProcessorHealthMonitor_ja_JP、VI-VMwareHostPhysicalMemoryHealth Monitor_ja_JP、VI-VMwareHostEthernetPortHealthMonitor_ja_JP、VI-VMwareHostFanHealthMonitor_ja_JP、VI-VMwareHostChassisHealthMonitor_ja_JP、および VI-VMwareHostSensorHealthMonitor_ja_JP の各ポリシーは、VI-VMwareHardware HealthCollector_ja_JP ポリシーによって収集 および記録されたデータに基づいてアラート メッセージを送信します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Host Ethernet Port Health Monitor ポリシー

VI-VMwareHostEthernetPortHealthMonitor_ja_JP

VI-VMwareHostEthernetPortHealthMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX または ESXi ホストサーバー上のイーサネット ポートの正常性を監視します。このポリシーは、ポートの正常性に問題がある場合、HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Hardware] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	VMWARE_ETHERNETPORT_HOST_NAME VMWARE_ETHERNETPORT_HOST_UUID VMWARE_ETHERNETPORT_ELEMENT_NAME VMWARE_ETHERNETPORT_DESCRIPTION VMWARE_ETHERNETPORT_NETWORK_ADDRESSES VMWARE_ETHERNETPORT_ENABLED_STATE VMWARE_ETHERNETPORT_HEALTH_STATE VMWARE_ETHERNETPORT_OPERATIONAL_STATUS
-----------	---

サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は5分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Host Sensor Health Monitor ポリシー

VI-VMwareHostSensorHealthMonitor_ja_JP

VI-VMwareHostSensorHealthMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX または ESXi ホスト サーバー上のすべてのデバイスに関連付けられているセンサーの正常性を監視します。このポリシーは、いずれかのセンサーの正常性に問題がある場合、HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Hardware] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	VMWARE_SENSOR_HOST_NAME VMWARE_SENSOR_HOST_UUID VMWARE_SENSOR_PART_COMPONENT VMWARE_SENSOR_SENSOR_NAME VMWARE_SENSOR_SENSOR_TYPE VMWARE_SENSOR_HEALTH_STATE VMWARE_SENSOR_OPERATIONAL_STATUS VMWARE_SENSOR_CURRENT_READING
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Host Chassis Health Monitor ポリシー

VI-VMwareHostChassisHealthMonitor_ja_JP

VI-VMwareHostChassisHealthMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX または ESXi ホスト サーバーのシャーシの正常性を監視します。このポリシーは、シャーシの正常性に問題がある場合、HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Hardware] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	VMWARE_CHASSIS_HOST_NAME VMWARE_CHASSIS_HOST_UUID VMWARE_CHASSIS_ELEMENT_NAME VMWARE_CHASSIS_DESCRIPTION VMWARE_CHASSIS_UUID VMWARE_CHASSIS_MANUFACTURER VMWARE_CHASSIS_MODEL VMWARE_CHASSIS_POWERON_STATUS VMWARE_CHASSIS_HEALTH_STATE VMWARE_CHASSIS_OPERATIONAL_STATUS
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Host Processor Health Monitor ポリシー

VI-VMwareHostProcessorHealthMonitor_ja_JP

VI-VMwareHostProcessorHealthMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX または ESXi ホスト サーバー上で動作しているプロセッサの正常性を監視します。このポリシーは、いずれかのプロセッサの正常性に問題がある場合、HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Hardware]** → **[VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - Advanced]**

使用するメトリック	VMWARE_PROCESSOR_HOST_NAME VMWARE_PROCESSOR_HOST_UUID VMWARE_PROCESSOR_ELEMENT_NAME VMWARE_PROCESSOR_FAMILY VMWARE_PROCESSOR_MODEL VMWARE_PROCESSOR_CURRENT_CLOCK_SPEED VMWARE_PROCESSOR_MAX_CLOCK_SPEED VMWARE_PROCESSOR_EXTERNAL_BUS_CLOCK_SPEED VMWARE_PROCESSOR_STEPPING VMWARE_PROCESSOR_NUM_ENABLED_CORES VMWARE_PROCESSOR_HEALTH_STATE VMWARE_PROCESSOR_OPERATIONAL_STATUS
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信 メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Host Fan Health Monitor ポリシー

VI-VMwareHostFanHealthMonitor_ja_JP

VI-VMwareHostFanHealthMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX または ESXi ホスト サーバー上のファンの正常性を監視します。このポリシーは、いずれかのファンの正常性に問題がある場合、HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Hardware] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	VMWARE_FAN_HOST_NAME VMWARE_FAN_HOST_UUID VMWARE_FAN_ELEMENT_NAME VMWARE_FAN_HEALTH_STATE VMWARE_FAN_OPERATIONAL_STATUS
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は5分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Host Physical Memory Health Monitor ポリシー

VI-VMwareHostPhysicalMemoryHealthMonitor_ja_JP

VI-VMwareHostPhysicalMemoryHealthMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX または ESXi ホスト サーバーに関連付けられている物理メモリの正常性を監視します。このポリシーは、物理メモリの正常性に問題がある場合、HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Hardware] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	VMWARE_MEMORY_HOST_NAME VMWARE_MEMORY_HOST_UUID VMWARE_MEMORY_ELEMENT_NAME
-----------	--

	VMWARE_MEMORY_CAPACITY VMWARE_MEMORY_MAX_MEMORY_SPEED VMWARE_MEMORY_HEALTH_STATE VMWARE_MEMORY_OPERATIONAL_STATUS
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

ログ監視ポリシー

ログファイルポリシーは、Hyper-V ホストの重要なシステム ログを監視します。

コンソール ツリーでは、ログポリシーは以下の場所にあります。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Logs]

イメージ管理 サービス管理 ログ ファイル監視ポリシー

VI-MSHyperV_ImageAdminWarnError_ja_JP

このポリシーはログ ファイルを監視し、注意域またはエラーの重要度レベルでイメージ管理 サービス管理 イベント ログ エントリを HPOM コンソールに転送します。

コンソール ツリーでは、これらのポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Logs] → [MS Hyper-V]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]

このポリシーは、ログ ファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

The Hyper-V Image Management Service failed to start(Hyper-V イメージ管理 サービスを起動できませんでした)。

例:このエラーはイベント ビューアに表示されます。HPOM for Windows サーバーでエラー メッセージを表示するには、[ファイル名を指定して実行] で eventvwr と入力します。イベント ビューアのインターフェイスが開きます。このエラーが発生すると、[Windows ログ] → [セキュリティ] または [Windows ログ] → [システム] にメッセージが表示されます。

Microsoft Hyper-V 用のイメージ管理 サービス動作 ログ ファイル監視 ポリシー

VI-MSHyperV_ImageOperationalWarnError_ja_JP

このポリシーはログ ファイルを監視し、注意域またはエラーの重要度レベルでイメージ管理 サービス動作 イベント ログ エントリを HPOM コンソールに転送します。

コンソール ツリーでは、これらのポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Logs]** → **[MS Hyper-V]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[MS Hyper-V - QuickStart]**

このポリシーは、ログ ファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

The Hyper-V Image Management Service failed to start(Hyper-V イメージ管理 サービスを起動できませんでした)

Microsoft Hyper-V 用のハイパーバイザー管理 ログ ファイル監視 ポリシー

VI-MSHyperV_HyperVisorAdminWarnError_ja_JP

このポリシーはログ ファイルを監視し、注意域またはエラーの重要度レベルで仮想マシンのハイパーバイザー管理 イベント ログ エントリを HPOM コンソールに転送します。

コンソール ツリーでは、これらのポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Logs]** → **[MS Hyper-V]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[MS Hyper-V - QuickStart]**

このポリシーは、ログ ファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

- Hyper-V の起動は、レジストリ内で自動起動が無効に設定されているために中断されました
- Hyper-V の起動に失敗しました
- Hyper-V の起動に失敗しました。No Execute (NX) または DEP がプロセッサ上で有効化されていません

Microsoft Hyper-V 用のハイパーバイザー動作 ログ ファイル監視 ポリシー

VI-MSHyperV_HyperVisorOperationalWarnError_ja_JP

このポリシーはログ ファイルを監視し、注意域またはエラーの重要度レベルで仮想マシンのハイパーバイザー動作 イベント ログ エントリを HPOM コンソールに転送します。

コンソール ツリーでは、これらのポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Logs]** → **[MS Hyper-V]**

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]**

このポリシーは、ログファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

- Hyper-V の起動は、レジストリ内で自動起動が無効に設定されているために中断されました
- Hyper-V の起動に失敗しました
- Hyper-V の起動に失敗しました。No Execute (NX) または DEP がプロセッサ上で有効化されていません

Microsoft Hyper-V 用の VMMS 管理ログファイル監視ポリシー

VI-MSHyperV_VMMSAdminWarnError_ja_JP

このポリシーはログファイルを監視し、注意域またはエラーの重要度レベルで、仮想マシンの VMMS 管理 イベント ログ エントリを HPOM コンソールに転送します。

コンソール ツリーでは、これらのポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Logs] → [MS Hyper-V]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]**

このポリシーは、ログファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

- 仮想マシンが実行されているときに、Hyper-V 仮想マシン管理 サービスがシャットダウンしました
- Hyper-V 仮想マシン管理 サービスを起動できませんでした
- 仮想マシンのディスク領域が間もなく不足します
- 仮想ネットワークスイッチ名が見つかりませんでした
- 仮想ハード ディスクファイルが見つかりません
- WMI プロバイダーが起動できませんでした
- 仮想マシン管理 サービスが登録できませんでした
- 仮想マシン管理 サービスは、仮想マシンを見つけることができませんでした
- 仮想ネットワークスイッチが見つかりませんでした
- 仮想マシン管理 サービスは、仮想マシンの実行状態を確認できませんでした
- 仮想マシン管理 サービスは、仮想マシンを起動できませんでした
- Hyper-V VSS ライターを識別中にエラーが発生しました
- ドメイン名を登録できませんでした
- 新しい仮想マシンを作成できませんでした
- 仮想マシンバス (VMBus) を開始できません
- 仮想マシンバスが実行されていません
- スナップショット構成を読み込めません。構成が壊れています

- ネットワークアダプターが適切に構成されていません
- 仮想ディスクを開けませんでした
- 仮想マシンの自動再起動が無効です
- 仮想マシンを一時停止できませんでした
- 仮想マシンを再開できませんでした
- スナップショットが壊れています
- 物理デバイスが見つかりませんでした
- 仮想マシンを開始しようとしてエラーが発生しました
- Hyper-V 仮想マシン管理サービスで予期しないエラーが発生しました
- Hyper-V 仮想マシン管理サービスを起動できませんでした
- Hyper-V 仮想マシン管理サービスが正常に開始しました
- 記憶域メディアをコントローラーにアタッチできません
- メディアを変更できません
- 仮想ハード ディスクのパスを変更できません
- バックグラウンドでのディスク結合が中断されました
- 仮想ディスクを開けません
- Hyper-V 記憶域プロバイダーへのハンドルを開けません
- Hyper-V 記憶域プロバイダーにアクセスできません
- 無効な MAC アドレスです
- 仮想コンピューターはセキュリティ識別子を削除できませんでした
- 操作を実行できませんでした。仮想コンピューターはこの操作を実行できる状態にありません
- 仮想コンピューターをオフにできませんでした
- 仮想コンピューターがワーカー プロセスの終了を待機中にタイムアウトしました
- スナップショットを作成できません
- 仮想コンピューターがオンラインのときに、数値ロックを変更できません
- 仮想コンピューターが実行中でないときに、キーを変更または送信できません
- 仮想コンピューターが使用可能な証明書を見つけることができません
- 仮想コンピューターがオンラインのときに、ブート順序を変更できません
- リセット中に仮想コンピューターを初期化できませんでした

Microsoft Hyper-V 用の VMMS 動作ログファイル監視ポリシー

VI-MSHyperV_VMMSOperationalWarnError_ja_JP

このポリシーはログファイルを監視し、注意域またはエラーの重要度レベルで仮想マシンのVMMS 動作 イベント ログ エントリを HPOM コンソールに転送します。

コンソールツリーでは、これらのポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Logs] → [MS Hyper-V]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]**

このポリシーは、ログファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

- 仮想マシンが実行されているときに、Hyper-V 仮想マシン管理 サービスがシャットダウンしました
- Hyper-V 仮想マシン管理 サービスを起動できませんでした
- 仮想マシンのディスク領域が間もなく不足します
- 仮想ネットワークスイッチ名が見つかりませんでした
- 仮想ハード ディスクファイルが見つかりません
- WMI プロバイダーが起動できませんでした
- 仮想マシン管理 サービスが登録できませんでした
- 仮想マシン管理 サービスは、仮想マシンを見つけることができませんでした
- 仮想ネットワークスイッチが見つかりませんでした
- 仮想マシン管理 サービスは、仮想マシンの実行状態を確認できませんでした
- 仮想マシン管理 サービスは、仮想マシンを起動できませんでした
- Hyper-V VSS ライターを識別中にエラーが発生しました
- ドメイン名を登録できませんでした
- 新しい仮想マシンを作成できませんでした
- 仮想マシンバス (VMBus) を開始できません
- 仮想マシンバスが実行されていません
- スナップショット構成を読み込めません。構成が壊れています
- ネットワークアダプターが適切に構成されていません
- 仮想ディスクを開けませんでした
- 仮想マシンの自動再起動が無効です
- 仮想マシンを一時停止できませんでした
- 仮想マシンを再開できませんでした
- スナップショットが壊れています
- 物理デバイスが見つかりませんでした
- 仮想マシンを開始しようとしてエラーが発生しました
- Hyper-V 仮想マシン管理 サービスで予期しないエラーが発生しました

- Hyper-V 仮想マシン管理サービスを起動できませんでした
- Hyper-V 仮想マシン管理サービスが正常に開始しました
- 記憶域メディアをコントローラーにアタッチできません
- メディアを変更できません
- 仮想ハード ディスクのパスを変更できません
- バックグラウンドでのディスク結合が中断されました
- 仮想ディスクを開けません
- Hyper-V 記憶域プロバイダーへのハンドルを開けません
- Hyper-V 記憶域プロバイダーにアクセスできません
- 無効な MAC アドレスです
- 仮想コンピューターはセキュリティ識別子を削除できませんでした
- 操作を実行できませんでした。仮想コンピューターはこの操作を実行できる状態にありません
- 仮想コンピューターをオフにできませんでした
- 仮想コンピューターがワーカープロセスの終了を待機中にタイムアウトしました
- スナップショットを作成できません
- 仮想コンピューターがオンラインのときに、数値ロックを変更できません
- 仮想コンピューターが実行中でないときに、キーを変更または送信できません
- 仮想コンピューターが使用可能な証明書を見つけることができません
- 仮想コンピューターがオンラインのときに、ブート順序を変更できません
- リセット中に仮想コンピューターを初期化できませんでした

Microsoft Hyper-V 用のハイパーバイザー ワーカー管理ログ ファイル監視ポリシー

VI-MSHyperV_WorkerAdminWarnError_ja_JP

このポリシーはログファイルを監視し、注意域またはエラーの重要度レベルでソース Microsoft-Windows-Hyper-V-Worker-Admin の仮想マシン イベント ログ エントリを HPOM コンソールに転送します。

コンソール ツリーでは、これらのポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Logs] → [MS Hyper-V]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]**

このポリシーは、ログファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

- 静的 MAC アドレスがサポートされていません
- 仮想コンピューターの使用可能な MAC アドレスがありません
- ファイルを開けませんでした

- ハイパーバイザーが実行されていないため、仮想マシンを起動できませんでした
- 仮想コンピューターがオンラインのときに、GUID、シリアル番号、基板シリアル番号、またはシャーシ資産タグを変更できません
- 回復不能な内部エラーが発生しました
- 仮想コンピューターをオンにできませんでした
- リセット後に仮想コンピューターを起動できませんでした
- イーサネット デバイスのスタートアップ中、ファイルを開くときにエラーが発生しました
- 仮想マシンのメモリ不足エラー
- ネットワークアダプターが適切に構成されていません
- 仮想マシンを開始できません
- 仮想マシンを開始しようとしてエラーが発生しました
- 物理デバイスが見つかりませんでした
- 仮想ディスクを開けません
- イーサネット デバイスのスタートアップ中、ファイルを開くときにエラーが発生しました
- 仮想マシンを初期化できませんでした

Microsoft Hyper-V 用のハイパーバイザー ワーカー動作ログファイル監視ポリシー

VI-MSHyperV_WorkerOperationalWarnError_ja_JP

このポリシーはログファイルを監視し、注意域またはエラーエラーの重要度レベルでソース Microsoft-Windows-Hyper-V-Worker-Operational の仮想マシン イベント ログ エントリを HPOM コンソールに転送します。

コンソール ツリーでは、これらのポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Logs] → [MS Hyper-V]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]**

このポリシーは、ログファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

- 静的 MAC アドレスがサポートされていません
- 仮想コンピューターの使用可能な MAC アドレスがありません
- ファイルを開けません
- ハイパーバイザーが実行されていないため、仮想マシンを起動できませんでした
- 仮想コンピューターがオンラインのときに、GUID、シリアル番号、基板シリアル番号、またはシャーシ資産タグを変更できません
- 回復不能な内部エラーが発生しました
- 仮想コンピューターをオンにできませんでした

- リセット後に仮想コンピューターを起動できませんでした
- イーサネット デバイスのスタートアップ中、ファイルを開くときにエラーが発生しました
- 仮想マシンのメモリ不足エラー
- ネットワークアダプターが適切に構成されていません
- 仮想マシンを開始できません
- 仮想マシンを開始しようとしてエラーが発生しました
- 物理デバイスが見つかりませんでした
- 仮想ディスクを開けませんでした
- イーサネット デバイスのスタートアップ中、ファイルを開くときにエラーが発生しました
- 仮想マシンを初期化できませんでした

パフォーマンス ポリシー

パフォーマンス監視は、潜在的なパフォーマンス低下を特定し、サービス品質に悪影響を与える前にそれらを解決する予防的手順の実施に役立ちます。

コンソールツリーでは、パフォーマンスポリシーは以下の場所にあります。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance]

パフォーマンス問題に発展した根本原因を特定するために、パフォーマンスデータを使用して、仮想化されたインフラストラクチャ全体のイベントを関連付けることができます。

HPVM 用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-HPVMHostCPUUtilMonitor_ja_JP

VI-HPVMHostCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、HPVM 用のホスト サーバー (管理ノード) の CPU を監視し、パフォーマンスが設定されたしきい値より低下した場合にアラート メッセージを送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [HPVM]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [HPVM - QuickStart]**

VI-HPVMHostCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、次の項目に関する情報を提供します。

- ホストレベルの CPU 使用率
- 最大 CPU を利用している VM (降順)

<p>使用するメトリック</p>	<p>GBL_SYSTEM_ID</p> <p>GBL_LS_TYPE</p> <p>GBL_CPU_TOTAL_UTIL</p>
-------------------------	---

	BYLS_CPU_PHYS_TOTAL_UTIL BYLS_DISPLAY_NAME
サポートしているプラットフォーム	HPVM
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
CPUUtilMajorThreshold	ホスト マシンのCPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
CPUUtilMinorThreshold	ホスト マシンのCPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
CPUUtilWarningThreshold	ホスト マシンのCPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

アラート メッセージは、上記の表に記載したスクリプト パラメータの値に基づいて生成されます。ホスト CPU の使用率の値が正常値に到達すると、アラート メッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

IBM LPAR 用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-IBMLPARFrameCPUUtilMonitor_ja_JP

VI-IBMLPARFrameCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、IBM AIX LPAR 用のフレーム(管理ノード)の CPU を監視し、パフォーマンスが設定されたしきい値より低下した場合にアラート メッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[IBM LPAR]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[IBM LPAR - QuickStart]**

VI-IBMLPARFrameCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、次の項目に関する情報を提供します。

- フレームレベルの CPU 使用率
- 最大 CPU を利用している LPAR (降順)

このポリシーは、フレーム内にある CPU に関して、フレームレベルで CPU 使用率を計算します。ただし、CPU 使用率が最大の LPAR のリストを作成する際は、BYLS_CPU_PHYS_TOTAL_UTIL メトリックを使って CPU 使用率を計算します。このメトリックは、LPAR が所属するプール内にある CPU に関して、CPU 使用率を収集します。

注: このポリシーをホスト マシンに配布する必要があります。

使用するメトリック	GBL_SYSTEM_ID GBL_LS_TYPE BYLS_CPU_PHYS_TOTAL_UTIL BYLS_DISPLAY_NAME BYLS_CPU_PHYSC
サポートしているプラットフォーム	IBM LPAR
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信 メッセージのメッセージ グループ。
CPUUtilMajorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
CPUUtilMinorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
CPUUtilWarningThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

アラート メッセージは、上記の表に記載したスクリプト パラメータの値に基づいて生成されます。ホスト CPU の使用率の値が正常値に到達すると、アラート メッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

Microsoft Hyper-V 用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-MSHyperVHostCPUUtilMonitor_ja_JP

VI-MSHyperVHostCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、Microsoft Hyper-V 用のホスト サーバー (管理ノード) の CPU を監視し、パフォーマンスが設定されたしきい値より低下した場合にアラート メッセージを送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [MS Hyper-V]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]

VI-MSHyperVHostCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、次の項目に関する情報を提供します。

- ホストレベルのCPU 使用率
- 最大 CPU を利用している VM (降順)

使用するメトリック	GBL_SYSTEM_ID GBL_LS_TYPE GBL_CPU_TOTAL_UTIL BYLS_CPU_PHYS_TOTAL_UTIL BYLS_DISPLAY_NAME
サポートしているプラットフォーム	Microsoft Hyper-V
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
CPUUtilMajorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
CPUUtilMinorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
CPUUtilWarningThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

アラートメッセージは、上記の表に記載したスクリプト パラメータの値に基づいて生成されます。ホスト CPU の使用率の値が正常値に到達すると、アラートメッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

Oracle Solaris ゾーン用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-OracleSolarisHostCPUUtilMonitor_ja_JP

VI-OracleSolarisHostCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、Solaris ゾーン用のホスト サーバー (管理 ノード) の CPU を監視し、パフォーマンスが設定されたしきい値より低下した場合にアラート メッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[Oracle Containers]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[Oracle Containers - QuickStart]**

VI-OracleSolarisHostCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、次の項目に関する情報を提供します。

- ホスト レベルの CPU 使用率
- 最大 CPU を利用しているゾーン (降順)

使用するメトリック	GBL_SYSTEM_ID GBL_LS_TYPE GBL_CPU_TOTAL_UTIL BYLS_CPU_PHYS_TOTAL_UTIL BYLS_DISPLAY_NAME
サポートしているプラットフォーム	Oracle Solaris ゾーン
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信 メッセージのメッセージ グループ。
CPUUtilMajorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
CPUUtilMinorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
CPUUtilWarningThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

アラート メッセージは、上記の表に記載したスクリプト パラメータの値に基づいて生成されます。ホスト CPU の使用率の値が正常値に到達すると、アラート メッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareTotalVMCPUUtilMonitor_ja_JP

VI-VMwareTotalVMCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ホスト サーバー (管理ノード) の CPU に関する情報を監視して保持します。このポリシーは vMA によって管理されている特定のホストのすべての仮想マシンの CPU 使用率とレディ使用率を監視し、違反が発生した場合にアラートメッセージを HPOM コンソールに送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - Advanced]**

VI-VMwareTotalCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、次の項目に関する情報を提供します。

- ホスト レベルの CPU 使用率
- 最大 CPU を利用している VM (降順)

使用するメトリック	BYLS_LS_ROLE BYLS_LS_UUID BYLS_LS_NAME BYLS_LS_HOSTNAME BYLS_LS_STATE BYLS_LS_PARENT_UUID BYLS_CPU_PHYS_READY_UTIL BYLS_CPU_PHYS_TOTAL_UTIL BYLS_DISPLAY_NAME
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
CPUUtilMajorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
CPUUtilMinorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
CPUUtilWarningThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えて

	いる場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
CPUReadyTimeMajorThreshold	CPU のレディ時間の最小値が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
CPUReadyTimeMinorThreshold	CPU のレディ時間の最小値が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
CPUReadyTimeWarningThreshold	CPU のレディ時間の最小値が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareHostsCPUUtilMonitor_ja_JP

VI-VMwareHostsCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX または ESXi ホスト サーバーの下にあるアクティブな VM の CPU 使用率を計算します。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラートメッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]**

使用するメトリック	BYLS_LS_ROLE BYLS_LS_UUID BYLS_LS_STATE BYLS_MACHINE_MODEL BYLS_CPU_PHYS_TOTAL_UTIL BYLS_LS_HOSTNAME
-----------	---

サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
HostsCpuUtilCriticalThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が危険域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「危険域」のアラートメッセージが生成されます。
HostsCpuUtilMajorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が重要警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
HostsCpuUtilMinorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
HostsCpuUtilWarningThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が注意域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
MessageApplication	送信メッセージのアプリケーション。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の仮想マシンによる Host CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareHostsCPUUtilMonitor-AT_ja_JP

VI-VMwareHostsCPUUtilMonitor-AT_ja_JP ポリシーは、VMware ESX または ESXi ホスト サーバーの下にあるアクティブな VM のホスト CPU の総使用率 (サービスコンソールの CPU 使用率も含む) を計算します。

このポリシーのしきい値は、前の CPU 使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラートメッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	BYLS_LS_ROLE BYLS_LS_HOSTNAME BYLS_CPU_PHYS_TOTAL_UTIL
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_CPU_ENTL_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM

	コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
HostCPUUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

IBM LPAR 用の Total Frame CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-IBMLPARFrameCPUUtilMonitor-AT_ja_JP

VI-IBMLPARFrameCPUUtilMonitor-AT_ja_JP ポリシーは、フレーム内のすべてのアクティブな LPAR の CPU 使用率の合計を計算します。

このポリシーのしきい値は、LPAR による前の CPU 使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [IBM LPAR]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [IBM LPAR - Advanced]

使用するメトリック	FRAME_CPU_UTIL GBL_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	IBM LPAR
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信 メッセージのアプリケーション。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を FRAME_CPU_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけを超える場合に HPOM コン

	ソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
LPARFrameCPUUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

HPVM 用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-HPVMGuestCPUEntlUtilMonitor-AT_ja_JP

VI-HPVMCPUEntlUtilMonitor-AT_ja_JP ポリシーは、HPVM ゲストの現在の CPU 使用率 (%) を計算します。これは、最小割り当て CPU に対する論理システムの CPU 使用率を示します。割り当て CPU とは、論理システムへの割り当てが保証されているプロセッシングユニットの数です。

このポリシーのしきい値は、ゲストによる前の CPU 使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラートメッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [HPVM]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [HPVM - Advanced]

使用するメトリック	BYLS_CPU_ENTL_UTIL BYLS_LS_NAME BYLS_DISPLAY_NAME GBL_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	HPVM
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_CPU_ENTL_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。

MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーはHPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を5に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、またはWarningDeviations に指定した値だけ超える場合にHPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値をnoneに設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、またはMinorDeviations に指定した値だけ超える場合にHPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値をnoneに設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、またはMajorDeviations に指定した値だけ超える場合にHPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値をnoneに設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、またはWarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値をnoneに設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、またはMinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値をnoneに設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、またはMajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値をnoneに設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
CPUEntlUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を0に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには2に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は30分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

IBM LPAR 用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-IBMLPARCPUEntlUtilMonitor-AT_ja_JP

このポリシーは、AIX LPAR の現在の CPU 使用率 (%) を計算します。これは、最小割り当て CPU に対する論理システムの CPU 使用率を示します。割り当て CPU とは、論理システムへの割り当てが保証されているプロセッシングユニットの数です。

このポリシーのしきい値は、LPAR による前の CPU 使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]**
→
[IBM LPAR]
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[IBM LPAR - Advanced]**

注: このポリシーは、LPAR で実行されている WPAR を監視しません。WPAR を監視するには、VI-IBMWPARCPUEntUtilMonitor-AT_ja_JP ポリシーを配布します。「[IBM WPAR 用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー](#)」(84 ページ)を参照してください。

使用するメトリック	BYLS_CPU_ENTL_UTIL BYLS_LS_NAME BYLS_DISPLAY_NAME BYLS_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	IBM LPAR
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_CPU_ENTL_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。

MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーはHPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を5に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーはHPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を5に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけを超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけを超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけを超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
CPUEntlUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

IBM WPAR 用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-IBMWPARCHPUEntlUtilMonitor-AT_ja_JP

このポリシーは、AIX WPAR の現在の CPU 使用率 (%) を計算します。これは、最小割り当て CPU に対する論理システムの CPU 使用率を示します。割り当て CPU とは、論理システムへの割り当てが保証されているプロセッシングユニットの数です。

このポリシーのしきい値は、WPAR による前の CPU 使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

注: VI-IBMWPARCHPUEntlUtilMonitor-AT_ja_JP ポリシーは、PA 5.0 が実行されている LPAR で作成された WPAR のみ監視します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[IBM LPAR]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[IBM LPAR - Advanced]**

使用するメトリック	BYLS_CPU_ENTL_UTIL BYLS_LS_NAME BYLS_DISPLAY_NAME BYLS_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	IBM WPAR
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_CPU_ENTL_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最大値を表示します。

WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーはHPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を5に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーはHPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を5に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーはHPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を5に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、またはWarningDeviations に指定した値だけ超える場合にHPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値をnoneに設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、またはMinorDeviations に指定した値だけ超える場合にHPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値をnoneに設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、またはMajorDeviations に指定した値だけ超える場合にHPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値をnoneに設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、またはWarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値をnoneに設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、またはMinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値をnoneに設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、またはMajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値をnoneに設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
CPUEntlUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を0に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには2に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

Microsoft Hyper-V 用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-MSHyperVGuestCPUEntUtilMonitor-AT_ja_JP

このポリシーは、Microsoft Hyper-V の現在の CPU 使用率 (%) を計算します。これは、最小割り当て CPU に対する論理システムの CPU 使用率を示します。割り当て CPU とは、論理システムへの割り当てが保証されているプロセッシングユニットの数です。

このポリシーのしきい値は、Microsoft Hyper-V による前の CPU 使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラートが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [MS Hyper-V]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - Advanced]

使用するメトリック	BYLS_CPU_ENTL_UTIL BYLS_LS_NAME BYLS_DISPLAY_NAME GBL_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	Microsoft Hyper-V
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_CPU_ENTL_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最小値を表示します。

MaximumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
CPUEntUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コ

	<p>ンソールでトレースメッセージを受信するには 1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。</p>
--	--

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

Oracle Solaris ゾーン用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-OracleSolarisZoneCPUEntlUtilMonitor-AT_ja_JP

このポリシーは、Solaris ゾーンの現在の CPU 使用率 (%) を計算します。これは、最小割り当て CPU に対する論理システムの CPU 使用率を示します。割り当て CPU とは、論理システムへの割り当てが保証されているプロセッシングユニットの数です。

このポリシーのしきい値は、ゾーンによる前の CPU 使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラートメッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [Oracle Containers]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [Oracle Containers - Advanced]

使用するメトリック	BYLS_CPU_ENTL_UTIL BYLS_LS_NAME BYLS_DISPLAY_NAME GBL_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	Oracle Solaris ゾーン
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_CPU_ENTL_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。

MinimumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。

CPUEntlUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-VmWareGuestCPUEntlUtilMonitor-AT_ja_JP

このポリシーは、VMware ESX または ESXi サーバーの現在の CPU 使用率 (%) を計算します。これは、最小割り当て CPU に対する論理システムの CPU 使用率を示します。割り当て CPU とは、論理システムへの割り当てが保証されているプロセッシングユニットの数です。

このポリシーのしきい値は、ESX または ESXi サーバーによる前の CPU 使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラートメッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	BYLS_CPU_ENTL_UTIL BYLS_LS_NAME BYLS_DISPLAY_NAME GBL_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_CPU_ENTL_UTIL として表示します。

BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけを超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけを超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけを超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コン

	ソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
CPUEntlUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

IBM LPAR 用の Memory Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-IBMLPARMemoryEntlUtilMonitor-AT_ja_JP

VI-IBMLPARMemoryEntlUtilMonitor-AT_ja_JP ポリシーは、アクティブな状態にあるすべての IBM LPAR の現在のメモリ使用率 (%) を計算します。これは、最小割り当てメモリに対する LPAR のメモリ使用率を示します。

割り当てメモリとは、論理システムへの割り当てが保証されているメモリ量です。

このポリシーのしきい値は、LPAR による前のメモリ使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラートメッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [IBM LPAR]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [IBM LPAR - Advanced]

使用するメトリック	BYLS_MEM_ENTL_UTIL BYLS_LS_NAME BYLS_LS_STATE BYLS_DISPLAY_NAME GBL_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	IBM LPAR
スクリプト パラメータ	説明

MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_MEM_ENTL_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された割り当てメモリ使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された割り当てメモリ使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
MEMEntlUtilCutOff	メモリ使用率の監視を停止する基準となる値を設定します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

IBM WPAR 用の Memory Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-IBMWPARMemoryEntlUtilMonitor-AT_ja_JP

VI-IBMWPARMemoryEntlUtilMonitor-AT_ja_JP ポリシーは、アクティブな状態にある IBM WPAR (監視 LPAR で実行されている) の現在のメモリ使用率 (%) を計算します。これは、最小割り当てメモリに対する WPAR のメモリ使用率を示します。

割り当てメモリとは、論理システムへの割り当てが保証されているメモリ量です。

このポリシーのしきい値は、WPAR による前のメモリ使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラートメッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]**
→
[IBM LPAR]
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[IBM LPAR - Advanced]**

使用するメトリック	BYLS_MEM_ENTL_UTIL BYLS_LS_NAME BYLS_LS_STATE
-----------	---

	BYLS_DISPLAY_NAME GBL_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	IBM WPAR
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_MEM_ENTL_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された割り当てメモリ使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された割り当てメモリ使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または

	MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
MEMEntlUtilCutOff	メモリ使用率の監視を停止する基準となる値を設定します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

Oracle Solaris ゾーン用の Memory Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-OracleSolarisMemoryEntlUtilMonitor-AT_ja_JP

VI-OracleSolarisMemoryEntlUtilMonitor-AT_ja_JP ポリシーは、実行中の状態にあるすべての Solaris ゾーンの現在のメモリ使用率 (%) を計算します。これは、最小割り当てメモリに対するゾーンのメモリ使用率を示します。

割り当てメモリとは、論理システムへの割り当てが保証されているメモリ量です。

このポリシーのしきい値は、ゾーンによる前のメモリ使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラートメッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**言語**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]**
→
[Oracle Containers]

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [Oracle Containers - Advanced]

使用するメトリック	<p>BYLS_MEM_ENTL_UTIL (ゾーンがキャップされている場合、キャップされたメモリに対して計算され、ゾーンのキャップが解除されている場合は、合計物理メモリに対して計算されます)</p> <p>BYLS_LS_NAME</p> <p>BYLS_LS_STATE</p> <p>BYLS_DISPLAY_NAME</p> <p>GBL_LS_TYPE</p>
サポートしているプラットフォーム	Oracle Solaris ゾーン
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_MEM_ENTL_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された割り当てメモリ使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された割り当てメモリ使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または

	WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
MEMEntlUtilCutOff	メモリ使用率の監視を停止する基準となる値を設定します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

注: メモリキャップを使用しているゾーンの場合、メトリックによって生成される値と、システムコマンド `prstat -Z` によって与えられる値の間に少し誤差があります。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Network Interface In-Byte Rate Monitor ポリシー

VI-VMwareNetifInbyteBaseline-AT_ja_JP

VI-VMwareNetifInbyteBaseline-AT_ja_JP ポリシーは、任意の間隔でネットワーク インタフェースの受信バイトまたは受信パケット率を監視します。管理ノード上にあるネットワーク インタフェースの受信バイトまたはパケットのすべてのインスタンスを総合的に監視します。自動しきい値決定により、前日のネットワーク インタフェース受信バイト率に従って自動的にしきい値が計算されます。

このポリシーは履歴データに依存します。正確な結果を得るには、HP Performance Agent で 4 週間分のデータが収集されてからポリシーを配布してください。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]**
→
[VMware ESX]
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - Advanced]**

使用するメトリック	BYLS_NET_IN_BYTE BYLS_NET_IN_PACKET
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageApplication	VI-VMwareNetifInbyteBaseline-AT_ja_JP ポリシーによって管理コンソールに送信されるメッセージを特定するための適切な値を入力します。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_NET_IN_BYTE として表示します。
UsePacketNumbers	後続のパラメータのバイト数の代わりに、正味送信パケット数を監視するには、この値を true に設定します。デフォルトでは、この値は false に設定されています。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された受信バイト率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された受信バイト率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータ

	には、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を5に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーはHPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を5に設定します。
MinorHighSeverity	MinorDeviations の正常値を超える違反が発生すると、ポリシーによって重要度が高い警戒域のメッセージが生成されます。
MajorHighSeverity	MajorDeviations の正常値を超える違反が発生すると、ポリシーによって重要度の高い重要警戒域のメッセージが生成されます。
WarningLowSeverity	WarningDeviations の正常値を超える違反が発生すると、ポリシーによって重要度の低い注意域のメッセージが生成されます。
MinorLowSeverity	MinorDeviations の正常値を超える違反が発生すると、ポリシーによって重要度の低い警戒域のメッセージが生成されます。
MajorLowSeverity	MajorDeviations の正常値を超える違反が発生すると、ポリシーによって重要度の低い重要警戒域のメッセージが生成されます。
InstanceSource	ポリシー名を変更しないでください。ポリシーは名前を使用してソースを取得します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を0に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには2に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
HostNetifInbyteCutOff	ホスト サーバーのネットワーク インタフェースの監視を止める基準とする値を設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は30分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Network Interface Out-Byte Rate Monitor ポリシー

VI-VMwareNetifOutbyteBaseline-AT_ja_JP

VI-VMwareNetifOutbyteBaseline-AT_ja_JP ポリシーは、任意の間隔でネットワーク インタフェースの送信バイトまたは受信パケット率を監視します。管理ノード上にあるネットワーク インタフェースの送信バイトまたはパケットのすべてのインスタンスを総合的に監視します。自動しきい値決定により、前日のネットワーク インタフェース送信バイト率に従って自動的にしきい値が計算されます。

このポリシーは履歴データに依存します。正確な結果を得るには、HP Performance Agent で4週間分のデータが収集されてからポリシーを配布してください。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	BYLS_NET_OUT_BYTE BYLS_NET_OUT_PACKET
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageApplication	VI-VMwareNetifOutbyteBaseline-AT_ja_JP ポリシーによって管理コンソールに送信されるメッセージを特定するための適切な値を入力します。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_NET_OUT_BYTE として表示します。
UsePacketNumbers	後続のパラメータのバイト数の代わりに、正味送信パケット数を監視するには、この値を true に設定します。デフォルトでは、この値は false に設定されています。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された送信バイト率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された送信バイト率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。

WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
InstanceSource	ポリシー名を変更しないでください。ポリシーは名前を使用してソースを取得します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
HostNetifOutbyteCutOff	ホスト サーバーのネットワーク インタフェースの監視を止める基準とする値を設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Network Interface Card Monitor ポリシー

VI-VMwareHostNICMonitor_ja_JP

VI-VMwareHostNICMonitor_ja_JP ポリシーは、各 ESX または ESXi サーバーにインストールされているネットワーク インターフェイスカードのパフォーマンスを監視します。

しきい値に達するかこれを超えると、VI-VMwareHostNICMonitor_ja_JP ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

注: デフォルトでは、重要なアラートはマスクされます。このポリシーの重要なアラートを受信する場合は、ポリシーを開いて NICByteRateCriticalThreshold およびNICPktRateCriticalThreshold の各スクリプト パラメータを適宜変更します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	BYNETIF_IN_BYTE_RATE BYNETIF_OUT_BYTE_RATE BYNETIF_IN_PACKET_RATE BYNETIF_OUT_PACKET_RATE BYNETIF_NAME BYNETIF_ID BYNETIF_NET_TYPE
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
NICByteRateMajorThreshold	インターフェイスから 1 秒あたりに転送される平均バイト数が指定の値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
NICByteRateMinorThreshold	インターフェイスから 1 秒あたりに転送される平均バイト数が指定の値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
NICByteRateWarningThreshold	インターフェイスから 1 秒あたりに転送される平均バイト数が指定の値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
NICPktRateMajorThreshold	このインターフェイスから 1 秒あたりに転送される平均パケット数が指定の値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
NICPktRateMinorThreshold	このインターフェイスから 1 秒あたりに転送される平均パケット数が指定の値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
NICPktRateWarningThreshold	このインターフェイスから 1 秒あたりに転送される平均パケット数

	が指定の値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
UsePktInfo	このポリシーでパケット転送速度を監視する場合、この変数を設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は5分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Memory Performance Monitor ポリシー

VI-VMwareVMMemoryPerformanceMonitor_ja_JP

VI-VMwareVMMemoryPerformanceMonitor_ja_JP ポリシーは、仮想マシンのメモリパフォーマンスを監視します。仮想マシンによって使用されるメモリ容量を、使用権を持つ仮想メモリ容量と比較します。

仮想マシンによって使用されているメモリ容量を計算するため、仮想マシンによって (プロセス、アプリケーション、サービスの実行のために) 実際に使用されているメモリ容量と、ホストオペレーティングシステムが使用量増大に備えて保持しているメモリ容量の差が計算されます。ホストオペレーティングシステムは、使用量増大によって、ゲスト仮想マシンに割り当てられているメモリの拡張や縮小を行い、ゲスト仮想マシン全体のメモリ使用量を制御します。

しきい値に達するかこれを超えると、VI-VMwareVMMemoryPerformanceMonitor_ja_JP ポリシーによって HPOM コンソールにアラートメッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]**
→
[VMware ESX]
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** →
[Policies Grouped by Vendor] → **[VMware ESX - QuickStart]**

使用するメトリック	BYLS_LS_ROLE BYLS_LS_UUID BYLS_MEM_SWAPOUT BYLS_MEM_USED BYLS_MEM_PHYS_UTIL
-----------	---

	BYLS_MEM_ENTL BYLS_MEM_BALLOON_UTIL BYLS_MEM_ENTL_MIN BYLS_MEM_ENTL_MAX BYLS_MEM_BALLOON_USED BYLS_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
VMSwapUtilMajorThreshold	仮想マシンのスワップ使用率レベルが指定した値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
VMSwapUtilMinorThreshold	仮想マシンのスワップ使用率レベルが指定した値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
VMSwapUtilWarningThreshold	仮想マシンのスワップ使用率レベルが指定した値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
Debuglevel	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Host Memory Health Monitor ポリシー

VI-VMwareHostMemoryHealthMonitor_ja_JP

VI-VMwareHostMemoryHealthMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX または ESXi サーバーのホスト マシンの動作状況をメモリ使用率の観点で監視します。これを使用して、ホスト コンピューターのメモリの可用性や使用率を監視できます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラートメッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	BYLS_DISPLAY_NAME BYLS_LS_UUID BYLS_MEM_PHYS_UTIL BYLS_LS_ROLE BYLS_MEM_HEALTH BYLS_LS_HOSTNAME
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
UseMemoryHealthMetric	<p>メトリック BYLS_MEM_HEALTH の使用を示すフラグ値である true または false を表示します。ホスト マシンで使用可能なメモリ容量を監視するには、この値を true に設定します。</p> <p>true に設定した場合、以下のパラメータによってホストの使用可能なメモリが監視されます。false に設定した場合、以下のパラメータによってホストのメモリ使用率が監視されます。</p>
HostMemHealthMajorThreshold	仮想マシンのホスト メモリ使用率レベルが指定した値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
HostMemHealthMinorThreshold	仮想マシンのホスト メモリ使用率レベルが指定した値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
HostMemHealthWarningThreshold	仮想マシンのホスト メモリ使用率レベルが指定した値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の仮想マシンによる Host Memory Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareHostsMemoryUtilMonitor-AT_ja_JP

VI-VMwareHostsMemoryUtilMonitor-AT_ja_JP ポリシーは、VMware ESX または ESXi ホスト サーバーの下にあるすべてのアクティブな VM による合計ホスト メモリ使用率 (サービスコンソールのメモリ使用率も含む) を計算します。

このポリシーのしきい値は、前のホスト メモリ使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - Advanced]**

使用するメトリック	BYLS_LS_ROLE BYLS_LS_HOSTNAME BYLS_MEM_PHYS_UTIL
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_MEM_PHYS_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックが示すホスト メモリ使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックが示すホスト メモリ使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より

	大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を5に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
HostMemUtilCutOff	メモリ使用率の監視を停止する基準となる値を設定します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の仮想マシンによる Memory Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareVMMemoryUtilMonitor_ja_JP

VI-VMwareVMMemoryUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX または ESXi サーバー上にあるすべてのアクティブな VM によるメモリ使用率 (%) を計算します。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	BYLS_LS_UUID BYLS_LS_ROLE BYLS_LS_STATE BYLS_MEM_SWAPOUT BYLS_MEM_ENTL_MIN BYLS_MEM_ENTL_MAX BYLS_LS_HOST_HOSTNAME
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
VMSwapOutCriticalThreshold	仮想マシンのメモリスワップアウトが危険域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「危険域」のアラートメッセージが生成されます。
VMSwapOutMajorThreshold	仮想マシンのメモリスワップアウトが重要警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
VMSwapOutMinorThreshold	仮想マシンのメモリスワップアウトが警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
VMSwapOutWarningThreshold	仮想マシンのメモリスワップアウトが注意域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
VMMemUtilCriticalThreshold	仮想マシンのメモリ使用率が危険域のしきい値を超えている

	場合、ポリシーによって重要度が「危険域」のアラートメッセージが生成されます。
VMMemUtilMajorThreshold	仮想マシンのメモリ使用率が重要警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
VMMemUtilMinorThreshold	仮想マシンのメモリ使用率が警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
VMMemUtilWarningThreshold	仮想マシンのメモリ使用率が注意域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
MessageApplication	送信メッセージのアプリケーション。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は5分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の仮想マシンによる Total Memory Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareTotalVMMemoryUtilMonitor_ja_JP

VI-VMwareTotalVMMemoryUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX または ESXi サーバー上にあるすべてのアクティブな VM による合計メモリ使用率 (%) を計算します。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラートメッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**言語**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]**
→ **[VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management]** → [**言語**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - Advanced]**

使用するメトリック	BYLS_LS_PARENT_UUID BYLS_MEM_PHYS_UTIL
-----------	---

	BYLS_DISPLAY_NAME BYLS_LS_ROLE BYLS_LS_UUID BYLS_LS_NAME BYLS_LS_HOSTNAME BYLS_LS_STATE
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
MemUtilMajorThreshold	合計メモリ使用率 (%) が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
MemUtilMinorThreshold	合計メモリ使用率 (%) が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
MemUtilWarningThreshold	合計メモリ使用率 (%) が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

IBM LPAR 用の Frame Memory Utilization Monitor ポリシー

VI-IBMLPARFrameMemoryUtilMonitor_ja_JP

VI-IBMLPARFrameMemoryUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、IBM AIX フレームのメモリ使用率を監視し、AIX フレームの物理メモリ使用率で異常な増大があった場合にアラートを発行します。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラートメッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。アラートメッセージには、次の情報が含まれています。

- フレーム内の LPAR の名前。
- LPAR に割り当てられているメモリ量 (MB 単位)。
- LPAR で使用されているメモリ量 (MB 単位)。
- LPAR でフレームに対して使用されているメモリの割合。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [IBM LPAR]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [IBM LPAR - QuickStart]

使用するメトリック	BYLS_MEM_ENTL_UTIL BYLS_MEM_ENTL GBL_LS_TYPE GBL_SYSTEM_ID BYLS_DISPLAY_NAME BYLS_LS_TYPE BYLS_LS_NAME
サポートしているプラットフォーム	IBM AIX フレーム
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
MemUtilMajorThreshold	メモリ使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
MemUtilMinorThreshold	メモリ使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
MemUtilWarningThreshold	メモリ使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は5分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

Oracle Solaris ゾーン用の Physical Memory Utilization Monitor ポリシー

VI-OracleSolarisHostMemoryUtilMonitor_ja_JP

VI-OracleSolarisHostMemoryUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、Solaris ゾーンのメモリ使用率を監視します。しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラートメッセージが送

信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [Oracle Containers]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [Oracle Containers - QuickStart]

使用するメトリック	GBL_MEM_UTIL GBL_MEM_FREE BYLS_MEM_ENTL_UTIL BYLS_MEM_ENTL BYLS_DISPLAY_NAME
サポートしているプラットフォーム	Oracle Solaris ゾーン
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
MemUtilMajorThreshold	メモリ使用率が指定したしきい値を超えていて、使用可能な空きメモリ容量 (MB 単位) が指定されたしきい値未満の場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
FreeMemAvailMajorThreshold	
MemUtilMinorThreshold	メモリ使用率が指定したしきい値を超えていて、使用可能な空きメモリ容量 (MB 単位) が指定されたしきい値未満の場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
FreeMemAvailMinorThreshold	
MemUtilWarningThreshold	メモリ使用率が指定したしきい値を超えていて、使用可能な空きメモリ容量 (MB 単位) が指定されたしきい値未満の場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
FreeMemAvailWarningThreshold	
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

Oracle Solaris ゾーン用の Swap Utilization Monitor ポリシー

VI-OracleSolarisZoneSwapUtilMonitor-AT_ja_JP

VI-OracleSolarisZoneSwapUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、Solaris ゾーンのスワップ使用率を監視します。しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [Oracle Containers]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [Oracle Containers - Advanced]**

使用するメトリック	BYLS_LS_NAME BYLS_MEM_SWAP_UTIL
サポートしているプラットフォーム	Oracle Solaris ゾーン
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_MEM_SWAP_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示されたスワップ使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示されたスワップ使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大

	きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を5に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
SwapUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

VMware データセンター用の Data Collector ポリシー

VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP

VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーは、VMware データセンターの CPU、メモリ、およびデータストア パフォーマンス データに関するデータを収集し、CODA に記録します。

CODA に記録されるメトリック	VMWARE_VC_NAME
	VMWARE_DC_NAME
	VMWARE_DC_CPU_UTIL
	VMWARE_DC_CPU_USED
	VMWARE_DC_CPU_TOTAL
	VMWARE_DC_MEMORY_UTIL
	VMWARE_DC_MEMORY_USED
	VMWARE_DC_MEMORY_TOTAL
	VMWARE_DC_DATASTORE_UTIL
	VMWARE_DC_DATASTORE_FREE
VMWARE_DC_DATASTORE_TOTAL	
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]**
→
[VMware ESX]
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - QuickStart]**

VI-VMwareDCCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシー、VI-VMwareDCMemoryUtilMonitor_ja_JP ポリシー、および VI-VMwareDCDataStoreUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集および記録されたデータに基づいてアラートを発行します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

VMware データセンター用の CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareDCCPUUtilMonitor_ja_JP

注: このポリシーは、VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されたデータに依存するため、VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーの配布後 **30 分** してから配布する必要があります (「VMware データセンター用の Hardware Data Collector ポリシー」(55 ページ)を参

照してください)。

VI-VMwareDCCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware データセンターレベルでの総 CPU 使用率を監視します。VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて、VI-VMwareDCCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

使用するメトリック	VMWARE_DC_CPU_UTIL VMWARE_DC_NAME VMWARE_VC_NAME
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
DCCPUUtilMajorThreshold	データセンターレベルでの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
DCCPUUtilMinorThreshold	データセンターレベルでの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
DCCPUUtilWarningThreshold	データセンターレベルでの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware データセンター用の Memory Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareDCMemoryUtilMonitor_ja_JP

注: このポリシーは、VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されたデータに依

存するため、VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーの配布後 **30 分**してから配布する必要があります (「VMware データセンター用の Hardware Data Collector ポリシー」(55ページ)を参照してください)。

VI-VMwareDCMemoryUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware データセンターレベルでの総メモリ使用率を監視します。VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて、VI-VMwareDCMemoryUtilMonitor_ja_JP ポリシーは HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

使用するメトリック	VMWARE_DC_MEMORY_UTIL VMWARE_DC_NAME VMWARE_VC_NAME
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
DCMemoryUtilMajorThreshold	データセンターレベルでのメモリ使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
DCMemoryUtilMinorThreshold	データセンターレベルでのメモリ使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
DCMemoryUtilWarningThreshold	データセンターレベルでのメモリ使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は5分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware データセンター用の Datastore Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareDCDataStoreUtilMonitor_ja_JP

注: このポリシーは、VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されたデータに依存するため、VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーの配布後 **30 分**してから配布する必要があります (「VMware データセンター用の Hardware Data Collector ポリシー」(55ページ)を参照してください)。

VI-VMwareDCDataStoreUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware データセンターレベルでの総データストア (ディスク領域) 使用率を監視します。VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて、VI-VMwareDCDataStoreUtilMonitor_ja_JP ポリシーは HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

使用するメトリック	VMWARE_VC_NAME VMWARE_DC_NAME VMWARE_DC_DATASTORE_UTIL
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
DCDataStoreUtilMajorThreshold	データセンターレベルでのデータストア (ディスク領域) 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
DCDataStoreUtilMinorThreshold	データセンターレベルでのデータストア (ディスク領域) 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
DCDataStoreUtilWarningThreshold	データセンターレベルでのデータストア (ディスク領域) 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー

VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP

VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP ポリシーは、Virtual Machine File System (VMFS) のディスク領域使用率、LUN 待ち時間、およびディスクのスループットに関するデータを収集し、CODA に記録します。

VMFS は、VMware のゲスト ディスクファイルが格納されるデータストレージ ボリュームを表しています。

このポリシーは VMware の API を使用して、次の情報を取得します。

- 特定のホストに接続されているストレージ デバイス
- HBA デバイス番号
- ホスト名
- ホストの UUID
- ホストの場所
- ファイルシステム
- 領域使用率
- 最大容量
- 使用可能領域
- 使用率 (%)
- 合計読み取り待ち時間
- 合計書き込み待ち時間
- デバイス読み取り待ち時間
- デバイス書き込み待ち時間
- カーネル読み取り待ち時間
- カーネル書き込み待ち時間
- 発行したコマンド数
- 中断したコマンド数
- バスリセット数
- 読み取りスループット
- 書き込みスループット

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - QuickStart]**

このポリシーのデフォルトの記録間隔は 30 分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

VMware ESX または ESXi サーバー用の VMFS Read Latency Monitor ポリシー

VI-VMFSReadLatencyMonitor_ja_JP

注: このポリシーは、VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されたデータに依存するため、VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP ポリシーの配布後 **30 分**してから配布する必要があります (「VMware ESX または ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー」(119ページ)を参照してください)。

VI-VMFSReadLatencyMonitor_ja_JP ポリシーが監視するのは以下のとおりです。

- VMFS 読み取り待ち時間
- VMFS デバイス読み取り待ち時間
- VMFS カーネル読み取り待ち時間

VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて (「VMware ESX または ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー」(119ページ)を参照)、VI-VMFSReadLatencyMonitor_ja_JP ポリシーは HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
ReadLatencyMajorThreshold	読み取り待ち時間が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
ReadLatencyMinorThreshold	読み取り待ち時間が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
ReadLatencyWarningThreshold	読み取り待ち時間が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
AssignMessageToRemoteHost	アラート メッセージの送信元をリモート ホストとして表示するには、この値を 1 に設定します。デフォルトでは、メッセージはメッセージの送信元の管理ノードに割り当てられます。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の VMFS Write Latency Monitor ポリシー

VI-VMFSWriteLatencyMonitor_ja_JP

注: このポリシーは、VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されたデータに依存するため、VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP ポリシーの配布後 **30 分**してから配布する必要があります (「VMware ESX または ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー」(119ページ)を参照してください)。

VI-VMFSWriteLatencyMonitor_ja_JP ポリシーが監視するのは以下のとおりです。

- VMFS 書き込み待ち時間
- VMFS デバイス書き込み待ち時間
- VMFS カーネル書き込み待ち時間

VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて (「VMware ESX または ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー」(119ページ)を参照)、VI-VMFSWriteLatencyMonitor_ja_JP ポリシーは HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
WriteLatencyMajorThreshold	書き込み待ち時間が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
WriteLatencyMinorThreshold	書き込み待ち時間が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
WriteLatencyWarningThreshold	書き込み待ち時間が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
AssignMessageToRemoteHost	アラート メッセージの送信元をリモート ホストとして表示するには、この値を 1 に設定します。デフォルトでは、メッセージは送信元の管理ノードに割り当てられています。

MessageGroup	送信 メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]**
→
[VMware ESX]
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - Advanced]**

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Disk Error Monitor ポリシー

VI-VMwareDiskErrorMonitor_ja_JP

注: このポリシーは、VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されたデータに依存するため、VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーの配布後 **30 分** してから配布する必要があります (「[VMware ESX または ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー](#)」(119 ページ) を参照してください)。

VI-VMwareDiskErrorMonitor_ja_JP ポリシーは、ディスクバスリセット数と終了したディスクコマンド数を監視します。VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて (「[VMware ESX または ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー](#)」(119 ページ) を参照)、VI-VMwareDiskErrorMonitor_ja_JP ポリシーは HPOM コンソールにアラートメッセージを送信します。

サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
DiskBusResetMajorThreshold	ディスクバスリセット数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
DiskBusResetMinorThreshold	ディスクバスリセット数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
DiskBusResetWarningThreshold	ディスクバスリセット数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
DiskCommandsAbortedMajorThreshold	終了したディスクコマンド数が指定したしきい値を

	超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
DiskCommandsAbortedMinorThreshold	終了したディスクコマンド数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
DiskCommandsAbortedWarningThreshold	終了したディスクコマンド数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
AssignMessageToRemoteHost	アラート メッセージの送信元をリモート ホストとして表示するには、この値を 1 に設定します。デフォルトでは、メッセージは送信元の管理ノードに割り当てられています。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Disk Throughput Monitor ポリシー

VI-VMwareDiskThroughputMonitor_ja_JP

注: このポリシーは、VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されたデータに依存するため、VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーの配布後 **30 分**してから配布する必要があります (「VMware ESX または ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー」(119 ページ)を参照してください)。

VI-VMwareDiskThroughputMonitor_ja_JP ポリシーは、ディスク読み取りスループット速度とディスク書き込みスループット速度を監視します。

VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて (「VMware ESX または ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー」(119 ページ)を参照)、VI-VMwareDiskThroughputMonitor_ja_JP ポリシーは HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
DiskReadThroughputMajorThreshold	ディスクの読み取りスループット速度が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
DiskReadThroughputMinorThreshold	ディスクの読み取りスループット速度が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
DiskReadThroughputWarningThreshold	ディスクの読み取りスループット速度が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
DiskWriteThroughputMajorThreshold	ディスクの書き込みスループット速度が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
DiskWriteThroughputMinorThreshold	ディスクの書き込みスループット速度が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
DiskWriteThroughputWarningThreshold	ディスクの書き込みスループット速度が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
AssignMessageToRemoteHost	アラート メッセージの送信元をリモート ホストとして表示するには、この値を 1 に設定します。デフォルトでは、メッセージは送信元の管理ノードに割り当てられています。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]**
→
[VMware ESX]
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - Advanced]**

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX または ESXi サーバー用の Vifp Target Check ポリシー

VI-VMwareVifpTargetCheck_ja_JP

VI-VMwareVifpTargetCheck_ja_JP ポリシーは、vifp コマンドを使用して管理ノード上の VMware vMA ターゲット サーバーの接続状態を監視します。接続上の問題に基づいて、このポリシーは HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

サポートしているプラットフォーム	VMware ESX または ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - QuickStart]**

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 15 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

KVM または Xen 用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-LinuxVirtHostCPUUtilMonitor_ja_JP

VI-LinuxVirtHostCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、KVM または用のホストサーバー (管理ノード) の CPU を監視し、パフォーマンスが設定されたしきい値より低下した場合にアラートメッセージを送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[LinuxVirt]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[LinuxVirt - QuickStart]**

VI-LinuxVirtHostCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、次の項目に関する情報を提供します。

- ホストレベルの CPU 使用率
- 最大 CPU を利用している VM (降順)

使用するメトリック	GBL_CPU_TOTAL_UTIL GBL_SYSTEM_ID GBL_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	KVM または Xen
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
CPUUtilCriticalThreshold_ja_JP	ホスト マシンの CPU 使用率が危険域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「危険域」のアラートメッセージが生成されます。
CPUUtilMajorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が重要警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
CPUUtilMinorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
CPUUtilWarningThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が注意域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

アラートメッセージは、上記の表に記載したスクリプトパラメータの値に基づいて生成されます。ホスト CPU の使用率の値が正常値に到達すると、アラートメッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は5分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

KVM または Xen 用の Guest CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-LinuxVirtGuestCPUUtilMonitor_ja_JP

VI-LinuxVirtGuestCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、KVM または用のゲストサーバー(管理ノード)のCPUを監視し、パフォーマンスが設定されたしきい値より低下した場合にアラートメッセージを送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[LinuxVirt]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[LinuxVirt - QuickStart]**

VI-LinuxVirtGuestCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、次の項目に関する情報を提供します。

- ホスト レベルのCPU 使用率
- 最大 CPU を利用している VM (降順)

使用するメトリック	BYLS_LS_ROLE BYLS_CPU_TOTAL_UTIL BYLS_DISPLAY_NAME BYLS_LS_UUID BYLS_LS_STATE BYLS_LS_HOST_HOSTNAME
サポートしているプラットフォーム	KVM または Xen
スクリプト パラメータ	説明
VMCPUUtilMajorThreshold_ja_JP	ホスト マシンのCPU 使用率が重要警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
VMCPUUtilMinorThreshold_ja_JP	ホスト マシンのCPU 使用率が警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
VMCPUUtilWarningThreshold_ja_JP	ホスト マシンのCPU 使用率が注意域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

アラート メッセージは、上記の表に記載したスクリプト パラメータの値に基づいて生成されます。ゲスト CPU の使用率の値が正常値に到達すると、アラート メッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

KVM または Xen 用の Physical Disk Byte Rate Baseline ポリシー

VI-LinuxVirtDiskPhysByteRateBaseline-AT_ja_JP

VI-LinuxVirtDiskPhysByteRateBaseline-AT_ja_JP ポリシーは、KVM または Xen 用の物理ディスクに対して 1 秒あたりに送受信される平均バイト数を監視するためのインスタンス ベースラインを使用して、パフォーマンスが設定されたしきい値より低下した場合にアラート メッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → **[<言語>]** → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]**
→ **[LinuxVirt]**

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [LinuxVirt - Advanced]

使用するメトリック	BYLS_DISK_PHYS_BYTE_RATE BYLS_LS_ROLE BYLS_LS_NAME BYLS_LS_UUID BYLS_DISPLAY_NAME
サポートしているプラットフォーム	KVM または Xen
スクリプト パラメータ	説明
MessageApplication	受信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_DISK_PHYS_BYTE_RATE として表示します。
UsePacketNumbers	TRUE に設定されている場合に正味パケット数を監視します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックが示す転送バイト数の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックが示す転送バイト数の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。

WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
InstanceSource	ポリシー名を変更しないでください。ポリシーは名前を使用してソースを取得します。
DebugLevel	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
DiskPhysbyteCutOff	送信バイト率の監視を停止する基準となる DiskPhysbyteCutOff の値を設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

KVM または Xen 用の Net Byte Rate Baseline ポリシー

VI-LinuxVirtNetByteRateBaseline-AT_ja_JP

VI-LinuxVirtNetByteRateBaseline-AT_ja_JP ポリシーは、KVM または Xen 用の正味バイト率を監視するためのインスタンス ベースラインを使用して、パフォーマンスが設定されたしきい値より低下した場合にアラート メッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [LinuxVirt]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [LinuxVirt - Advanced]

使用するメトリック	BYLS_NET_BYTE_RATE BYLS_LS_ROLE BYLS_DISPLAY_NAME BYLS_LS_UUID
サポートしているプラットフォーム	KVM または Xen
スクリプト パラメータ	説明
MessageApplication	受信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_NET_BYTE_RATE として表示します。
UsePacketNumbers	TRUE に設定されている場合に正味パケット数を監視します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された正味バイト率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された正味バイト率の最大値を表示します。

WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーはHPOMコンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を5に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーはHPOMコンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviationsに指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を5に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーはHPOMコンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviationsに指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を5に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、またはWarningDeviationsに指定した値だけ超える場合にHPOMコンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値をnoneに設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、またはMinorDeviationsに指定した値だけ超える場合にHPOMコンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値をnoneに設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、またはMajorDeviationsに指定した値だけ超える場合にHPOMコンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値をnoneに設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、またはWarningDeviationsで指定した値だけ下回った場合に、HPOMコンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値をnoneに設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、またはMinorDeviationsで指定した値だけ下回った場合に、HPOMコンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値をnoneに設定します。

MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
InstanceSource	ポリシー名を変更しないでください。ポリシーは名前を使用してソースを取得します。
DebugLevel	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
NetbyteRateCutOff	送信バイト率の監視を停止する基準となる NetbyteRateCutOff の値を設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

KVM または Xen 用の Guest Total CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-LinuxVirtGuestCPUTotalUtilMonitor-AT_ja_JP

VI-LinuxVirtGuestCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、KVM または Xen 用のゲスト マシンの CPU 使用率の合計を監視するためのマルチインスタンス ベースラインを使用して、パフォーマンスが設定されたしきい値より低下した場合にアラートメッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [LinuxVirt]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [LinuxVirt - Advanced]

使用するメトリック	BYLS_CPU_TOTAL_UTIL BYLS_LS_NAME BYLS_LS_UUID BYLS_DISPLAY_NAME BYLS_LS_ROLE
サポートしているプラットフォーム	KVM または Xen
スクリプト パラメータ	説明

MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_CPU_TOTAL_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します(例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックが示す CPU 使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックが示す CPU 使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
InstanceSource	ポリシー名を変更しないでください。ポリシーは名前を使用してソースを取得します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
CPUTotUtilCutOff	CPU 使用率レベルの監視を停止する基準となる CPUTotUtilCutOff の値を設定します。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

KVM または Xen 用の Memory Utilization Monitor ポリシー

VI-LinuxVirtHostMemoryUtilMonitor_ja_JP

VI-LinuxVirtHostMemoryUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、KVM または Xen 用のホスト マシンのメモリ使用率を監視し、パフォーマンスが設定されたしきい値より低下した場合にアラートメッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[LinuxVirt]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[LinuxVirt - Advanced]**

使用するメトリック	GBL_MEM_UTIL GBL_MEM_FREE GBL_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	KVM または Xen
スクリプト パラメータ	説明
MemUtilCriticalThreshold	ホスト マシンのメモリ使用率が危険域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「危険域」のアラートメッセージが生成されます。
MemUtilMajorThreshold	ホスト マシンのメモリ使用率が重要警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
MemUtilMinorThreshold	ホスト マシンのメモリ使用率が警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
MemUtilWarningThreshold	ホスト マシンのメモリ使用率が注意域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
FreeMemAvailCriticalThreshold	ホスト マシンの使用可能な空きメモリ容量 (MB 単位) が危険域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「危険域」のアラートメッセージが生成されます。
FreeMemAvailMajorThreshold	ホスト マシンの使用可能な空きメモリ容量 (MB 単位) が重要警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
FreeMemAvailMinorThreshold	ホスト マシンの使用可能な空きメモリ容量 (MB 単位) が警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
FreeMemAvailWarningThreshold	ホスト マシンの使用可能な空きメモリ容量 (MB 単位) が注意域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

アラートメッセージは、上記の表に記載したスクリプトパラメータの値に基づいて生成されます。ホストメモリの使用率の値が正常値に到達すると、アラートメッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

KVM または Xen 用の Memory Performance Monitor ポリシー

VI-LinuxVirtVMMemoryPerformanceMonitor_ja_JP

VI-LinuxVirtVMMemoryPerformanceMonitor_ja_JP ポリシーは、KVM または Xen 仮想マシンのメモリパフォーマンスを監視し、パフォーマンスが設定されたしきい値より低下した場合にアラートメッセージを送信します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[LinuxVirt]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[LinuxVirt - Advanced]**

使用するメトリック	BYLS_LS_ROLE BYLS_LS_TYPE BYLS_LS_UUID BYLS_MEM_USED BYLS_MEM_PHYS_UTIL BYLS_MEM_ENTL BYLS_LS_HOST_HOSTNAME BYLS_DISPLAY_NAME BYLS_MEM_SWAPOUT
サポートしているプラットフォーム	KVM または Xen
スクリプト パラメータ	説明
VMSwapOutMajorThreshold	仮想マシンのメモリスワップアウトが重要警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
VMSwapOutMinorThreshold	仮想マシンのメモリスワップアウトが警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
VMSwapOutWarningThreshold	仮想マシンのメモリスワップアウトが注意域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。

VMMemUtilMajorThreshold	仮想マシンのメモリ使用率が重要警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
VMMemUtilMinorThreshold	仮想マシンのメモリ使用率が警戒域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
VMMemUtilWarningThreshold	仮想マシンのメモリ使用率が注意域のしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
Debuglevel	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

アラートメッセージは、上記の表に記載したスクリプトパラメータの値に基づいて生成されます。ホストメモリの使用率の値が正常値に到達すると、アラートメッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は5分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

KVM または Xen 用の Memory Usage ポリシー

VI-LinuxVirtVMMemoryUsage-AT_ja_JP

VI-LinuxVirtVMMemoryUsage-AT_ja_JP ポリシーは、ゲスト仮想マシンとリソースプールによって使用されているメモリ使用量 (単位: MB) を監視します。

コンソールツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[LinuxVirt]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[LinuxVirt - Advanced]**

このポリシーは、仮想マシンの使用されているメモリ使用量の監視のため、マルチインスタンスベースラインを使用します。自動しきい値決定により、しきい値は自動的に計算されます。しきい値の計算は、ゲスト仮想マシンの前日のホストメモリ使用量に従って行われます。しきい値に達するかこれを超えると、VI-LinuxVirtVMMemoryUsage-AT_ja_JP によって HPOM コンソールにアラートが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

使用するメトリック	BYLS_DISPLAY_NAME BYLS_MEM_USED BYLS_LS_UUID BYLS_LS_ROLE
------------------	--

サポートしているプラットフォーム	KVM または Xen
スクリプト パラメータ	説明
MessageApplication	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データオブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_MEM_USED として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックが示すメモリ使用量の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックが示すメモリ使用量の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要警戒域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示し

	ます。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプルデータ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
InstanceSource	ポリシー名を変更しないでください。ポリシーは名前を使用してソースを取得します。
DebugLevel	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
MemUsageCutOff	仮想ゲストコンピューターのメモリ使用量の監視を止める基準とする値を設定します。

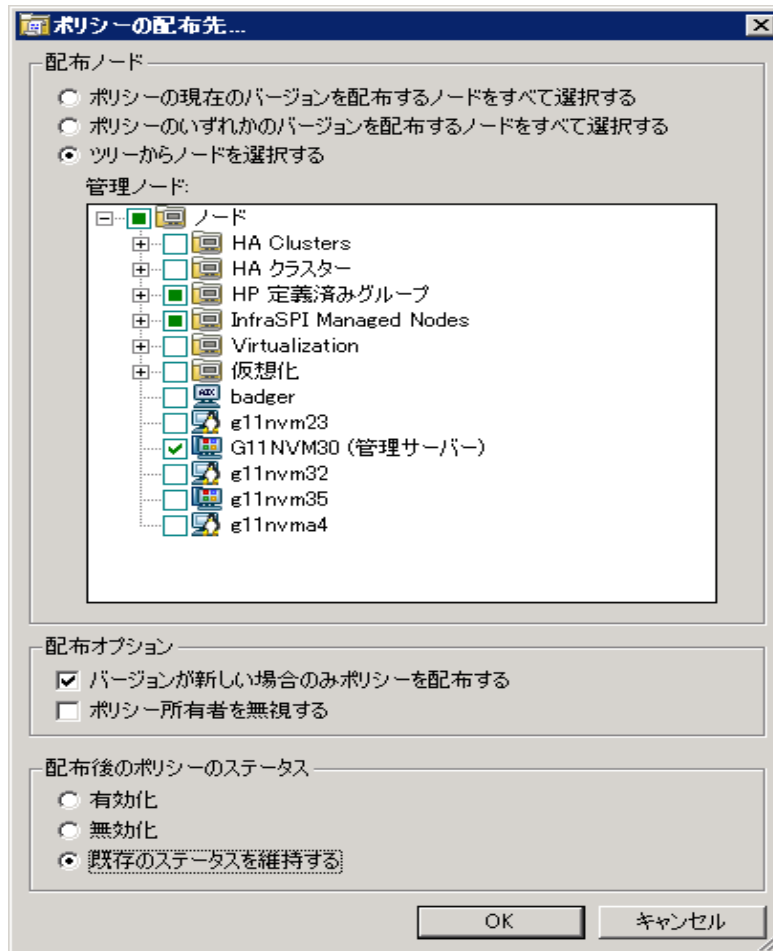
このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラートメッセージが自動的に確認されます。

HPOM for Windows 管理サーバーからの VI SPI ポリシーの配布

管理サーバーからポリシーを手動で配布するには、以下の手順を実行します。

1. 配布するポリシーを右クリックします。
2. メニューから **[すべてのタスク]** を選択します。
3. **[配布先ノード]** を選択します。[ポリシーの配布先] ダイアログボックスが開きます。



4. [ツリーからノードを選択する] オプションを選択します。管理ノードのリストから、ポリシーを配布するノードを選択します。
5. [OK] をクリックします。

HPOM for UNIX 管理サーバーからの VI SPI ポリシーの配布

ポリシーを配布する前に、管理サーバーに既にノードが追加された状態であり、HP Operations Agent ソフトウェアがインストールされていることを確認してください。管理サーバーにノードを追加する方法の詳細は、HP Operations Manager for Unix オンラインヘルプを参照してください。

HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、Solaris) 管理サーバーからポリシーを配布するには、以下の手順を実行します。

タスク 1: ポリシーまたはポリシーグループの割り当て

1. 管理者として HPOM にログオンします。HPOM 管理者 UI が表示されます。
2. [登録オブジェクト] カテゴリの [登録ポリシー] をクリックします。[登録ポリシー] ウィンドウが開きます。
3. [登録ポリシー] ウィンドウで、ノードまたはノードグループに割り当てるポリシーまたはポリシーグループを選択します。

4. **[アクションを選択]** ドロップダウン ボックスから **[ノード/ノード グループに割り当て...]** を選択し、**[submit]** をクリックします。**[セレクト]** ウィンドウが開きます。
5. ノードまたはノード グループを選択し、**[OK]** をクリックします。選択したポリシーがノードに割り当てられます。

タスク2: ポリシーの配布

1. HPOM 管理者用 インタフェースから、**[登録オブジェクト]** カテゴリの **[登録ノード]** をクリックします。**[登録ノード]** ウィンドウが開きます。
2. **[登録ノード]** ウィンドウで、ポリシーの配布先となるノードまたはノード グループを選択します。
3. **[アクションを選択]** ドロップダウン ボックスから **[設定を配布...]** を選択し、**[submit]** をクリックします。選択 ウィンドウが開きます。
4. **[ポリシーの配布]** チェック ボックスをオンにし、**[OK]** をクリックします。このポリシーは、選択したノードに配布されます。

Virtualization Infrastructure SPI のツール

Virtualization Infrastructure SPI には、仮想化されたインフラストラクチャを管理するための多くの設定済みツールがあります。これらのツールは、VMware vMA によって管理されている VMware ESX および ESXi サーバーでサポートされています。

HPOM for Windows 管理サーバーからツールを起動するには、以下の手順を実行します。

1. コンソール ツリーの **[ツール]** フォルダで、**[仮想化 インフラストラクチャ]** フォルダを選択します。
2. ツールをダブルクリックします。**[このツールの起動場所の選択]** ウィンドウが開きます。
3. **[ノード、グループ、またはサービスを1つ以上選択してください。]** 項で、ツールを起動するホストサーバーノードを選択します。
4. **[起動]** をクリックします。**[パラメータの編集]** ページが表示されます。
5. **[パラメータ]** テキスト ボックスを空白のままにして vMA によって管理されているすべてのホストに関する情報を表示するか、ホスト名を入力して特定のホストに関する情報を表示します。
6. **[起動]** をクリックします。**[ツールのステータス]** ウィンドウが表示されます。起動されているツールとツールの出力の一覧が表示されます。

HPOM for UNIX 管理サーバーからツールを起動するには、以下の手順を実行します。

1. 管理者用 インタフェースの **[登録ツール]** → **[仮想化 インフラストラクチャ]** に移動します。
2. **[VMware ホスト情報]** ツールを右クリックし、**[カスタマイズ/起動]** を選択します。**[ツール起動 - カスタマイズ ウィザード]** ウィンドウが開きます。
3. ノード リストで、ツールを起動するホストサーバーノードを選択します。
4. ウィザードで **[選択の取込み]** をクリックします。ノードが **[選択したノード]** リストに追加されます。
5. **[次へ]** をクリックします。
6. **[ツール実行に必要な情報を追加してください]** ページで、その他の情報を入力するか、各フィールドを空白のままにします。
7. **[完了]** をクリックします。ツールの出力が表示されます。

ホスト情報ツール

VMware ホスト情報

このツールは、VMware vMA によって管理されているホスト システムに関する情報を表示します。ブート時間、ファイルシステム、ホストのステータス、メモリ使用量などの情報が表示されます。デフォルトでは、vMA によって管理されている各ホストに関する情報が表示されます。1つのシステムに関する情報も表示できます。

ゲスト情報ツール

LinuxVirt ゲスト情報

このツールは、KVM または Xen によって管理されているゲスト システムに関する情報を表示します。CPU 時間、ゲストのステータス、メモリ使用量などの情報が表示されます。デフォルトでは、ゲスト システムの状態に無関係に、KVM または Xen によって管理されている各ゲストに関する情報が表示されます。ツールの実行中にパラメータとしてゲスト システム名を渡すことで、1つのゲスト システムに関する情報も表示できます。

中断されている仮想マシン一覧ツール

中断されている VMware の VM 一覧

このツールは、vMA によって管理され、中断または電源がオフにされているすべての仮想コンピュータを表示します。デフォルトでは、vMA によって管理されているサーバーでホストされている仮想マシンに関する情報が表示されます。1つのサーバーでホストされている仮想マシンに関する情報も表示できます。

LinuxVirt の 中断されてる VM 一覧

このツールは、LinuxVirt サーバー上で設定され、中断または電源がオフにされているすべての仮想コンピュータを表示します。1つのサーバーでホストされている仮想マシンに関する情報も表示できます。

仮想マシン一覧ツール

VMware の VM 一覧

このツールは、vMA によって管理されているすべての仮想コンピュータを表示します。デフォルトでは、vMA によって管理されているサーバーでホストされている仮想マシンが表示されます。1つのサーバーでホストされている仮想マシンの一覧も表示できます。

LinuxVirt の VM 一覧

このツールでは、選択した KVM または Xen ホストのアクティブな仮想マシンがすべて表示されます。このツールの実行中にパラメータを渡す必要はありません。

リソースプール情報ツール

VMware リソースプール情報

このツールは、VMware vMA によって管理されているリソースプールに関する情報を表示します。設定されている保証最小 CPU ユニット数、予約されているメモリ容量、最小プロセッサ容量などの情報が表示されます。デフォルトでは、vMA によって管理されているサーバーでホストされている各リソースプールに関する情報が表示されます。1 つのシステムでホストされているリソースプールに関する情報も表示できます。このツールでは、[パラメータの編集] ページは表示されません。

VMware vMA の全体的ステータス ツール

VMware vMA の全体的ステータス

このツールは、VMware vMA に関する全体的情報を表示します。インストールされている Operations Agent のバージョンや、Operations Agent の主なコンポーネントのステータスなど、Operations Agent に関する情報が表示されます。また、ノードの vMA バージョン、vMA リソースの割り当てと使用率、vMA に接続されているターゲット ノードのステータス、vMA 4.0 または 4.1 または 5.0 で使用可能なインスタンス数など、vMA 関連の情報も表示されます。このツールにはパラメータを渡す必要はありません。

Virtualization Infrastructure SPI のレポートとグラフ

Virtualization Infrastructure SPI と HP Reporter を統合することにより、管理ノードから収集したメトリックデータに基づいてレポートを生成できます。レポートから、仮想リソースの全体像を把握できます。また、グラフを作成して、収集されたメトリックデータを分析することもできます。Virtualization Infrastructure SPI で収集したデータからレポートとグラフを作成して表示するには、HP Reporter と HP Performance Manager を HPOM と併用します。

Virtualization Infrastructure SPI のレポート

レポートから、仮想リソースの全体像を把握できます。Virtualization Infrastructure SPI と HP Reporter を統合することにより、管理ノードから収集したメトリックデータに基づいてレポートを生成できます。

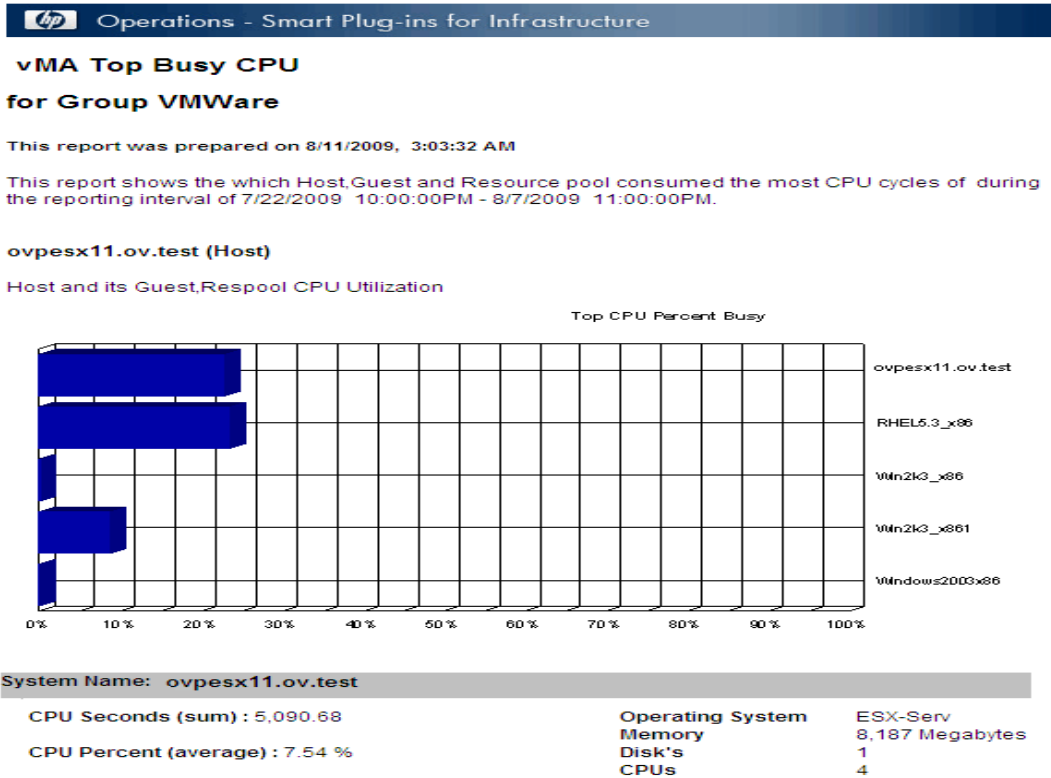
Virtualization Infrastructure SPI のレポートには、HPOM コンソールからアクセスできます。HP Reporter パッケージをインストールするには、『Infrastructure SPIs インストールガイド』を参照してください。

HPOM for Windows から Virtualization Infrastructure SPI のレポートを表示するには、コンソールツリーで **[レポート]** → **[Virtualization Infrastructure]** を選択して展開します。必要なレポートを選択して右クリックし、**[レポートの表示]** を選択すると、レポートが表示されます。

また、Virtualization Infrastructure SPI の [レポート] フォルダは、データがノードで収集され、Service Reporter による統合プロセスが完了するまで、作成されません。通常、統合プロセスはノードが管理対象になってから 24 時間後に完了します。

HP Reporter を HPOM 管理サーバー (Windows、UNIX、Linux、または Solaris オペレーティングシステム向け) に接続されている別のシステムにインストールした場合、HP Reporter システムでレポートを表示できます。HP Reporter と HPOM を統合する方法の詳細は、『HP Reporter Installation and Special Configuration Guide』を参照してください。

図 1: レポートの例



Virtualization Infrastructure SPI には、以下のレポートが用意されています。

表 1:Virtualization Infrastructure SPI のレポート

レポート/レポートのタイトル	目的	プラットフォーム
HPVM Configuration	このレポートには、HPVM ホストの構成情報が表示されます。このレポートを使用して、HPVM ホストの構成の詳細を表示して比較できます。	HPVM
HPVM CPU Utilization	このレポートには、HPVM ホストの物理 CPU 使用率の詳細が表示されます。このレポートを使用して、HPVM ホストの CPU 使用率を表示して比較できます。	HPVM
IBM LPAR Configuration	このレポートには、IBM LPAR の構成情報が表示されます。このレポートを使用して、IBM LPAR の構成の詳細を表示して比較できます。	IBM LPAR
IBM LPAR CPU Utilization	このレポートには、IBM LPAR の物理 CPU 使用率の詳細が表示されます。このレポートを使用して、IBM LPAR の CPU 使用率を表示して比較できます。	IBM LPAR

レポート/レポートのタイトル	目的	プラットフォーム
IBM LPAR Memory Utilization	このレポートには、IBM LPAR の物理メモリ使用率の情報が表示されます。このレポートを使用して、IBM LPAR の物理メモリ使用率を表示して比較できます。	IBM LPAR
Infra SPI Active HPOM Message Severity	このレポートには、データ収集時に確認されなかった、HPOM サーバーのアクティブな Infrastructure SPI エラー メッセージの重要度が表示されます。	Microsoft Hyper-V
Infra SPI Active HPOM Messages - Top 20	このレポートには、データ収集時に確認されなかった、HPOM サーバーの上位 20 のアクティブなエラーメッセージの重要度が表示されます。	Microsoft Hyper-V
Infra SPI History HPOM Message Severity	このレポートには、HPOM サーバーに送信され、確認された Infrastructure SPI エラーメッセージの重要度が表示されます。	Microsoft Hyper-V
Infra SPI History HPOM Messages - Top 20	このレポートには、HPOM サーバーに送信され、確認されなかった上位 20 の Infrastructure SPI エラーメッセージが表示されます。	Microsoft Hyper-V
Oracle Containers Configuration	このレポートには、Oracle コンテナの構成情報が表示されます。このレポートを使用して、Oracle コンテナの構成の詳細を表示して比較できます。	Oracle Solaris ゾーン
Oracle Containers CPU Utilization	このレポートには、Oracle コンテナの物理 CPU 使用率の詳細が表示されます。このレポートを使用して、Oracle コンテナの CPU 使用率を表示して比較できます。	Oracle Solaris ゾーン
VMware Configuration	このレポートには、ホスト ESX/ESXi サーバーの設定情報と、設定されているゲスト仮想コンピューターが表示されます。このレポートを使用して、ホストマシンとゲストマシンの設定の詳細を表示して比較できます。	VMware ESX/ESXi
VMware CPU Utilization	このレポートには、vMA の物理 CPU 使用率の詳細と、管理されているホスト ESX/ESXi サーバーが表示されます。また、リソースプールと、ホストに設定されているゲスト仮想コンピューターも表示されます。このレポートを使用して、ホストコンピューターとゲストコンピューターの物理 CPU 使用率を表示して比較できます。	VMware ESX/ESXi
VMware Memory Utilization	このレポートには、vMA の物理メモリ使用率の情報、管理されているホスト ESX/ESXi	VMware ESX/ESXi

レポート/レポートのタイトル	目的	プラットフォーム
	サーバーが表示されます。このレポートを使用して、ESX/ESXi ホスト コンピューターの物理メモリ使用率と、設定されているゲスト仮想コンピュータを表示して比較できます。	
VMware DataCenter CPU Utilization	このレポートには、VMware データセンターレベルでの総物理 CPU 使用率の詳細が表示されます。	VMware ESX/ESXi
VMware DataCenter Memory Utilization	このレポートには、VMware データセンターレベルでの総メモリ使用率の詳細が表示されます。	VMware ESX/ESXi
VMware DataCenter Datastore Utilization	このレポートには、VMware データセンターレベルでの総データストア使用率の詳細が表示されます。	VMware ESX/ESXi
Infra SPI Active HPOM Message Severity	このレポートには、データ収集時に確認されなかった、HPOM サーバーのアクティブな Infrastructure SPI エラーメッセージの重要度が表示されます。	VMware ESX/ESXi
Infra SPI Active HPOM Messages - Top 20	このレポートには、データ収集時に確認されなかった、HPOM サーバーの上位 20 のアクティブなエラーメッセージの重要度が表示されます。	VMware ESX/ESXi
Infra SPI History HPOM Message Severity	このレポートには、HPOM サーバーに送信され、確認された Infrastructure SPI エラーメッセージの重要度が表示されます。	VMware ESX/ESXi
Infra SPI History HPOM Messages - Top 20	このレポートには、HPOM サーバーに送信され、確認されなかった上位 20 の Infrastructure SPI エラーメッセージが表示されます。	VMware ESX/ESXi
LinuxVirt Host-Guest CPU Utilization	このレポートには、一定時間内にホストシステムとゲストシステムで消費された全 CPU サイクル数の平均割合が表示されます。	KVM または Xen
LinuxVirt Host-Guest Disk Phys Read Byte Rate	このレポートには、一定時間内に LinuxVirt ホストシステムとゲストシステムで前回の更新操作と現在の更新操作の間にディスクから読み取られたバイト数が表示されます。	KVM または Xen
LinuxVirt Host-Guest Disk Phys Write Byte Rate	このレポートには、一定時間内に LinuxVirt ホストシステムとゲストシステムで前回の更新操作と現在の更新操作の間にディスクに書き込まれたバイト数が表示されます。	KVM または Xen
LinuxVirt Host-Guest Net In Packet Rate	このレポートには、LinuxVirt ホストシステムとゲストシステムの前回の更新サイクルと現在の	KVM または Xen

レポート/レポートのタイトル	目的	プラットフォーム
	更新サイクルの間でデータが受信された平均レートが表示されます。	
LinuxVirt Host-Guest Net Out Packet Rate	このレポートには、LinuxVirt ホスト システムとゲスト システムの前の更新サイクルと現在の更新サイクルの間でデータが送信された平均レートが表示されます。	KVM または Xen

Virtualization Infrastructure SPI のグラフ

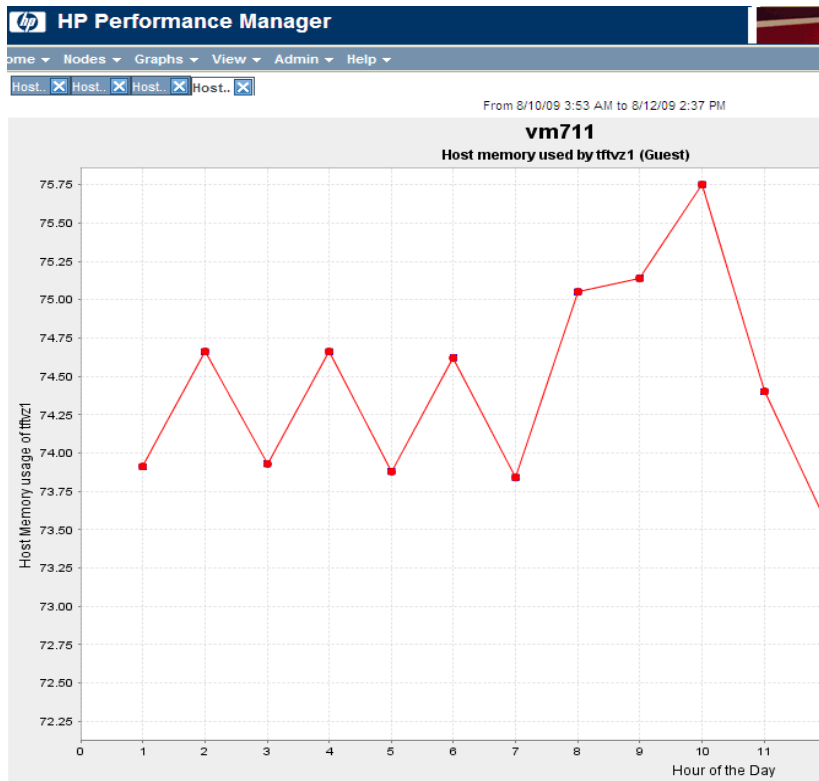
また、グラフを作成して、収集されたメトリック データを分析することもできます。Virtualization Infrastructure SPI で収集したデータからグラフを作成して表示するには、HP Performance Manager を HPOM と併用します。HP Performance Manager は、管理ノードで収集されたほぼリアルタイムのデータを元にグラフを生成します。HP Performance Manager を HPOM 管理サーバーにインストールしている場合、HPOM コンソールからこれらのグラフにアクセスできます。

Virtualization Infrastructure SPI には、設定済みのグラフがいくつか用意されています。これらのグラフは、HPOM コンソールツリーの [Graphs] フォルダにあります。この [Graphs] フォルダにアクセスできるのは、HPOM 管理サーバーに HP Performance Manager をインストールした場合のみです。以下に、グラフの例を示します。

HPOM for Windows でグラフにアクセスするには、**[Graphs]** → **[Infrastructure Performance]** → **[Virtualization]**を選択します。

HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、および Solaris) でグラフにアクセスするには、アクティブなメッセージを選択して [メッセージのプロパティ] ウィンドウを開き、**[アクション]** をクリックします。[オペレータ起動アクション] 項で、**[起動]** をクリックします。または、アクティブなメッセージを右クリックして **[アクションの起動/停止]** を選択し、**[オペレータ起動アクションの起動]** をクリックします。

図 2:グラフの例



Virtualization Infrastructure SPI には、以下のグラフが用意されています。

- 全体の履歴
- グローバル実行キューのベースライン
- 全体の詳細
- 複数のグローバル予測
- CPU の概要
- CPU 使用率の概要
- CPU 使用率のベースライン
- 個々の CPU
- CPU の比較
- CPU ゲージ
- CPU の詳細
- 全体的な CPU の予測
- 季節を考慮した CPU の予測
- ディスクの概要
- ディスクのスループット
- ディスク容量
- ディスク容量 (円グラフ)

- ディスクの詳細
- ディスク使用率
- スワップ領域使用率
- ネットワークの概要
- 個々のネットワーク
- ネットワークインターフェースの詳細
- メモリの概要
- 物理メモリ使用率
- システム構成
- 構成の概要
- トランザクションの正常性
- トランザクションの履歴
- トランザクションの詳細
- トランザクションの応答予測
- ファイルシステムの詳細
- アプリケーション CPU ゲージ
- アプリケーション CPU 予測
- アプリケーションの履歴
- アプリケーションの詳細
- プロセスの詳細
- 仮想化構成
- VM のステータス
- 論理システムによる CPU 割り当て
- 論理システムによる CPU 割り当ての使用率 (%)
- 論理システムによる合計物理 CPU の使用率 (%)
- LPAR フレームごとの物理 CPU 割り当ての使用率 (%)
- LPAR フレームメモリ使用率
- 論理システムの CPU 詳細
- 論理システムによる CPU の概要
- 論理システムによるメモリ割り当ての使用率 (%)
- 論理システムによるメモリの概要
- CPU 割り当て使用率のベースライン
- ゾーンごとのスワップ使用率 (%)

- ゾーンごとのメモリ使用率 (%)
- VMware ESX/ESXi ホスト メモリ使用率
- VMware ESX/ESXi ホスト メモリ使用率のベースライン
- VMware ESX/ESXi ホスト ディスク使用率
- VMware ESX/ESXi ホスト - ネットワークMB
- VMware ESX/ESXi - リソースプールにまたがる CPU 使用率
- Solaris コンテナ ホスト CPU 使用率
- MSHyper-V ホスト CPU 使用率
- HPVM ホスト CPU 使用率
- LPAR フレームレベル CPU 使用率
- LPAR フレーム CPU 使用率
- ゲスト - CPU 割り当て使用率
- VMware データセンター - CPU とメモリの集計使用率
- VMware データセンター - CPU の使用率 (%)
- VMware データセンター - メモリの使用率 (%)
- VMware データセンター - データストアの使用率 (%)
- LinuxVirt ネットワークバイト率のベースライン
- LinuxVirt 物理ディスクバイト率のベースライン
- 論理システムによる合計 CPU の使用率 (%)
- 論理システムによる CPU の概要
- LinuxVirt ホスト CPU 使用率
- LinuxVirt での VM ごとのメモリ使用率 (%)

トラブルシューティング

この章では、Virtualization Infrastructure SPI の制限事項と問題の概要、および基本的なトラブルシューティング情報を提供します。

検出

問題	VI 検出を実行できない。HPOM サーバーでサービス マップが表示されず、VM の自動追加がトリガされない。
解決策	ノード上で検出エージェントを再起動します。コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。 <code>ovc -restart agtrep</code>

問題	英語以外の名前を使用すると、検出手順とデータ収集でエラーが発生する。
原因	Virtualization Infrastructure SPI では、英語以外のマシン名やリソースグループ名がある仮想インフラストラクチャ設定はサポートされていません。 Virtualization Infrastructure SPI を英語以外の HP Operations Manager に配布しても問題はありません。ただし、仮想システムに英語以外の名前を使用すると、HP Operations Agent の StoreCollection OvPerl API で認識されないため、エラーが発生します。

問題	[ノード] → [Virtualization] → [ESX/ESXi Virtual machines] に表示されないゲストマシンがある。
原因	この問題は、電源オフ状態のゲストマシンで発生します。
解決策	ゲストマシンの電源をオンにします。これにより、Performance Agent はこのマシンのデータを収集してノードグループに追加します。

問題	仮想化の検出時に ESX および ESXi サーバーによってホストされているゲストを追加するメッセージが生成されますが、それらのアクションはデフォルトではエラーになります。
----	--

原因	この問題は、HPOM 管理サーバーの XPL 設定 <code>infraspi.AutoAdd_Guests</code> がデフォルトで <code>false</code> に設定されているために起こります。この値を <code>true</code> に設定してアクションを再度実行すると、ゲストを追加できます。
解決策	<p>デフォルトでは、アクションは自動的に実行されません。これは、そのようなアクションの実行時に多数の仮想コンピューターがまとめて追加され、HPOM コンソールのパフォーマンスが低下することを防ぐためです。自動アクションには、都合のよい時間を選択できます。</p> <p>自動追加機能を有効にするには、以下の手順を実行します。</p> <p>HPOM コンソールで、[Infrastructure Management] → [Settings and Thresholds] → [Agent Settings] をクリックします。</p> <ol style="list-style-type: none">1. AUTO_ADDITION_SETTINGS ポリシーをダブルクリックします。ポリシー ウィンドウが開きます。2. <code>AutoAdd_Guests</code> を <code>true</code> に設定します。3. [ポリシーを保存して閉じる] をクリックします。4. ノードに <code>AUTO_ADDITION_SETTINGS</code> ポリシーを配布します。

ポリシー

問題	HPOM for UNIX の管理者用インタフェースで変更した高度な監視ポリシーを管理ノードに配布した後、実行できない。
原因	<p>HPOM for UNIX ポリシーエディタのインタフェースモードで高度な監視ポリシーを編集すると、Perlコードモジュールで構文エラーが発生します。これが原因で、ポリシーを実行できなくなります。以下のようなエラーが表示されます。</p> <p>An error occurred in the processing of the policy 'SI-LinuxSshdProcessMonitor'. ('SI-LinuxSshdProcessMonitor_ja_JP' ポリシーの実行中にエラーが発生しました。) Please check the following errors and take corrective actions. (以下のエラーを確認して適切なアクションを取ってください。) (OpC30-797)</p> <p>Error during evaluation of threshold level "Processes - Fill Instance list" (しきい値レベル "Processes - Fill Instance list" の評価中にエラーが発生しました) (OpC30-728)</p> <p>Execution of instance filter script failed. (インスタンスフィルタスクリプトの実行に失敗しました。) (OpC30-714)</p> <p>Perl Script execution failed: syntax error at PerlScript line 11, near"1 (Perlスクリプトの実行に失敗しました。Perlスクリプトの11行目、"1の近くに構文エラーがあります)</p> <pre>#BEGIN_PROCESSES_LIST #ProcName=/usr/sbin/sshd #Params= #Params= #MonMode=>= #ProcNum=1 #END_PROCESSES_LIST @ProcNames"</pre> <p>Missing right curly or square bracket at PerlScript line 17, within string (Perl</p>

	<p>スクリプトの 17 行目の文字列に右中括弧または右角括弧がありません)</p> <pre>syntax error at PerlScript line 17, at EOF. (Perl スクリプトの 17 行目、EOF に構文エラーがあります。)</pre> <p>. (OpC30-750)</p> <p>未編集の高度な監視ポリシー ([Measurement Threshold] タイプ) を HPOM on UNIX から配布して使用できます。</p>
解決策	<p>Measurement Threshold ポリシーの設定を編集するため、HPOM for UNIX の管理者用インタフェースの「編集 (Raw モード)」機能を使用してポリシーの内容を変更します。そのためには、ポリシー データファイルの構文を理解している必要があります。</p>

問題	<p>VM イベント コレクタ ポリシーがタイムアウトする。</p>
原因	<p>VM イベント コレクタ ポリシーは、デフォルトで 15 分ごとに実行されるようスケジュールされています。(VM イベント コレクタ ポリシーの) イベント収集スクリプトは、イベント収集でタイムアウトした後、デフォルトで最大 10 分間動作できるようになっています。</p>
解決策	<p>イベント コレクタ ポリシーのスケジュール間隔を変更する場合、タイムアウト間隔をコレクタ ポリシーのスケジュール間隔より短く設定してください。</p>

問題	<p>HPOM コンソールに警告/エラーメッセージが表示される。</p> <p>Check the following errors and take corrective actions. (以下のエラーを確認して適切なアクションを取ってください。)(OpC30-797) Error during evaluation of threshold level "CPU Spikes level Critical" (しきい値レベル"CPU Spikes level Critical" の評価中にエラーが発生しました)(OpC30-728) Execution of threshold script failed. (しきい値スクリプトの実行に失敗しました。)(OpC30-712) Perl Script execution failed: Can't locate OvTrace.pm in @INC (@INC contains: /usr/lpp/OV/lib/eaagt/perl /usr/lpp/OV/lib/eaagt/perl /var/opt/OV/bin/instrumentation /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/5.8.8/aix-thread-multi /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/5.8.8 /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/site_perl/5.8.8/aix-thread-</p>
-----------	--

	<p>multi /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/site_perl/5.8.8 /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/site_perl.) at PerlScript line 136. (Perl スクリプトの実行に失敗しました。Perl スクリプト の 136 行目の @INC (@INC には以下が含まれていま す。/usr/lpp/OV/bin/eaagt/perl /usr/lpp/OV/bin/eaagt/perl /var/opt/OV/bin/instrumentation /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/5.8.8/aix-thread-multi /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/5.8.8 /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/site_perl/5.8.8/aix-thread- multi /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/site_perl/5.8.8 /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/site_perl) 内に OvTrace.pm が見つかりません。)</p> <p>BEGIN failed--compilation aborted (in cleanup) Can't locate OvTrace.pm in @INC (@INC contains: /usr/lpp/OV/bin/eaagt/perl /usr/lpp/OV/bin/eaagt/perl /var/opt/OV/bin/instrumentation /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/5.8.8/aix-thread-multi /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/5.8.8 /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/site_perl/5.8.8/aix-thread- multi /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/site_perl/5.8.8 /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/site_perl.) at PerlScript line 136. (BEGIN が失敗しました。コンパイルは中断しました (ク リーンアップ) Perl スクリプトの 136 行目の @INC (@INC には以下が含まれています。/usr/lpp/OV/bin/eaagt/perl /usr/lpp/OV/bin/eaagt/perl /var/opt/OV/bin/instrumentation /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/5.8.8/aix-thread-multi /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/5.8.8 /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/site_perl/5.8.8/aix-thread- multi /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/site_perl/5.8.8 /usr/lpp/OV/nonOV/perl/a/lib/site_perl) 内に OvTrace.pm が見つかりません。)</p> <p>BEGIN failed--compilation aborted at PerlScript line 136. (BEGIN が失敗しました。コンパイルは Perl スクリプトの 136 行目で中断しました。)</p> <p>(OpC30-750)</p>
<p>原因</p>	<p>インストールメンテーションがノードに正しく配布されないと、 任意のポリシーと *.pm ファイルでこのエラーが発生します。</p>
<p>解決策</p>	<p>インストールメンテーションをノードに強制的に配布します。</p>

<p>問題</p>	<p>コレクタ ポリシーのメトリックが表示されない。</p>
<p>解決策</p>	<p>データ収集用の VI SPI には 2 つのコレクタ ポリシーがあり</p>

まず、以下の手順を実行して、これらの各ポリシーのメトリックが記録されているかどうかを確認します。

1. VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP および VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーをノードに配布します。これらのポリシーは、情報を収集して CODA に格納します。
2. 以下のコマンドを入力します。

```
ovcodautlil -obj
```
3. コマンドの実行後に、両方のポリシーの以下のクラスとオブジェクトの下にリストされているメトリックを確認します。

ポリシー名:VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP

クラス:VISPI

オブジェクト:VMFS

メトリック:

- VMFS_HOSTNAME
- VMFS_DEVNAME
- VMFS_DEVNO
- VMFS_DIRNAME
- VMFS_TYPE
- VMFS_MAX_SIZE
- VMFS_SPACE_AVAIL
- VMFS_SPACE_UTIL
- VMFS_TOTAL_READ_LATENCY
- VMFS_TOTAL_WRITE_LATENCY
- VMFS_DEVICE_READ_LATENCY
- VMFS_DEVICE_WRITE_LATENCY
- VMFS_KERNEL_READ_LATENCY
- VMFS_KERNEL_WRITE_LATENCY
- VMFS_DISK_BUS_RESETS
- VMFS_DISK_COMMANDS_ISSUED
- VMFS_DISK_COMMANDS_ABORTED
- VMFS_DISK_READ_THROUGHPUT
- VMFS_DISK_WRITE_THROUGHPUT

	<ul style="list-style-type: none"> • VMFS_UUID • VMFS_HOSTNAME • VMFS_DEVNAME • VMFS_DEVNO • VMFS_DIRNAME • VMFS_TYPE • VMFS_MAX_SIZE • VMFS_SPACE_AVAIL • VMFS_SPACE_UTIL • VMFS_TOTAL_READ_LATENCY • VMFS_TOTAL_WRITE_LATENCY • VMFS_DEVICE_READ_LATENCY • VMFS_DEVICE_WRITE_LATENCY • VMFS_KERNEL_READ_LATENCY • VMFS_KERNEL_WRITE_LATENCY • VMFS_DISK_BUS_RESETS • VMFS_DISK_COMMANDS_ISSUED • VMFS_DISK_COMMANDS_ABORTED • VMFS_DISK_READ_THROUGHPUT • VMFS_DISK_WRITE_THROUGHPUT <p>ポリシー名: VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP</p> <p>クラス: VISPI</p> <p>オブジェクト: DC</p> <p>メトリック:</p> <ul style="list-style-type: none"> • VMWARE_VC_NAME • VMWARE_DC_NAME • VMWARE_DC_CPU_UTIL • VMWARE_DC_CPU_USED • VMWARE_DC_CPU_TOTAL • VMWARE_DC_MEMORY_UTIL • VMWARE_DC_MEMORY_USED • VMWARE_DC_MEMORY_TOTAL
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> VMWARE_DC_DATASTORE_UTIL VMWARE_DC_DATASTORE_FREE VMWARE_DC_DATASTORE_TOTAL <p>メトリックがリストされていない場合、配布したポリシーは動作していません。</p>

問題	データがコレクタポリシーの各メトリックに対して記録されない。
解決策	<p>データ収集用のVI SPIには2つのコレクタポリシーがあります。以下の手順を実行して、これらの各ポリシーのデータが記録されているかどうかを確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP および VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーをノードに配布します。 両方のポリシーのメトリックが収集されているかどうかを確認します。メトリックの一覧の詳細は、「コレクタポリシーのメトリックが表示されない。」(121 ページ)を参照してください。 以下のコマンドを入力します。 <pre>ovcodautil -dumpds VISPI</pre> <p>コマンドを実行すると、両方のポリシーの各メトリックのデータが表示されます。データが各メトリックに対して表示されない場合は、そのポリシーのデータが記録されていません。</p>

VI SPI スクリプト

問題	vMA システムで設定されている再試行レベルによって、Virtualization Infrastructure SPI のスクリプトの実行に長い時間がかかる。
原因	VMware vMA は、追加されたホスト サーバーへの登録を何回も試み、これは成功するまで続きます。そのため、vMA システムで設定されている再試行レベルによって、Virtualization Infrastructure SPI のスクリプトの実行に長い時間がかかります。
解決策	<p>vMA システムで以下のコマンドを実行して、再試行回数を1に減らします。</p> <pre>#sysctl -w net.ipv4.tcp_syn_retries=1 net.ipv4.tcp_syn_retries = 1 #service network restart</pre>

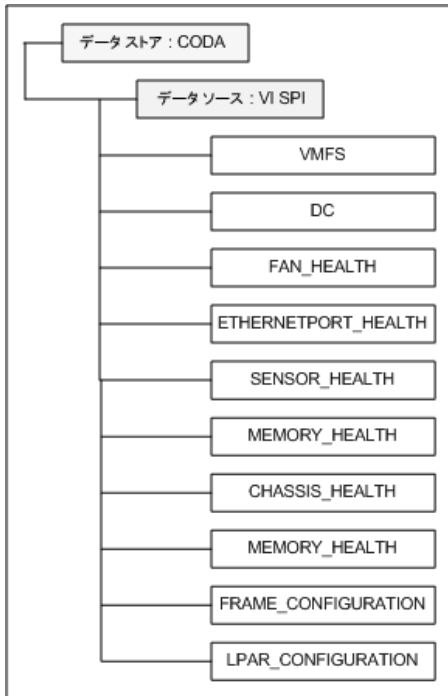
HP Operations Agent

問題	HP Operations Agent の証明書 を vMA システム にインストールできない。
原因	vMA システム では、デフォルト で iptable ファイアウォール が実行され、ネットワーク経路の通信がブロックされています。
解決策	<p>次の手順に従って、HP Operations Agent の証明書 を vMA にインストールします。</p> <ol style="list-style-type: none">1. HTTPS の TCP ポート (383) を双方向 (受信と送信) で開きます。2. 証明書を取得するための要求を再実行し (ovcert -certreq)、サーバーから証明書を取得します。 <p>ポート 383 の詳細とこれを有効にする方法は、『HP Operations Manager ファイアウォールコンセプトおよび設定ガイド』を参照してください。</p>

A) Virtualization Infrastructure SPI のメトリック

VISPI は、SCOPE (HP Performance Agent 用) が提供するメトリックと共に、パフォーマンススペースの監視ポリシーを提供します。VI SPI は Infrastructure SPI のメトリックを使用します。これらのメトリックは、デフォルトのデータストアである CODA (HP Operations Agent 用) に収集および記録されます。Performance Agent のメトリックの詳細は、『HP Performance Agent for Windows Dictionary of Operating System Performance Metrics』を参照してください。

収集オブジェクト



Infrastructure SPI メトリックを収集するポリシーを次に示します。

- VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP
- VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP
- VI-VMwareHardwareHealthCollector_ja_JP
- VI-IBMHMCDDataCollector_ja_JP

VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック

仮想マシンのファイルシステムに関連するメトリックを次に示します。

CODA\\VISPI\\VMFS

メトリック名	説明
VMFS_UUID	ファイルシステムのユニバーサル固有識別子。
VMFS_HOSTNAME	ファイルシステムのホスト名。
VMFS_DEVNAME	VMFS ボリュームのユーザー フレンドリ名。
VMFS_DEVNO	デバイス番号。
VMFS_DIRNAME	ファイルシステムのディレクトリ名。
VMFS_TYPE	ファイルシステムの種類。
VMFS_MAX_SIZE	ファイルシステムの最大サイズ。
VMFS_SPACE_AVAIL	ファイルシステム上の使用可能な領域の合計。
VMFS_SPACE_UTIL	ファイルシステム上の使用済みの領域の合計。
VMFS_TOTAL_READ_LATENCY	読み取りにかかった時間として、ゲスト オペレーティングシステムが認識した時間。カーネル読み取り待ち時間と物理デバイス読み取り待ち時間の合計です。
VMFS_TOTAL_WRITE_LATENCY	書き込みにかかった時間として、ゲスト オペレーティングシステムが認識した時間。カーネル書き込み待ち時間と物理デバイス書き込み待ち時間の合計です。
VMFS_DEVICE_READ_LATENCY	物理デバイスからの読み取りが完了するまでの平均時間 (ミリ秒)。
VMFS_DEVICE_WRITE_LATENCY	物理デバイス (LUN) への書き込みが完了するまでの平均時間 (ミリ秒)。
VMFS_KERNEL_READ_LATENCY	VMKernel が各 SCSI 読み取りコマンドの処理にかかった平均時間 (ミリ秒)。
VMFS_KERNEL_WRITE_LATENCY	VMKernel が各 SCSI 書き込みコマンドの処理にかかった平均時間 (ミリ秒)。
VMFS_DISK_BUS_RESETS	収集間隔内でファイルシステムが発行した SCSI バスリセット コマンドの数。
VMFS_DISK_COMMANDS_ISSUED	収集間隔内で発行された SCSI コマンドの数。
VMFS_DISK_COMMANDS_ABORTED	収集間隔内で中断された SCSI コマンドの数。
VMFS_DISK_READ_THROUGHPUT	物理ディスクの読み取りスループット。
VMFS_DISK_WRITE_THROUGHPUT	物理ディスクの書き込みスループット。

VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック

VMware データセンターに関連するメトリックを次に示します。

CODA\\VISPI\\DC

メトリック名	説明
VMWARE_VC_NAME	vCenter の名前。
VMWARE_DC_NAME	データセンターの名前。
VMWARE_DC_CPU_UTIL	データセンター全体の CPU 使用率。
VMWARE_DC_CPU_USED	データセンター全体の CPU 使用量 (MHz)。
VMWARE_DC_MEMORY_UTIL	データセンター全体のメモリ使用率。
VMWARE_DC_MEMORY_USED	データセンター全体のメモリ使用量 (GB)。
VMWARE_DC_MEMORY_TOTAL	データセンター全体のメモリの合計 (GB)。
VMWARE_DC_DATASTORE_UTIL	データセンター全体のデータストア使用率。
VMWARE_DC_DATASTORE_FREE	データセンター全体の空きディスク領域 (GB)。
VMWARE_DC_DATASTORE_TOTAL	データセンター全体のディスク領域の合計 (GB)。

VI-VMwareHardwareHealthCollector_ja_JP ポリシー によって収集されるメトリック

ホスト マシンのハードウェアの正常性に関連するメトリックの集合を次に示します。

CODA\\VISPI\\FAN_HEALTH

メトリック名	説明
VMWARE_FAN_HOST_NAME	ホスト マシンの名前。
VMWARE_FAN_HOST_UUID	ホスト マシンのユニバーサル固有識別子。
VMWARE_FAN_ELEMENT_NAME	ファンのユーザーフレンドリ名。
VMWARE_FAN_HEALTH_STATE	ファンの現在の正常性。
VMWARE_FAN_OPERATIONAL_STATUS	ファンの現在のステータス。

CODA\\VISPI\\ETHERNETPORT_HEALTH

メトリック名	説明
VMWARE_ETHERNETPORT_HOST_NAME	ホスト マシンの名前。
VMWARE_ETHERNETPORT_HOST_UUID	ホスト マシンのユニバーサル固有識別子。

メトリック名	説明
VMWARE_ETHERNETPORT_ELEMENT_NAME	Ethernet ポートのユーザーフレンドリ名。
VMWARE_ETHERNETPORT_DESCRIPTION	Ethernet ポートの説明テキスト。
VMWARE_ETHERNETPORT_NETWORK_ADDRESSES	Ethernet/802.3 MAC アドレス。12 桁の 16 進数 (「010203040506」など) の形式で、2 桁がそれぞれ MAC アドレスの 6 オクテットの 1 つとなります (「標準形式」のビット順)。
VMWARE_ETHERNETPORT_ENABLED_STATE	Ethernet ポートの有効または無効な状態。
VMWARE_ETHERNETPORT_HEALTH_STATE	Ethernet ポートの現在の正常性。
VMWARE_ETHERNETPORT_OPERATIONAL_STATUS	Ethernet ポートの現在のステータス。

CODA\\VISPI\\SENSOR_HEALTH

メトリック名	説明
VMWARE_SENSOR_HOST_NAME	ホスト マシンの名前。
VMWARE_SENSOR_HOST_UUID	ホスト マシンのユニバーサル固有識別子。
VMWARE_SENSOR_PART_COMPONENT	説明はありません。
VMWARE_SENSOR_SENSOR_NAME	センサーを識別するラベル。
VMWARE_SENSOR_SENSOR_TYPE	センサーのタイプ (電圧センサー、温度センサーなど)。
VMWARE_SENSOR_HEALTH_STATE	センサーの現在の正常性。
VMWARE_SENSOR_OPERATIONAL_STATUS	センサーの現在のステータス。
VMWARE_SENSOR_CURRENT_READING	センサーの現在の読み値。

CODA\\VISPI\\PROCESSOR_HEALTH

メトリック名	説明
VMWARE_PROCESSOR_HOST_NAME	ホスト マシンの名前。
VMWARE_PROCESSOR_HOST_UUID	ホスト マシンのユニバーサル固有識別子。

メトリック名	説明
VMWARE_PROCESSOR_ELEMENT_NAME	プロセッサのユーザー フレンドリ名。
VMWARE_PROCESSOR_FAMILY	プロセッサ ファミリのタイプ。
VMWARE_PROCESSOR_MODEL	プロセッサの一般名 (モデルタイプ)。
VMWARE_PROCESSOR_CURRENT_CLOCK_SPEED	プロセッサの現在の速度 (MHz)。
VMWARE_PROCESSOR_MAX_CLOCK_SPEED	プロセッサの最大速度 (MHz)。
VMWARE_PROCESSOR_EXTERNAL_BUS_CLOCK_SPEED	外部バス インターフェイス (フロントサイド バス) の速度 (MHz)。
VMWARE_PROCESSOR_STEPPING	プロセッサ ファミリ内でのプロセッサのリビジョン レベル。
VMWARE_PROCESSOR_NUM_ENABLED_CORES	プロセッサで有効になっているプロセッサ コアの数。
VMWARE_PROCESSOR_HEALTH_STATE	プロセッサの現在の正常性。
VMWARE_PROCESSOR_OPERATIONAL_STATUS	プロセッサの現在のステータス。

CODA\\VISPI\\MEMORY_HEALTH

メトリック名	説明
VMWARE_MEMORY_HOST_NAME	ホスト マシンの名前。
VMWARE_MEMORY_HOST_UUID	ホスト マシンのユニバーサル固有識別子。
VMWARE_MEMORY_ELEMENT_NAME	物理メモリのユーザー フレンドリ名。
VMWARE_MEMORY_CAPACITY	物理メモリの合計容量 (バイト)
VMWARE_MEMORY_MAX_MEMORY_SPEED	物理メモリの最大速度 (ナノ秒)。
VMWARE_MEMORY_HEALTH_STATE	物理メモリの現在の正常性。
VMWARE_MEMORY_OPERATIONAL_STATUS	物理メモリの現在のステータス。

CODA\\VISPI\\CHASSIS_HEALTH

メトリック名	説明
VMWARE_CHASSIS_HOST_NAME	ホスト マシンの名前。
VMWARE_CHASSIS_HOST_UUID	ホスト マシンのユニバーサル固有識別子。
VMWARE_CHASSIS_ELEMENT_NAME	シャーシのユーザーフレンドリ名。
VMWARE_CHASSIS_DESCRIPTION	シャーシの説明テキスト。
VMWARE_CHASSIS_UUID	シャーシのUUID。
VMWARE_CHASSIS_MANUFACTURER	シャーシのメーカーの名前。
VMWARE_CHASSIS_MODEL	シャーシの一般名 (モデルタイプ)。
VMWARE_CHASSIS_POWERON_STATUS	シャーシの電源オンステータス。
VMWARE_CHASSIS_HEALTH_STATE	シャーシの現在の正常性。
VMWARE_CHASSIS_OPERATIONAL_STATUS	シャーシの現在のステータス。

VI-IBMHMCDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック

AIX フレームに関連するメトリックを次に示します。

CODA\\VISPI\\FRAME_CONFIGURATION

メトリック名	説明
HMC_NAME	HMC の名前。
FRAME_NAME	フレームの名前。
FRAME_SERIAL_NO	フレームのシリアル番号。
FRAME_MODEL_TYPE	フレームのハードウェアモデルタイプ。
FRAME_IP	フレームのIPアドレス。
FRAME_MEM_CONFIG	フレームで設定可能なメモリの合計。
FRAME_MEM_AVAIL	フレーム上で割り当てられていないメモリの合計。
FRAME_PROC_CONFIG	フレーム上で設定可能なプロセッシングユニットの数の合計。
FRAME_PROC_AVAIL	フレーム上で割り当てられていないプロセッシングユニットの数の合計。

LPAR に関連するメトリックを次に示します。

CODA\\VISPI\\LPAR_CONFIGURATION

メトリック名	説明
HMC_NAME	HMC の名前。
FRAME_NAME	フレームの名前。
FRAME_SERIAL_NO	フレームのシリアル番号。
FRAME_MODEL_TYPE	フレームのハードウェアモデルタイプ。
LPAR_NAME	LPAR の名前。
LPAR_MEM_CONFIG	LPAR に割り当てられているメモリの合計。
LPAR_PROC_CONFIG	LPAR に割り当てられているプロセッシングユニットの数の合計。

ESX、ESXi、または vCenter で動作するポリシー

次の表に、ESX、ESXi、または vCenter で動作するポリシーを示します。

注: ノードへのポリシーの配布は、最初に依存ポリシー、次に実際のポリシーの順にする必要があります。

ポリシー名	vMA 上で設定する必要があるターゲットノードタイプ	説明	依存ポリシー
パフォーマンス ポリシー			
VI-VMware DCDataCollector_ja_JP	vCenter	このポリシーは、VMware データセンターの CPU、メモリ、およびデータストア パフォーマンス データに関するデータを収集し、CODA に記録します。	なし
VI-VMware DCCPUUtilMonitor_ja_JP	vCenter	このポリシーは、VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて、VMware データセンターレベルでの総 CPU 使用率を監視します。	VI-VMware DCDataCollector_ja_JP
VI-VMware DCMemoryUtilMonitor_ja_JP	vCenter	このポリシーは、VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて、VMware データセンターレベルでの総メモリ使用率を監視します。	VI-VMware DCDataCollector_ja_JP
VI-VMware DCDataStoreUtilMonitor_ja_JP	vCenter	このポリシーは、VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて、VMware データセンターレベルでの総データストア (ディスク領域) 使用率を監視します。	VI-VMware DCDataCollector_ja_JP

ポリシー名	vMA 上で設定する必要があるターゲットノードタイプ	説明	依存ポリシー
VI-VmWareGuestCPUEntlUtilMonitor-AT_ja_JP	ESX または ESXi	このポリシーは、VMware ESX/ESXi サーバーの現在の CPU 使用率 (%) を計算します。	なし
VI-VMwareNetifInbyteBaseline-AT_ja_JP	ESX または ESXi	このポリシーは、所定の間隔でネットワークインタフェースの受信バイトまたは受信パケット率を監視します。	なし
VI-VMwareNetifOutbyteBaseline-AT_ja_JP	ESX または ESXi	このポリシーは、所定の間隔でネットワークインタフェースの送信バイトまたは送信パケット率を監視します。	なし
VI-VMwareHostNICMonitor_ja_JP	ESX または ESXi	このポリシーは、各 ESX/ESXi サーバーにインストールされているネットワークインターフェイスカードのパフォーマンスを監視します。	なし
VI-VMwareVMMemoryPerformanceMonitor_ja_JP	ESX または ESXi	このポリシーは、仮想マシンのメモリパフォーマンスを監視します。仮想マシンによって使用されるメモリ容量を、使用権を持つ仮想メモリ容量と比較します。	なし
VI-VMwareHostMemoryHealthMonitor_ja_JP	ESX または ESXi	このポリシーは、VMware ESX/ESXi サーバーのホストマシンの動作状況をメモリ使用率の観点で監視します。これを使用して、ホストコンピュータのメモリの可用性や使用率を監視できます。	なし
VI-VMwareHostsMemoryUtilMonitor-AT_ja_JP	ESX または ESXi	このポリシーは、VMware ESX/ESXi ホストサーバーの下にあるすべてのアクティブな VM による合計ホストメモリ使用率 (サービスコンソールのメモリ使用率も含む) を計算します。	なし
VI-VMwareTotalVMMemoryUtilMonitor_ja_JP	ESX または ESXi	このポリシーは、VMware ESX/ESXi サーバー上にあるすべてのアクティブな VM による合計メモリ使用率 (%) を計算します。	なし
VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP	ESX または ESXi	このポリシーは、Virtual Machine File System (VMFS) のディスク領域使用率、LUN 待ち時間、およびディスクのスループットに関するデータを収集し、CODA に記録します。	なし
VI-VMFSReadLatencyMonitor_ja_JP	ESX または ESXi	このポリシーは、VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて、HPOM コンソールにアラートメッセージを送信します。	VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP

ポリシー名	vMA 上で設定する必要があるターゲットノードタイプ	説明	依存ポリシー
VI-VMFSWriteLatencyMonitor_ja_JP	ESX または ESXi	このポリシーは、VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて、HPOM コンソールにアラートメッセージを送信します。	VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP
VI-VMwareDiskErrorMonitor_ja_JP	ESX または ESXi	このポリシーは、ディスクバスリセット数と終了したディスクコマンド数を監視します。VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて、HPOM コンソールにアラートメッセージを送信します。	なし
VI-VMwareDiskThroughputMonitor_ja_JP	ESX または ESXi	このポリシーは、ディスク読み取りスループット速度とディスク書き込みスループット速度を監視します。VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて、HPOM コンソールにアラートメッセージを送信します。	なし
ハードウェア監視ポリシー			
VI-VMwareHostProcessorHealthMonitor_ja_JP	vCenter	このポリシーは、VI-VMwareHardwareHealthCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて、ホストマシンのプロセッサの正常性を監視します。	VI-VMwareHardwareHealthCollector_ja_JP
VI-VMwareHostPhysicalMemoryHealthMonitor_ja_JP	vCenter	このポリシーは、VI-VMwareHardwareHealthCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて、ホストマシンの物理メモリの正常性を監視します。	VI-VMwareHardwareHealthCollector_ja_JP
VI-VMwareHostEthernetPortHealthMonitor_ja_JP	vCenter	このポリシーは、VI-VMwareHardwareHealthCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて、ホストマシンの Ethernet ポートの正常性を監視します。	VI-VMwareHardwareHealthCollector_ja_JP
VI-VMwareHostFanHealthMonitor_ja_JP	vCenter	このポリシーは、VI-VMwareHardwareHealthCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて、ホストマシンのファンの正常性を監視します。	VI-VMwareHardwareHealthCollector_ja_JP

ポリシー名	vMA 上で設定する必要 があるターゲット ノード タイ プ	説明	依存ポリシー
VI-VMwareHost ChassisHealthMonitor_ja_ JP	vCenter	このポリシーは、VI- VMwareHardwareHealthCollector_ja_JP ポリ シーによって CODA に記録されたデータに基づ いて、ホスト マシンのシャーシの正常性を監視 します。	VI-VMwareHardware HealthCollector_ja_ JP
VI-VMwareHost SensorHealthMonitor_ja_ JP	vCenter	このポリシーは、VI- VMwareHardwareHealthCollector_ja_JP ポリ シーによって CODA に記録されたデータに基づ いて、ホスト マシンのセンサーの正常性を監視 します。	VI-VMwareHardware HealthCollector_ja_ JP
イベント監視ポリシー			
VI-VMware EventMonitor_ja_JP	ESX、ESXi、 または vCenter	このポリシーは、vMA によって管理されている ESX/ESXi ホストまたは vCenter の重要なイベ ントを監視します。	VI-VMware EventTypes_ja_JP

注: コレクタ ポリシーの場合、データは、SCOPE の下でなく DataSource VISPI の下に格納され
ます。

ESX/ESXi または vCenter 用にサポートされているその 他の監視機能

次の表に、ESX/ESXi または vCenter に関して VISPI によってサポートされているその他の監視機能
をまとめます。

VISPI によ ってサポート されている その他の機 能	ESX/ESXi	vCenter
	イベント監視	VmSuspendedEvent:Vm ResumingEvent VmPoweredOffEvent:Vm PoweredOnEvent VmRenamedEvent VmRemovedEvent

VISPI によってサポートされているその他の機能	ESX/ESXi	vCenter
	NotEnoughResourcesToStartVmEvent VmBeingHotMigratedEvent VmDiskFailedEvent VmNoNetworkAccessEvent VmUuidChangedEvent VmUuidConflictEvent VmOrphanedEvent	HostRemovedEvent HostShutdownEvent VmFailoverFailed VmFailedMigrateEvent VmMigratedEvent vCenter から実行される操作は、vCenter を vMA に追加し、イベント監視ポリシーをノードに配布することによって監視できます。
データセンター監視	使用環境で ESX/ESXi しか設定されていない場合、配布する必要はありません。	1 つの vCenter の下に複数のデータセンターがある可能性があるため、個々の VMware データセンターレベルの CPU、メモリ、およびデータストアパフォーマンスデータを監視します。

